

原子力発電所の環境放射能測定結果

(令和 7 年度 第 3 四半期)

(案)

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

目 次

第1	測定結果の概要	1
第2	測定項目	11
第3	測定方法	15
第4	測定結果	19
1.	空間放射線	19
2.	環境試料	21
第5	原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表	25
	福島第一原子力発電所	
1.	空間放射線	25
2.	環境試料	27
	福島第二原子力発電所	
1.	空間放射線	30
2.	環境試料	32
	添付資料	
	放射性廃棄物管理状況及び試料採取時の付帯データ	35
	福島第一原子力発電所	
	放射性廃棄物管理状況	36
	試料採取時の付帯データ	39
	福島第二原子力発電所	
	放射性廃棄物管理状況	42
	試料採取時の付帯データ	44
	空間線量率等の変動グラフ	47
	〈参考〉地下水バイパス及びサブドレン他浄化設備の処理済水の評価，排水毎の運用目標値 ALPS処理水の評価，運用の上限値	70
	〈参考〉福島第一原子力発電所敷地境界近傍ダストモニタ指示値	81
	〈参考〉福島第一原子力発電所油処理装置排気口の採取方法について	82

第1 測定結果の概要

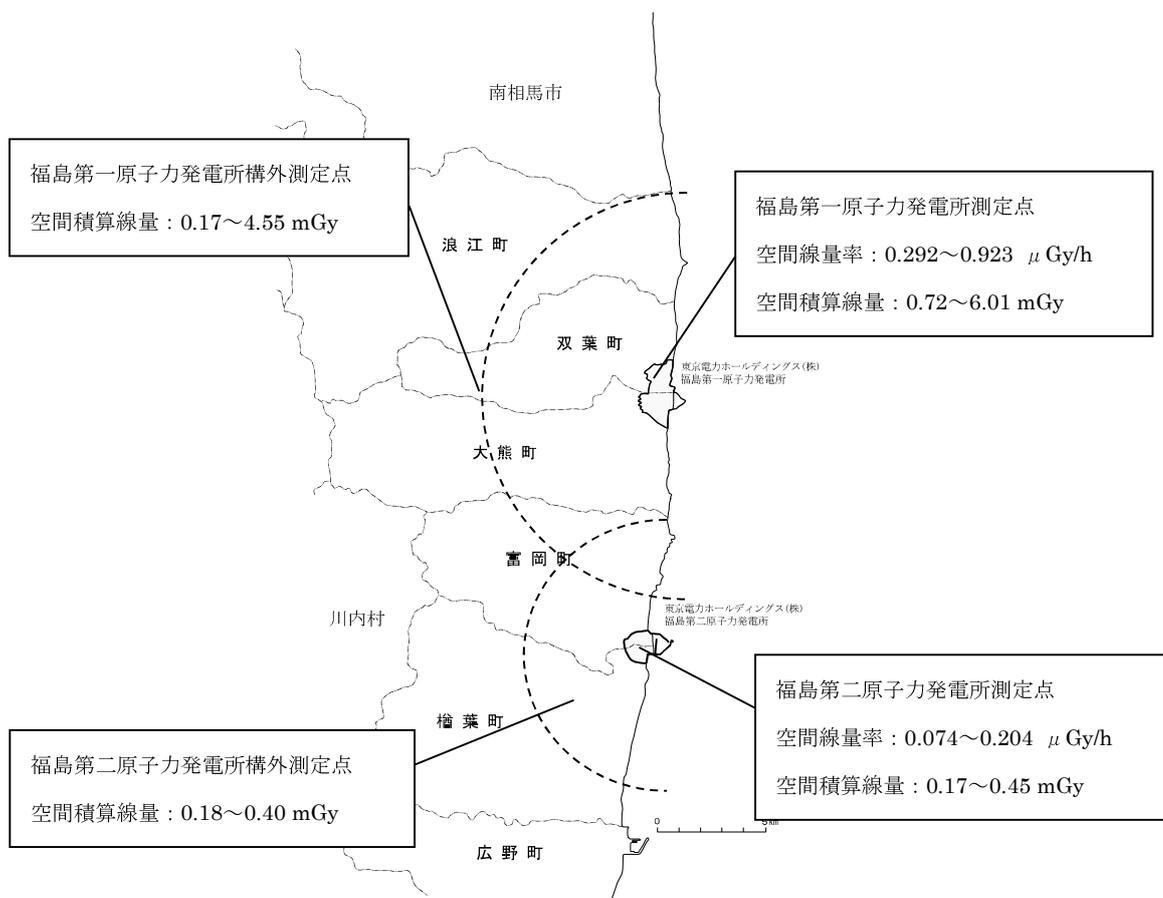
東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所が、令和7年度第3四半期(10月～12月)に実施した原子力発電所周辺の環境放射能測定結果は以下に示すとおりであり、福島第一原子力発電所の事故による影響を受けた空間線量率については事故前の測定値の範囲を上回り、環境試料については一部を除いて事故前の測定値の範囲を上回っておりますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

1 空間放射線

○空間線量率については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値(月間平均値 $0.074\sim 0.923\ \mu\text{Gy/h}$)は、事故前の測定値の範囲(月間平均値 $0.031\sim 0.049\ \mu\text{Gy/h}$)を上回っていますが、概ね前四半期と同程度の値となりました。

○空間積算線量(90日換算値)については、福島第一原子力発電所及び福島第二原子力発電所ともに、今期の測定値($0.17\sim 6.01\text{mGy}$)は、事故前の測定値の範囲($0.10\sim 0.16\text{mGy}$)を上回っていますが、年月の経過とともに減少する傾向にありました。

※今期の空間線量率及び空間積算線量の範囲



2 環境試料の核種濃度

- 大気浮遊じん，土壌，海水，海底土，松葉について，福島第一原子力発電所で17試料，福島第二原子力発電所で17試料について，核種濃度の調査を実施しました。

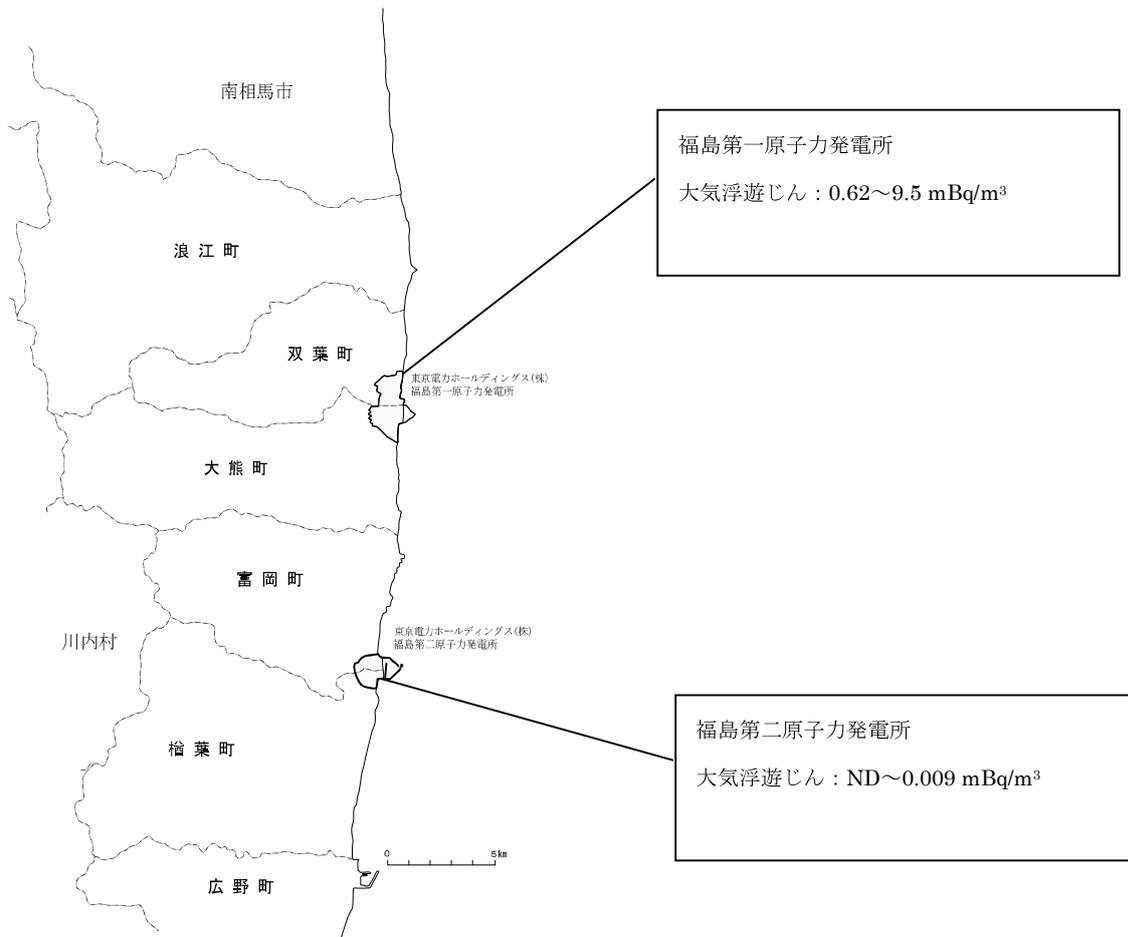
福島第一原子力発電所については，すべての試料からセシウム-137が検出され，海水，海底土，大気浮遊じんの一部を除くすべての試料からセシウム-134が検出されましたが，事故直後と比較すると低下しており，前四半期と比較すると概ね横ばい傾向にあります。

福島第二原子力発電所については，大気浮遊じん，松葉の一部を除く試料から，セシウム-137が検出され，土壌のすべて試料からセシウム-134が検出されましたが，事故直後と比較すると低下しており，前四半期と比較すると概ね横ばい傾向にあります。

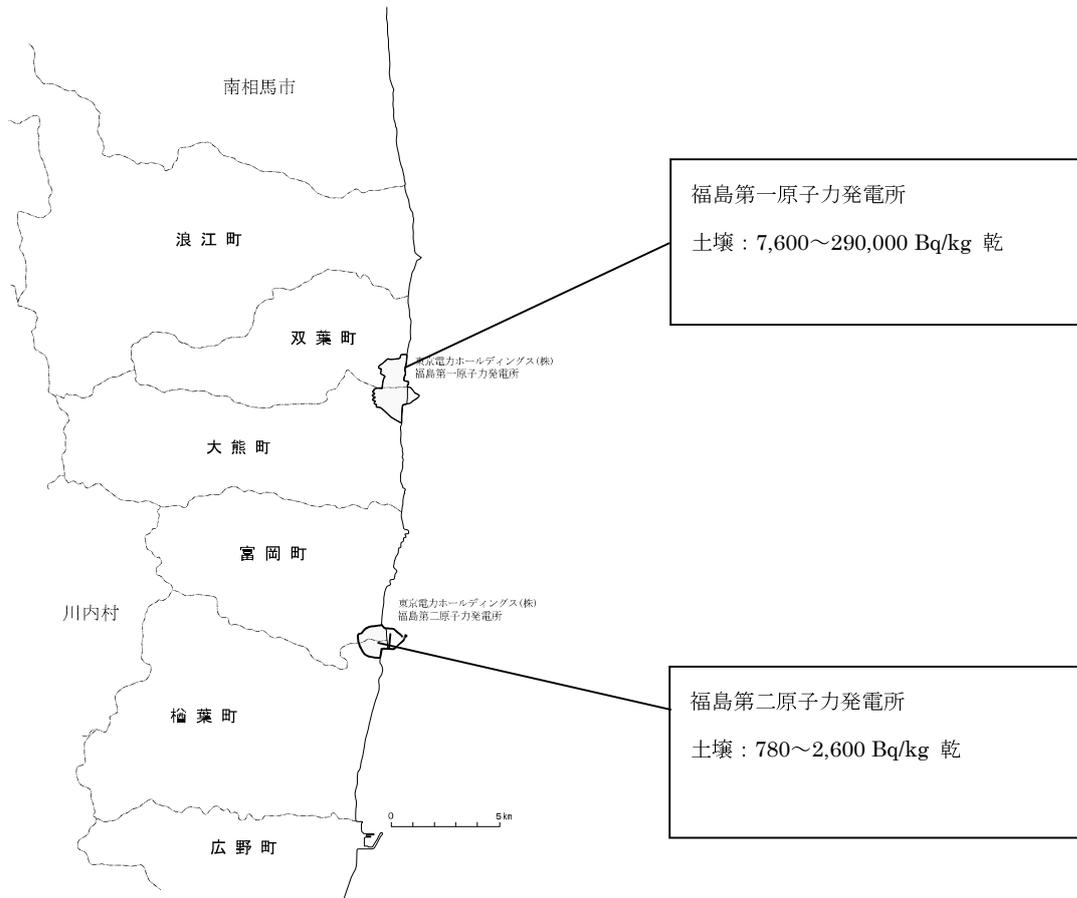
- 海水について，福島第一原子力発電所の3試料及び福島第二原子力発電所の3試料でトリチウムの調査を実施しました。

福島第一原子力発電所の3試料，福島第二原子力発電所の2試料から，トリチウムが検出されました。ALPS処理水の海洋放出による変動の可能性が考えられますが，WHOの飲料水ガイドラインレベル（10,000Bq/L）を下回っています。

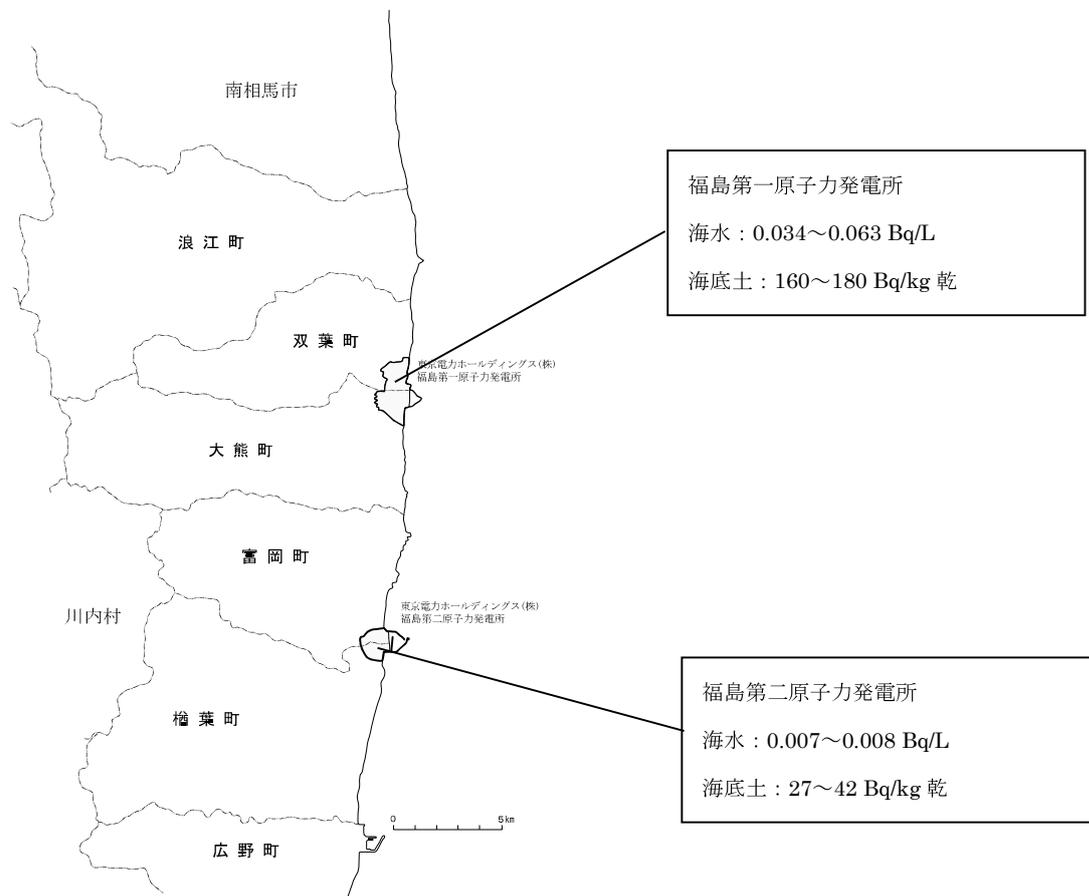
※今期の大気浮遊じんのセシウム-137の範囲



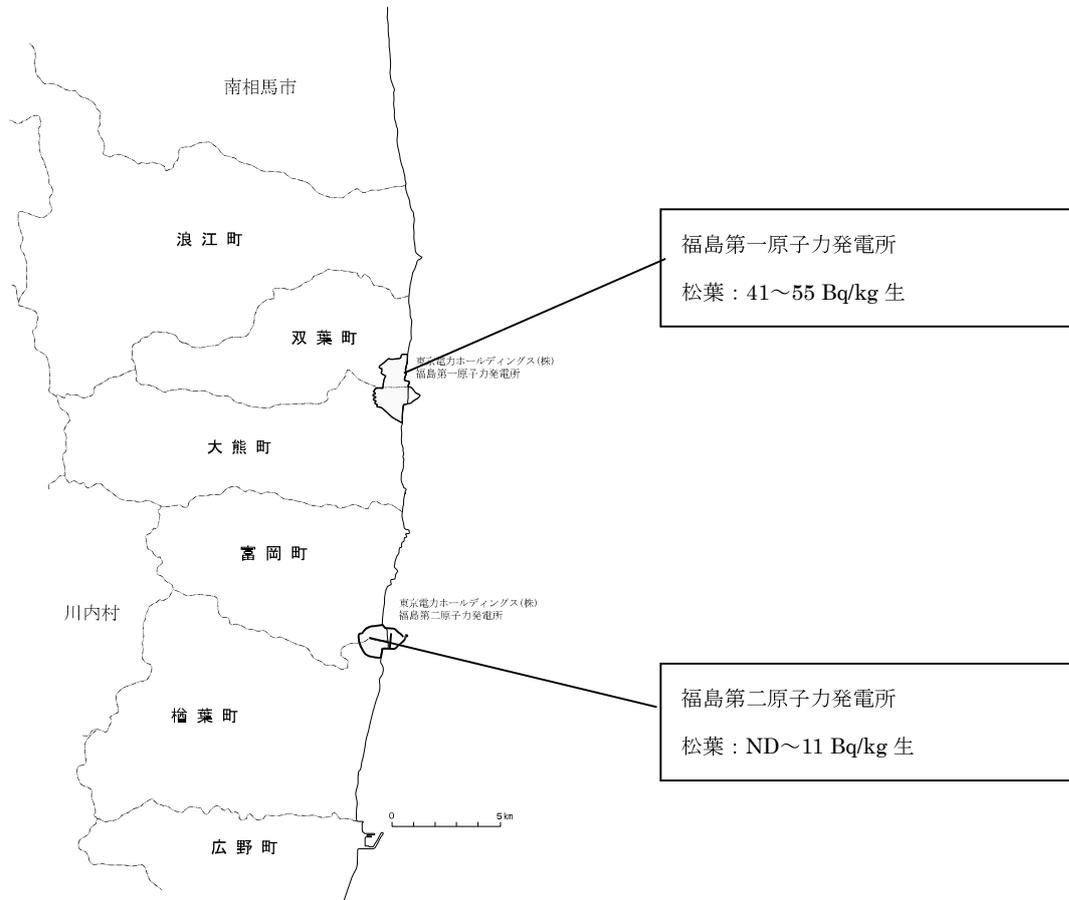
※ 今期の土壌のセシウム-137 の範囲



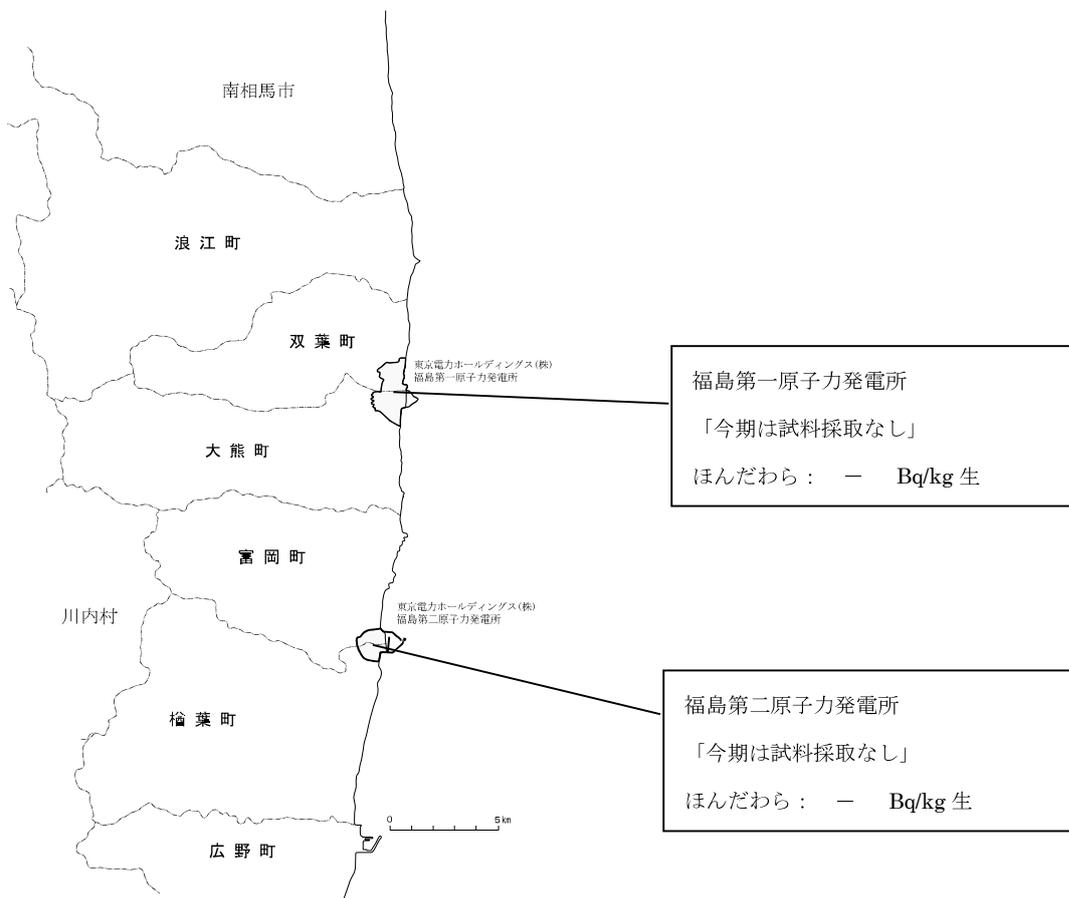
※今期の海水及び海底土のセシウム-137 の範囲



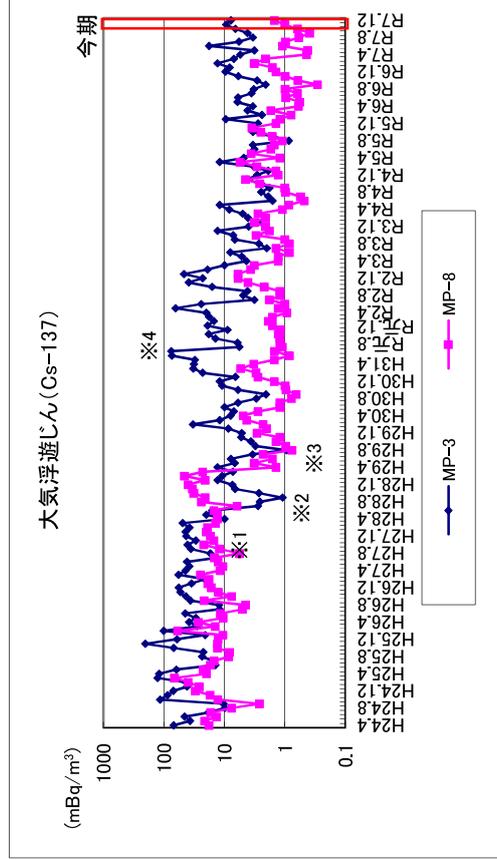
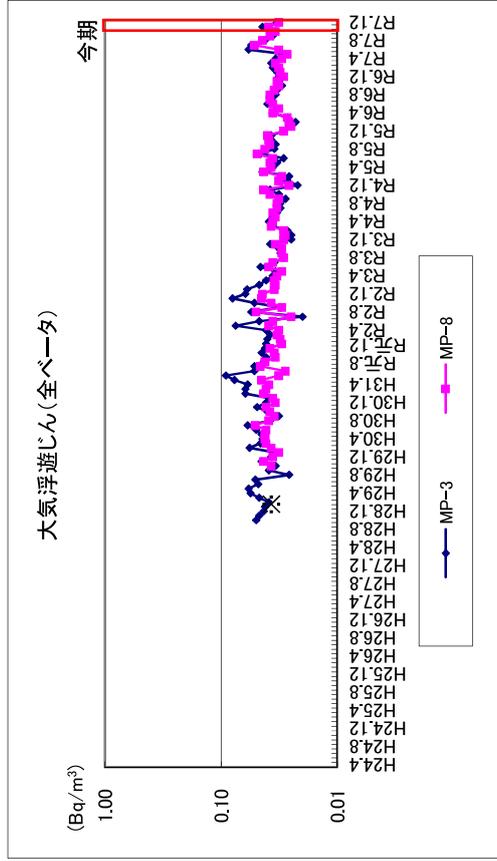
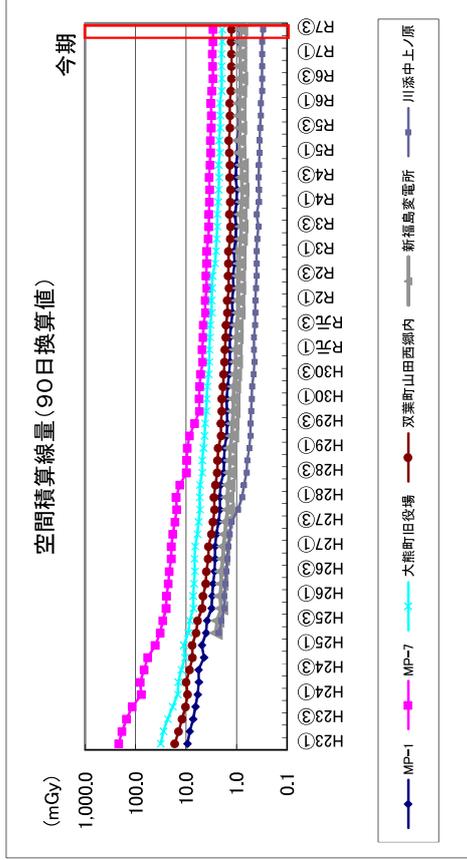
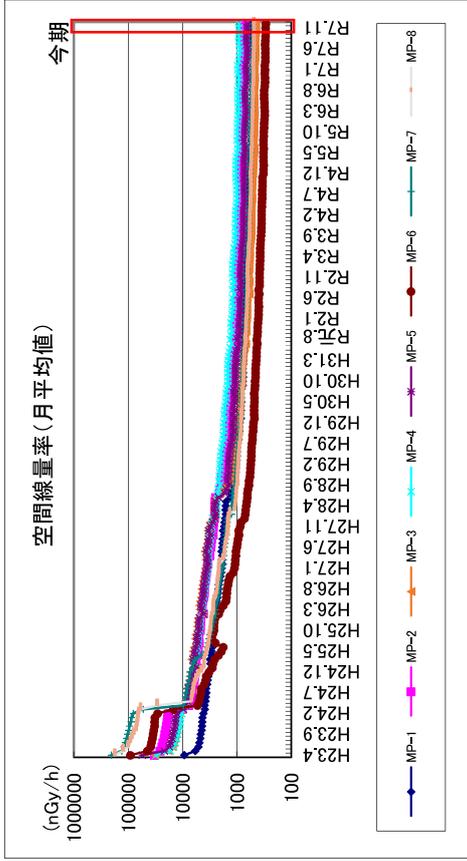
※今期の松葉のセシウム-137 の範囲



※今期のほんだわらのセシウム-137 の範囲



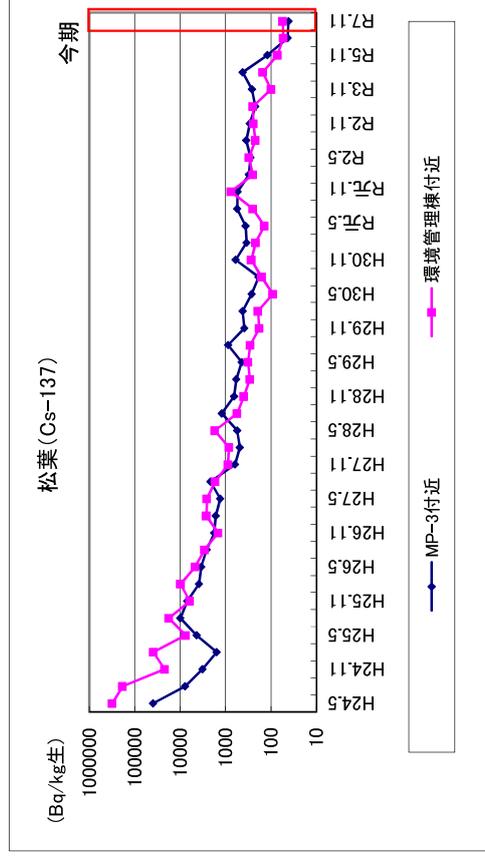
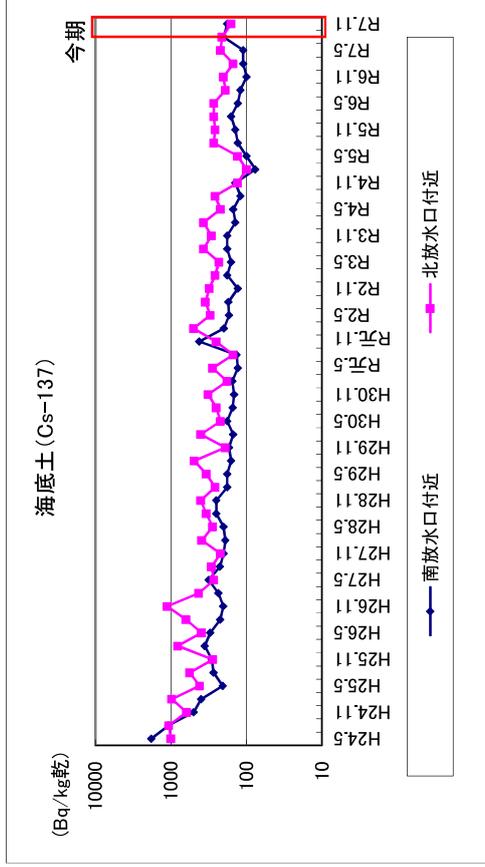
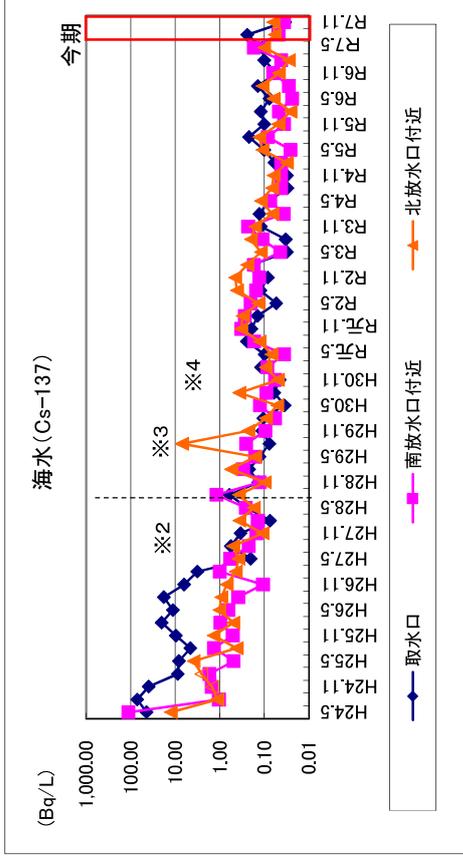
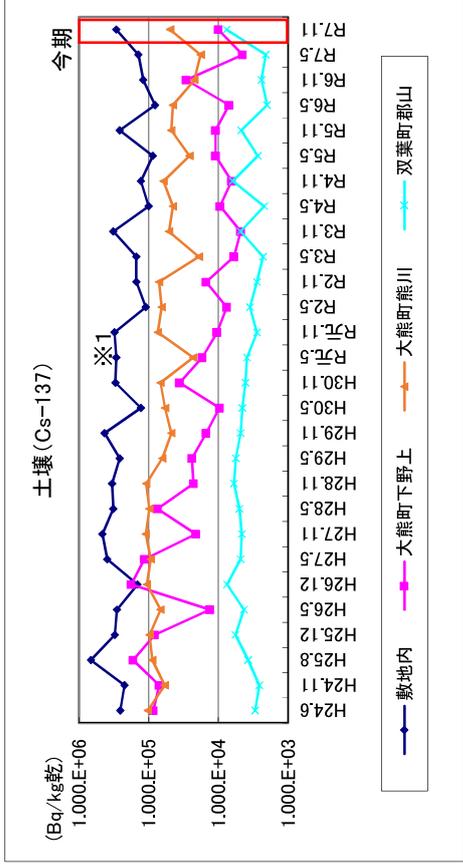
福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/3)



※MP-3は H28年10月より、MP-8はH29年10月より運用開始した。

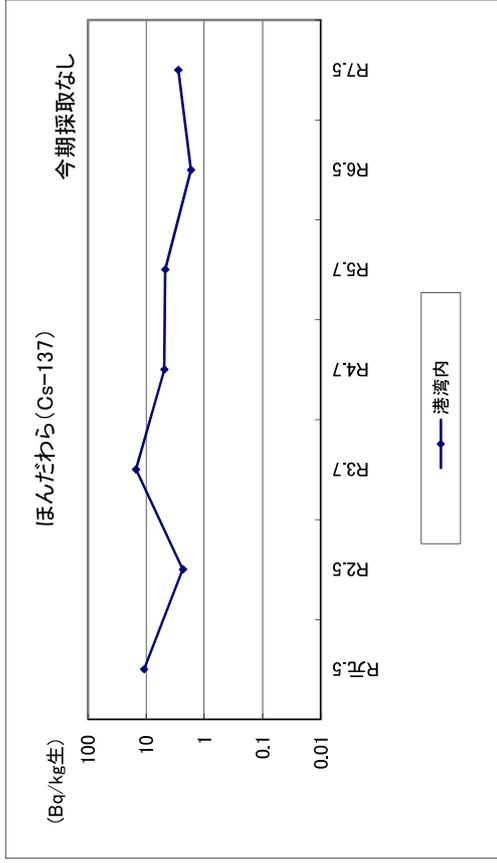
- ※1: MP-3で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の取り替えによる低下(H28年3月完了)
 - ※2: 降雨により地表面からの大気浮遊じんの拡散が抑制されたことによる低下
 - ※3: MP-8で機器本体の除染及び検出器並びに吸入配管等の取り替えによる低下(H29年3月完了)
 - ※4: MP-3については中間貯蔵施設関連作業等の影響による周辺土壌の舞い上がりによる上昇
- 注): 機器本体や配管の除染・取り替えまでの期間は、事故時に付着した放射性物質が徐々に剥離し、検出部で計数された影響で大気浮遊じん濃度が高く推移したものと推測した。

福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/3)

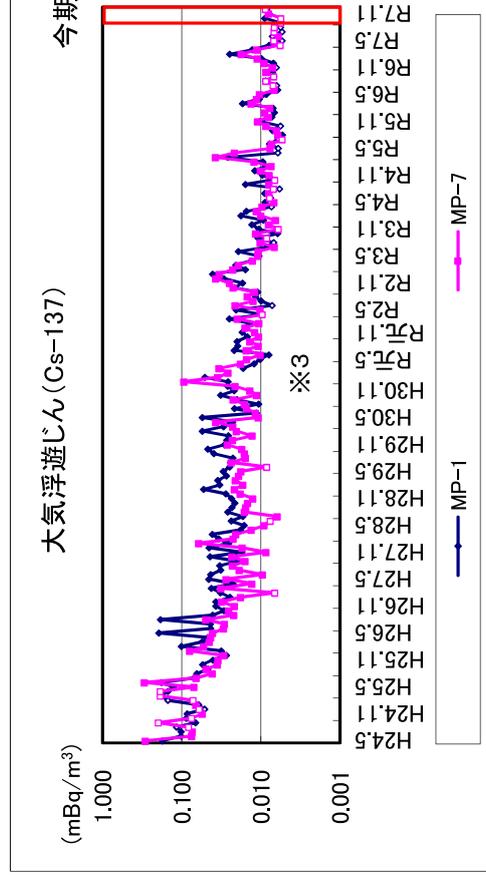
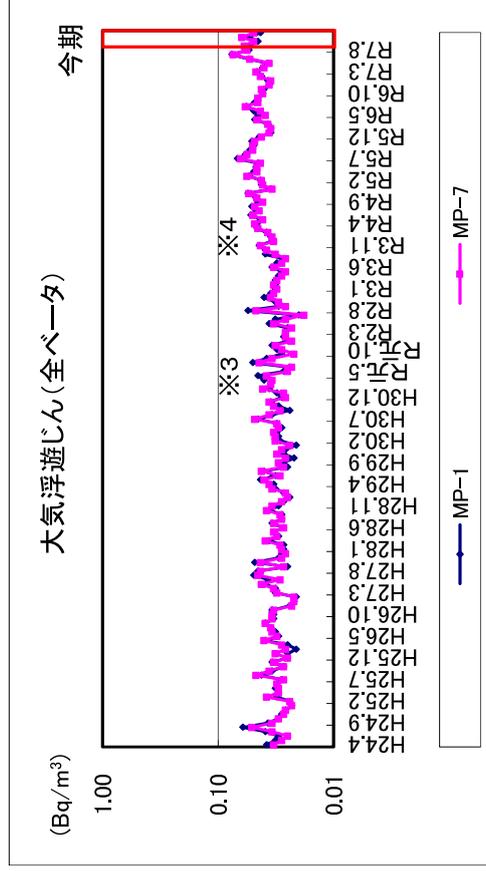
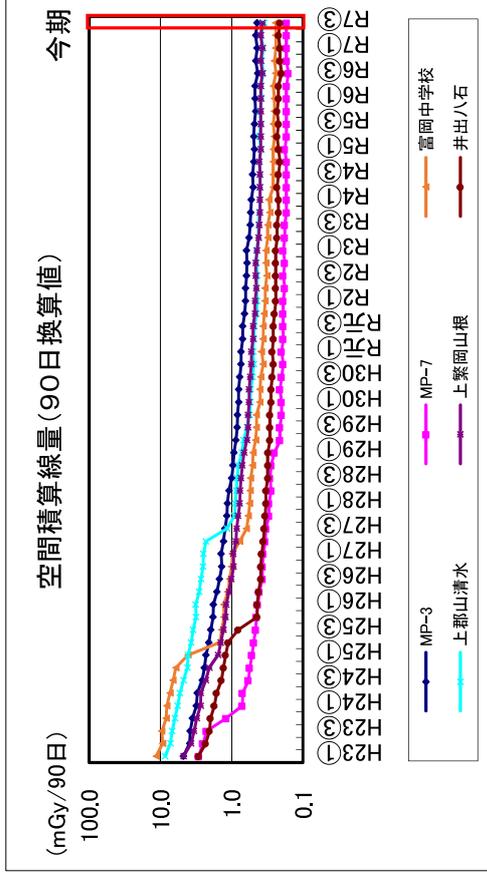
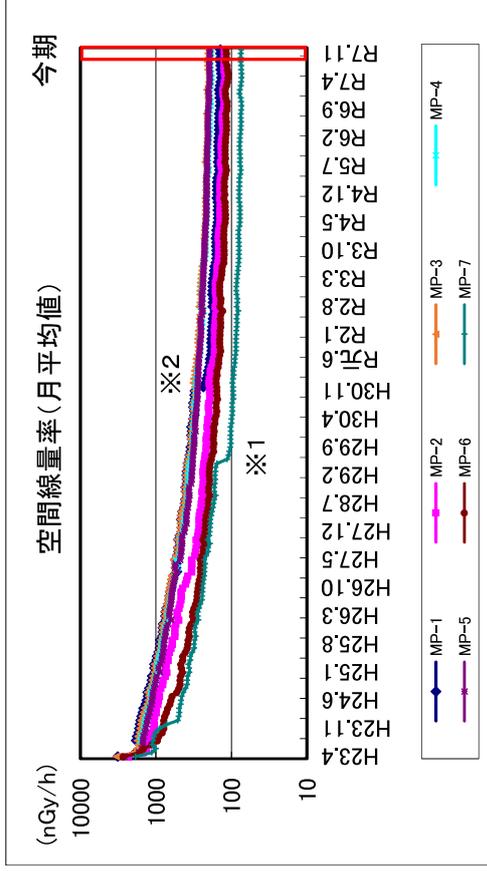


- ・白抜きのプロットは検出限界未満であるため、検出限界値をプロットしている。
- ・海水については、事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。
- ※1: 熊川、郡山地点は国の中間貯蔵施設対象区域となったことにより採取箇所変更 (R元年第1四半期より)
- ※2: 取水口・採取地点変更 (港湾中央→港湾口 : H27.5)
- ※3: 海水については、前回値より上昇が見られますが、試料採取日の前日までの降雨に伴う影響と考えます。(H28.9)
- ※4: 海水については、前回値より上昇が見られますが、試料採取日の当日の降雨に伴う影響と考えます。(H29.8)

福島第一原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(3/3)

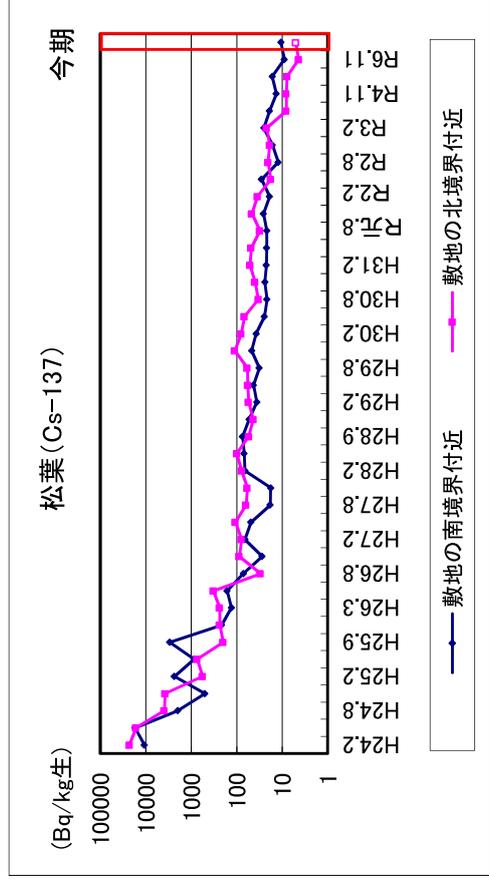
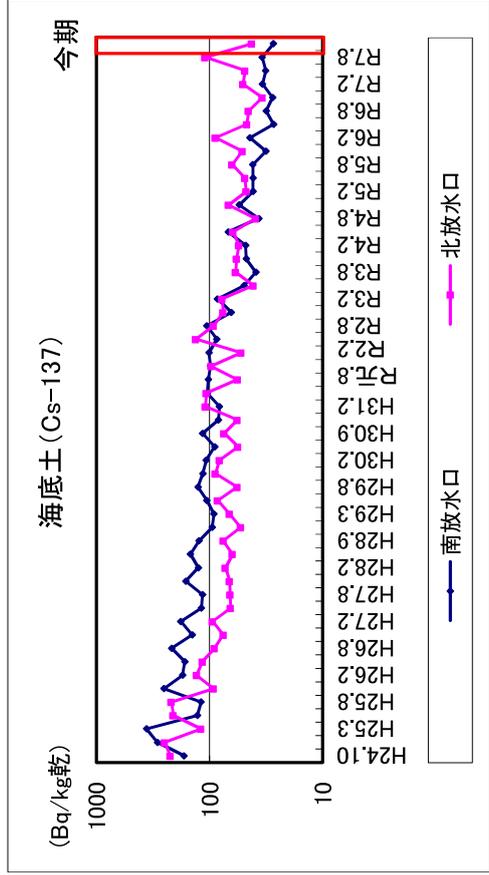
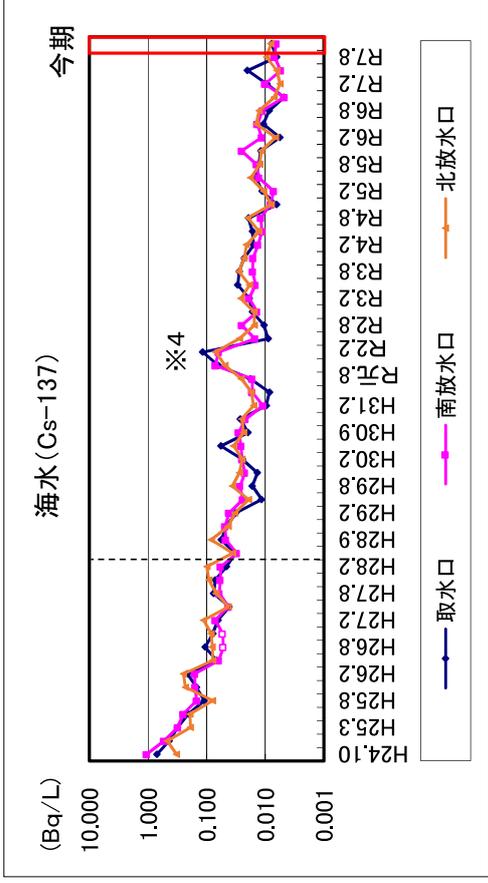
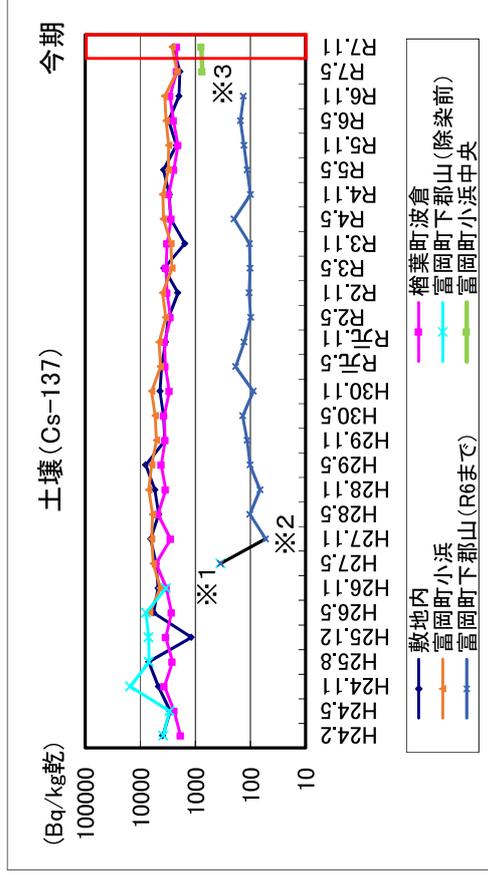


福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(1/3)



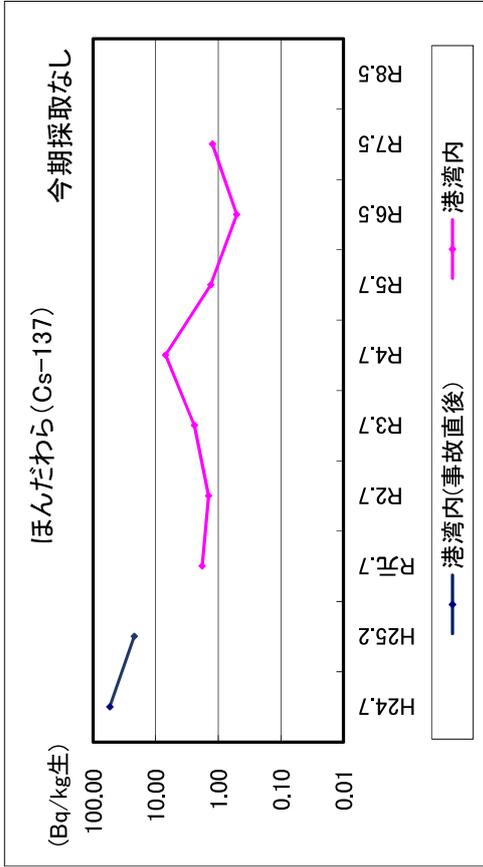
- ・抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
- ※1: MP-7へのアクセス道路及び法面の造成工事による減少。
- ※2: MP-1近傍への大気浮遊じん採取用の局舎設置工事に伴う、伐採・掘削等による減少。
- ※3: 局舎移設工事に伴う欠測。
- ※4: 令和3年9月にダストモニタ更新に伴う校正線源変更を行ったことにより、以降は機器効率の違いにより、従来の測定結果より高い値となっている。

福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(2/3)



- ・白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
- ・海水については、事故後は緊急時の簡易法で分析しており検出限界値が高かったが、平成28年4月(点線)から分析方法を従来の方法に戻し、検出下限値が低下。
- ※1: 富岡町下郡山地点の除染作業に伴う、表土剥ぎ取りによる減少。(参考値)
- ※2: 富岡町下郡山地点の表土剥ぎ取り後の盛土による減少。
- ※3: 富岡町下郡山から富岡町小浜中央に地点変更。
- ※4: 採取前の降雨に伴う、河川からの流入量増加による指示値の変動。

福島第二原子力発電所 環境モニタリングトレンドグラフ(3/3)



第 2 測 定 項 目

福 島 第 一 原 子 力 発 電 所 測 定 分

(令和7年10月～令和7年12月)

1 測定項目

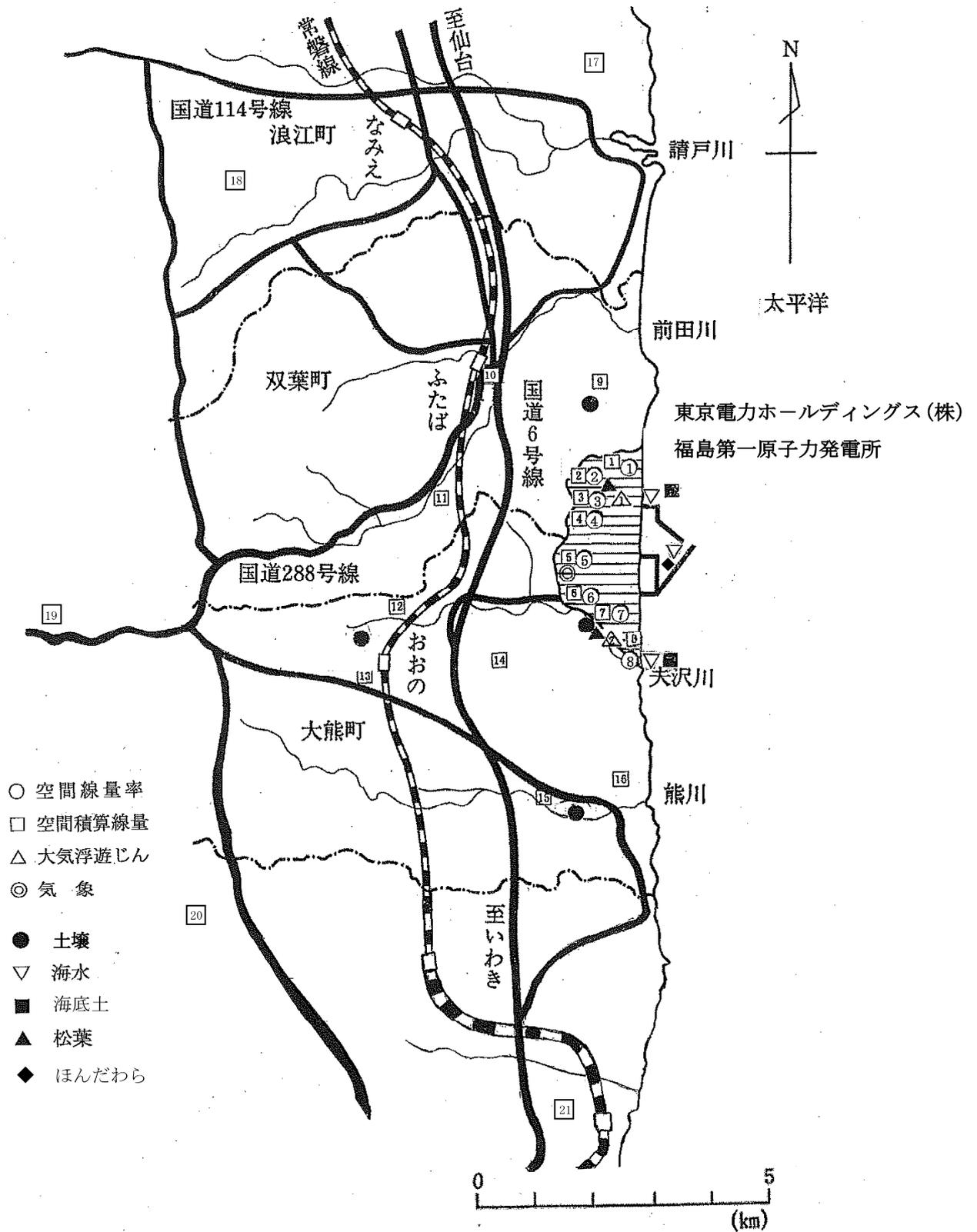
(1) 空間放射線

項 目	地点数	測 定 頻 度	実施機関
空 間 線 量 率	8	連 続	東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
空 間 積 算 線 量	21	3カ月積算	

(2) 環境試料

区 分	試 料 名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測 定 試 料 数							実施機関	
					γ	³ H	⁹⁰ Sr	²³⁸ Pu	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu	²⁴¹ Am	²⁴⁴ Cm		
大 気 浮 遊 じ ん	大 気 浮 遊 じ ん	2	毎月	3	6								東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所
土 壌	土 壌	4	年2回	1	4								
海 水	海 水	3	年4回	1	3	3							
海 底 土	海 底 土	2	年4回	1	2								
指 標 植 物	松 葉	2	年1回	1	2								

福島第一原子力発電所 環境モニタリング地点図



福島第二原子力発電所測定分

(令和7年10月～令和7年12月)

1. 測定項目

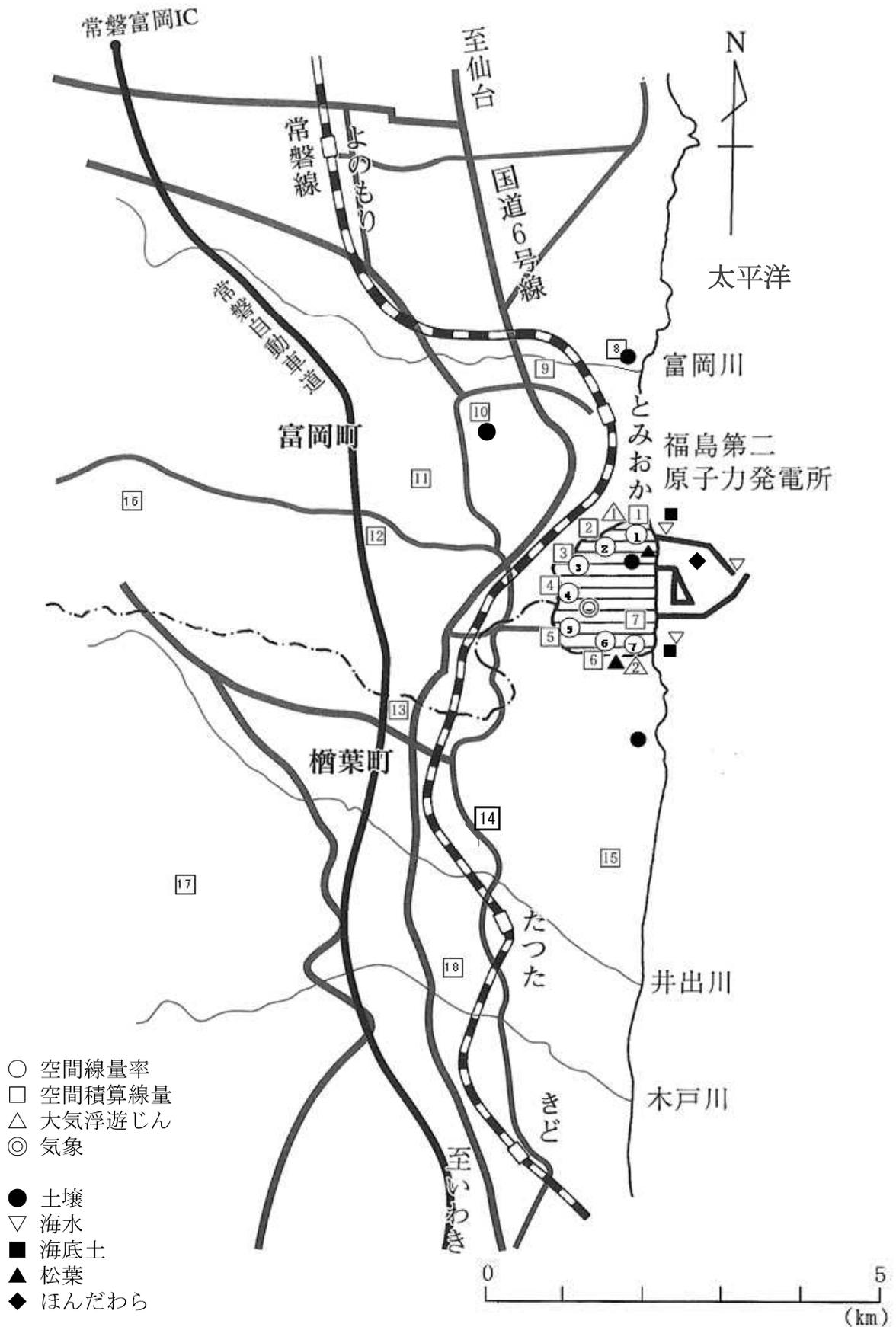
(1)空間放射線

項目	地点数	測定頻度	実施機関
空間線量率	7	連続	東京電力ホールディングス(株) 福島第二原子力発電所
空間積算線量	18	3カ月積算	

(2)環境試料

区分	試料名	地点数	採取頻度	採取回数 (今期)	測定試料数						実施機関	
					γ	^3H	^{90}Sr	^{238}Pu	$^{239+240}\text{Pu}$	^{241}Am		^{244}Cm
大気浮遊じん	大気浮遊じん	2	毎月	3	6							東京電力ホールディングス (株) 福島第二 原子力発電所
土壌	土壌	4	年2回	1	4							
海水	海水	3	年4回	1	3	3						
海底土	海底土	2	年4回	1	2							
指標植物	松葉	2	年1回	1	2							

福島第二原子力発電所 環境モニタリング地点図



第 3 測 定 方 法

福島第一原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：アルゴンガス封入式球形電離箱 (富士電機, 高純度アルゴンガス8気圧140) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Cs-137
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」 (平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境	大気浮遊全アルファ及び全ベータ放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m ³ /6時間 検出器：ZnS(Ag)シンチレータとプラスチックシンチレータのほり合わせ検出器 (Aloka ADC-121R2) 採取位置：地表上約3m 校正線源：U ₃ O ₈ 、Am-241
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
試料	トリチウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和5年改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(令和7年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析
アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年制定) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関(株)化研にて分析	

福島第二原子力発電所測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	空間線量率	モニタリングポスト	検出器：2"φ×2"NaI (Tl) シンチレーション検出器 (富士電機, 温度補償・エネルギー補償回路付) 測定位置：地表上約1.6m 校正線源：Cs-137及びRa-226
	空間積算線量	蛍光ガラス線量計	測定法：文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年制定) 検出器：蛍光ガラス線量計, 旭テクノグラス SC-1 測定器：旭テクノグラス FGD-202 測定位置：地表上約1m 校正線源：Cs-137
環境試料	大気中の浮遊放射能	ダストモニタ	測定法：6時間連続集じん, 6時間放置後全アルファ及び全ベータ放射能を同時測定 集じん法：ろ紙ステップ式, 使用ろ紙：HE-40T 吸引量：約90m ³ /6時間 検出器：プラスチックシンチレーターにZnS (Ag)を吹き付け塗布した検出器 (HITACHI ADC-7221) 採取位置：地表上約3m 校正線源：Am-241及びC1-36
	核種濃度	Ge半導体検出装置	測定法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) 大気浮遊じんは1カ月の集じんろ紙をU8容器に入れ測定。 土壌・海底土は乾燥後に測定。 松葉(指標植物)は生試料により測定。 海水は, リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガン共沈法で処理後測定。 ほんだわら(指標海洋生物)は乾燥試料により測定。 測定器：Ge半導体検出器 (ORTEC GEM35-76-LB-A-S型) 波高分析器 (SEIKO EG&G MCA-7シリーズ(4096ch))
	トリチウム濃度	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測定法：原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和5年改訂) 海水のトリチウムは蒸留後測定。 測定器：ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置 (Aloka LSC-LB7型)
	ストロンチウム-90濃度	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	測定法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」のうちイオン交換法(令和7年改訂) 測定器：ローバックグラウンドガスフロー計数装置 (Aloka LBC-4202B型) 校正線源：Sr-90
	プルトニウム-238 プルトニウム-239+240濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「プルトニウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年改訂) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析
アメリカシウム-241 キュリウム-244濃度	シリコン半導体検出器	測定法：文部科学省編「アメリカシウム分析法」のうちイオン交換法(平成2年制定) 測定器：ORTEC Alpha Duo 第三者機関((株)化研)にて分析	

環境試料放射能測定方法詳細一覧表
(Cs-134, Cs-137・ストロンチウム-90・
プルトニウム-238, 239+240・アメリシウム-241・キュリウム-244)

項目	試料名 核種	大気浮遊じん		土壌				
		Cs-134, Cs-137	Cs-134, Cs-137	Sr-90	Pu-238	Pu-239+240	Am-241	Cm-244
試料採取	採取方法	ダストモニタによる連続採取 ・採取位置: 地表上約3m		採取は採取器などを用い、裸未耕土の表層深さ(0mmから50mm)から一地点あたり5~6箇所より、採取する。				
	採取容器等	ろ紙(HE-40T)		採土器				
	採取量	11,000m ³ 程度		福島第一: 1.0kg程度 福島第二: 3kg程度				
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	なし		なし				
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	試料毎に分けて採取している。		福島第一 採土器を地点毎に用意し、使用している。 福島第二 採土器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。				
前処理	方法	1ヶ月分の集じんろ紙の集じん箇所を打ち抜き型を用いて打ち抜き、U8容器に収納する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	50φミリの円の中心から47φミリの打ち抜き、88.3%を採取する。ろ紙には均一に採取されている。						
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち抜きに使用する器具は、地点ごとに分けて使用している。 ・U8容器は、新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。 						
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	シリコン半導体検出器			
	測定試料状態	生	乾土	鉄共沈物	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)	イオン交換分離溶液 (電着用試料)
	測定容器	U8容器	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)	電着板 ステンレス鋼製(35mmφ)
	供試料量	測定吸気量: 約90m ³ /6h (ろ紙枚数: 約124枚)	約100g	100g	約50g			
	測定時間	80,000秒	福島第一 (敷地内) 1,000秒 (その他) 3,600秒 福島第二 3,600秒	3,600秒	80,000秒			
	測定下限値	福島第一 Cs-134: 0.0062~0.013mBq/m ³ Cs-137: 0.0060~0.013mBq/m ³ 福島第二 Cs-134: 0.0052~0.0076mBq/m ³ Cs-137: 0.0050~0.0077mBq/m ³	福島第一 Cs-134: 39~110Bq/kg乾 Cs-137: 40~110Bq/kg乾 福島第二 Cs-134: 2.6~7.0Bq/kg乾 Cs-137: 2.8~7.8Bq/kg乾	福島第一 0.19~0.20Bq/kg乾 福島第二 0.19~0.21Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.014Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.014Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.013Bq/kg乾	福島第一 0.011~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.011~0.014Bq/kg乾	福島第一 0.012~0.013Bq/kg乾 福島第二 0.009~0.017Bq/kg乾
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的なGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。						
	使用線源	Co-58.60, Mn-54, Ba-133, Cs-137	Co-58.60, Mn-54, Ba-133, Cs-137	Sr-90	Pu-242	Pu-242	Am-243	Am-243
校正	線源校正頻度	日本アイソトープ協会製のJCSS校正証明書付きの標準線源を使用している。 これによりトレーサビリティを担保している。		NIST証明書付の標準溶液を使用している。		Dakks証明書付の標準溶液を使用している。		
	BG測定頻度	1回/月 200,000秒	福島第一 1回/月 50,000秒 福島第二 1回/月 200,000秒	測定の都度	本業務開始前及び1回/月	本業務開始前及び1回/月	本業務開始前及び1回/月	
	備考	【福島第一】平成29年9月より測定時間変更(3600秒→80000秒)	【福島第一、福島第二】平成26年度より乾燥機での前処理を再開	【福島第一、福島第二】平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】平成26年度より測定を開始			

項目	試料名 核種	海水			海底土		松葉	ほんだわら
		Ce-134, Ce-137	H-3	Sr-90	Ce-134, Ce-137	Sr-90	Ce-134, Ce-137	Ce-134, Ce-137
試料採取	採取方法	採取地点で表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、2Lポリ容器に分取する。	表面水をポリ容器に汲み取り攪拌し、20Lキュービテナー容器に分取する。	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点で波打ち際の海砂をスコップ等により、ビニール袋に採取する。	採取地点付近にある樹木より2年葉を採取する。	採取地点付近にあるほんだわらを採取する。 (種類:ほんだわら又はまめだわら)
	採取容器等	キュービテナー	ポリビン	キュービテナー	ビニール袋	ビニール袋	ビニール袋	ビニール袋
	採取量	40L	2L	40L	1kg程度	1kg程度	0.1kg程度	2kg程度
	現場での前処理 (酸などの薬品添加を実施しているか)	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	海水1Lに対し1mLの濃塩酸を添加	なし	なし	なし	なし
	採取器具のコンタミ防止 (試料採取器具を適切に使用しているか)	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	採取容器については、採取地点毎に新品の容器を使用し、試料水にて共洗いを実施している。	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	福島第一探泥器は地点毎に用意し、使用している。 福島第二探泥器は共用している。なお、採取の都度、洗浄を行っている。	採取地点毎に新品の袋に採取している。	新品の袋に採取している。
前処理	方法	リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガ共沈法	減圧蒸留法	イオン交換法	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分する。	105℃に調整した乾燥機で乾燥し放冷し、インクリメント縮分方法により縮分した試料を用いてイオン交換法。	はさみを使用し、細かく切断しU8容器に収納する。 (灰化せず生状態で測定)	・ほんだわらを水洗いし、虫やゴミ等を除去する。 ・洗濯ネットに入れ、洗濯機で脱水する。
	分取、縮分の代表性 (高濃度試料分析の際に、試料を分取して測定している場合)	20Lキュービテナー2本から15Lずつ分取。	1Lポリビンより上澄水100mLを分取。	20Lキュービテナー2本全量使用。	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	1地点当たり数箇所から採取した試料を混合し、さらに、その試料から均等に分取している。(インクリメント縮分法)	採取した約100gの松葉から、U8容器に40gを分取している。	・脱水後、ほんだわらをステンレスバットに500g相当を入れ105℃で一晩乾燥する。 ・乾燥ほんだわらをミキサーで粉碎しU8容器に充填する。 【試料は複数の個体から少量ずつ分取し、はさみで切る。その後十分混合してから定量を各容器に充填する。】
	前処理でのコンタミ防止とその確認法	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料の前処理前に、使用する器具の洗浄と乾燥を実施している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、ステンレス皿は新品を使用している。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・試料毎に、U8容器は新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。	・U8容器は、新品を使用しラッピングしている。 ・定期的に、施設の汚染確認を行い、問題ないことを確認している。
測定	測定装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンド液体シンチレーション検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置	ローバックグラウンドガスフロー計数装置	Ge半導体検出装置	Ge半導体検出装置
	測定試料状態	リンモリブデン酸アンモニウムと二酸化マンガンの混合物	液体シンチレーション混合物	鉄共沈物	乾土	鉄共沈物	生	乾燥物
	測定容器	U8容器	100mLバイアル	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	ステンレス皿(25mmφ)	U8容器	U8容器
	供試料量	約30L	50mL	40L	約100g	100g	約40g	約500g
	測定時間	80,000秒	30,000秒	3,600秒	80,000秒	3,600秒	10,000秒	80,000秒
	測定下限値	福島第一 Ce-134:0.0013~0.0017Bq/L Cs-137:0.0012~0.0016Bq/L 福島第二 Ce-134:0.0013~0.0018Bq/L Cs-137:0.0012~0.0016Bq/L	福島第一 0.29~0.37Bq/L 福島第二 0.29~0.35Bq/L	福島第一 0.00042~0.00049Bq/L 福島第二 0.00049~0.00050Bq/L	福島第一 Cs-134:0.50~0.72Bq/kg乾 Cs-137:0.54~0.79Bq/kg乾 福島第二 Cs-134:0.58~0.74Bq/kg乾 Cs-137:0.56~0.68Bq/kg乾	福島第一 0.18Bq/kg乾 福島第二 0.19Bq/kg乾	福島第一 Ce-134:4.2~5.8Bq/kg生 Cs-137:5.5~6.2Bq/kg生 福島第二 Cs-134:3.5~3.7Bq/kg生 Cs-137:3.3~4.1Bq/kg生	福島第一 Ce-134:0.12Bq/kg生 Cs-137:0.13Bq/kg生 福島第二 Ce-134:0.19Bq/kg生 Cs-137:0.16Bq/kg生
	測定におけるコンタミ防止とその確認法	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	試料毎に新品のバイアル瓶を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	試料毎に新品のステンレス皿を使用し、検出器の汚染については、測定時にBG測定を行っている。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。	定期的にGe半導体検出器においてBG測定を行い、汚染のないことを確認している。
校正	使用線源	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	H-3	Sr-90	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Sr-90	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137	Co-58.60,Mn-54, Ba-133,Cs-137
	線源校正頻度	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (1年毎)メーカー一点検時に密封線源にて効率確認。	(納入時)メーカーにて効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。	(納入時)体積線源で幾何効率校正。コイン線源で計数効率校正。 (半年毎)コイン線源で計数効率校正。
	BG測定頻度	1回/月 200,000秒	測定の都度	測定の都度	1回/月 200,000秒	測定の都度	福島第一 1回/月 50,000秒 福島第二 1回/月 200,000秒	1回/月 200,000秒
備考	【福島第一、福島第二】 平成28年第1四半期より前処理を再開(マリネリー-リンモリブデン酸アンモニウム法及び二酸化マンガ共沈法)	-	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】 平成26年度より乾燥器での前処理を再開及び測定時間変更(3600秒→6000秒)	【福島第一、福島第二】 平成25年度より測定を再開	【福島第一、福島第二】 平成29年第1四半期より測定時間変更(3600秒→10000秒)	令和元年度より測定を再開	

第 4 測 定 結 果

1. 空間放射線

(1) 空間線量率

東京電力ホールディングス（株）福島第一原子力発電所敷地境界 8 地点，福島第二原子力発電所敷地境界 7 地点で電離箱検出器または NaI シンチレーション検出器により空間線量率を常時測定しました。

各地点の測定結果は以下のとおりです。

詳細な測定値は，福島第一25ページ，福島第二30ページを参照

ア. 月間平均値

各測定地点における月間平均値は，全ての地点において福島第一原子力発電所の事故（以下「事故」という。）の影響により，依然として事故前の月間平均値を上回っています。また，降雨等の影響による線量率の変動が見られますが，概ね前四半期と同程度の値となっています。

空間線量率の月間平均値

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値			
		10 月	11 月	12 月	R4～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	293～ 899	295～ 923	292～ 915	298～ 1,058	348 ～ 4,893	1,785 ～ 204,134	31 ～ 45
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/221に減少						
福島第二原子力発電所	7	75 ～ 202	75 ～ 204	74 ～ 201	73 ～ 224	79 ～ 767	274 ～ 13,695	37 ～ 49
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/67に減少						

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は，

R4 ～：令和4年度から前四半期まで。

H26～：平成26年度から令和3年度まで。

事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。

事故前：平成13年9月から事故前（平成23年3月10日）まで。

* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8については，高線量率の環境下にあることから，新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため，検出器廻りに遮へいを設置し，地表面等からの放射線の影響を抑えています。

イ. 1時間値の変動状況

各測定地点における1時間値は，降雨等の影響による変動があるものの発電所からの放射性物質の放出などに由来する変動はありませんでした。

また，1時間値は，従来降雨により線量率の上昇があると考えられますが，事故以降の線量の高い点においては，降雨によって地表からの放射線が遮へいされることによる線量低下の方が大きいため，一時的に線量率が低下し，その後の地表面の乾燥に伴って降雨前の線量レベルにまで回復する変動が見られます。

なお，線量率の下がってきた地点においては，従来通りに降雨による線量率の上昇が見られます。

空間線量率の最大値（1時間値）

(単位：nGy/h)

機関名	測定地点数	各地点の最大値の範囲			過去の最大値			
		10 月	11 月	12 月	R4～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	*1 8	311～ 948	300 ～ 949	309 ～ 950	1,084	5,084	327,467	188
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/345に減少						
福島第二原子力発電所	7	97 ～ 228	88 ～ 209	95 ～ 218	253	795	182,000	162
		事故直後の最大値と比較すると今期最大値は約1/798に減少						

* 1. 福島第一原子力発電所 MP-7, 8については，高線量率の環境下にあることから，新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため，検出器廻りに遮へいを設置し，地表面等からの放射線の影響を抑えています。

(2) 空間積算線量

今期間は、令和7年10月9日から令和8年1月8日までの91日間で、福島第一原子力発電所21地点、福島第二原子力発電所18地点で蛍光ガラス線量計（RPLD）により空気中の放射線量を測定しました。

90日換算値は、全ての地点において事故前の最大値を上回る値が観測されました。

なお、事故以降は、年月の経過とともに減少傾向にありました。

詳細な測定値は、福島第一26ページ、福島第二31ページを参照

単位：(mGy/90日)

機関名	測定地点数	積算線量 (令和7年10月9日～ 令和8年1月8日)	過去の測定値			
			R4～	H26～	事故直後	事故前
福島第一 原子力発電所	21	0.17 ～ 6.01	0.16 ～ 7.06	0.17 ～ 35.00	0.42 ～ 312.25	0.10 ～ 0.16
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/52に減少				
福島第二 原子力発電所	18	0.17 ～ 0.45	0.16 ～ 0.53	0.17 ～ 3.24	0.44 ～ 12.15	0.11 ～ 0.15
		事故直後の最大値と比較すると 今期最大値は約1/27に減少				

(注) 1. 「過去の測定値」は、

R4 ～：令和4年度から前四半期まで。

H26～：平成26年度から令和3年度まで。

事故直後：事故後（平成22年度第4四半期）から平成25年度まで。

事故前：平成15年度第1四半期から事故前の平成22年度第3四半期まで。

2. 環境試料

(1) 大気浮遊じん

福島第一原子力発電所のダストモニタ（2地点）については、機器本体及びダスト吸入配管等の取り替えが完了し、MP 3地点は平成28年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始し、MP 8地点については、平成29年10月から全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。

福島第二原子力発電所のダストモニタ（2地点）は、平成24年度より、大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の連続測定を開始しました。MP 1地点については、平成31年2月～4月に局舎移設を行い、2地点とも令和3年9月にダストモニタの更新を行いました。

各地点の測定値は、以下のとおりです。
 詳細な測定値は、福島第一27ページ、福島第二32ページを参照

ア. 月間平均値

福島第一原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値と同等であり、事故の影響による測定値の変動は見られませんでした。

福島第二原子力発電所の月間平均値は、いずれも事故前の月間平均値と同等であり、事故の影響による測定値の変動は見られませんでした。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の月間平均値

(単位: Bq/m³)

機関名	項目	測定地点数	月間平均値			過去の月間平均値			
			10月	11月	12月	R4～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.012～0.013	0.015～0.018	0.011～0.012	0.007～0.027	0.005～0.027	※	0.014～0.022
	全ベータ放射能	2	0.034	0.039～0.044	0.032～0.033	0.022～0.058	0.020～0.091	※	0.028～0.039
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.010～0.011	0.012～0.016	0.009～0.011	0.006～0.021	0.006～0.031	0.008～0.035	0.005～0.030
	全ベータ放射能	2	0.045～0.049	0.054～0.062	0.043～0.049	0.034～0.076	0.018～0.055	0.021～0.061	0.019～0.058

(注) 「過去の測定値の範囲」は、

R4～: 令和4年度から前四半期まで。

H26～: 平成26年度から令和3年度まで。(尚、福島第一原子力発電所は平成28年度第3四半期から)

事故直後: 事故後(平成23年3月11日)から平成25年度まで。

事故前: 平成13年から事故前(平成23年3月10日)まで。

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、MP 3地点は平成28年10月、MP 8地点は平成29年10月から運用開始したため)

イ. 変動状況

福島第一原子力発電所において最大値は、事故前の最大値と同程度でした。また、全アルファ・全ベータ放射能に相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響とされます。

ただし、一部の相関逸脱箇所については、周辺土壌の一時的な舞い上がりの影響とされます。

福島第二原子力発電所の最大値は、事故前の最大値と同程度でした。また、全アルファ・全ベータ放射能に良い相関が見られることから、変動の要因は自然放射能の影響とされます。

大気浮遊じんの全アルファ放射能及び全ベータ放射能の最大値

(単位: Bq/m³)

機関名	項目	測定地点数	最大値			過去の最大値			
			10月	11月	12月	R4～	H26～	事故直後	事故前
福島第一原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.054～0.064	0.050～0.061	0.052～0.069	0.13	0.17	※	0.17
	全ベータ放射能	2	0.093～0.10	0.089～0.11	0.093～0.12	0.25	0.65	※	0.24
福島第二原子力発電所	全アルファ放射能	2	0.032～0.041	0.034～0.052	0.030～0.046	0.091	0.15	0.14	0.20
	全ベータ放射能	2	0.11～0.14	0.12～0.17	0.11～0.15	0.28	0.22	0.23	0.29

※は測定値なし(機器周辺の空間線量が高い事及び機器本体及び吸入配管の取り替えを実施し、MP 3地点は平成28年10月、MP 8地点は平成29年10月から運用開始したため)

(2) 環境試料の核種濃度

福島第一原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、土壌が4地点4試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料、松葉が2地点2試料の5品目で合計17試料でした。

福島第二原子力発電所が今期間に測定した環境試料は、大気浮遊じんが2地点6試料、土壌が4地点4試料、海水が3地点3試料、海底土が2地点2試料、松葉が2地点2試料の5品目で合計17試料でした。

詳細な測定値は、福島第一28～29ページ、福島第二33～34ページを参照

ア. 福島第一原子力発電所測定分

福島第一原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じん、土壌、海水、海底土、松葉の5品目合計17試料からセシウム-137が検出され、大気浮遊じん、土壌、海水、海底土の4品目13試料からセシウム-134が検出されました。

すべての試料において測定値の変動はありますが、令和4年以降の測定値の範囲内となっております。

なお、海水のトリチウムについてはすべての試料から検出されました。ALPS処理水の海洋放出による変動の可能性が考えられますが、WHOの飲料水ガイドラインレベル（10,000Bq/L）を下回っています。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R4～	H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq/m ³)	2	Cs-134	0.008 ～ 0.089	ND ～ 0.34	0.033 ～ 18	1.7 ～ 88	ND
		Cs-137	0.62 ～ 9.5	0.29 ～ 18	0.65 ～ 76	2.6 ～ 200	ND
土 壌 (Bq/kg 乾)	4	Cs-134	76 ～ 2,800	24 ～ 4,800	87 ～ 110,000	1,400 ～ 330,000	ND
		Cs-137	7,600 ～ 290,000	2,000 ～ 260,000	2,300 ～ 460,000	2,600 ～ 680,000	2.4 ～ 28
海 水 (Bq/L)	3	Cs-134	ND ～ 0.002	ND ～ 0.004	ND ～ 6.0	ND ～ 76	ND
		Cs-137	0.034 ～ 0.063	0.024 ～ 0.24	0.031 ～ 18	ND ～ 110	ND ～ 0.003
海 底 土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	1.7 ～ 1.8	ND ～ 7.5	4.6 ～ 350	110 ～ 1,200	ND
		Cs-137	160 ～ 180	76 ～ 270	130 ～ 1,100	210 ～ 1,800	ND ～ 1.2
松 葉 (Bq/kg 生)	2	Cs-134	ND	ND ～ 9.8	4.8 ～ 2,100	890 ～ 220,000	ND
		Cs-137	41 ～ 55	43 ～ 420	90 ～ 5,900	1,600 ～ 310,000	ND ～ 0.14

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、
R4～：令和4年度から前四半期まで。
H26～：平成26年度から令和3年度まで。
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。
「ND～（数値）」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R4～	H26～	事故直後	事故前
海 水 (Bq/L)	3	H-3	0.73 ～ 1.1	ND ～ 0.74	ND ～ 340	ND ～ 180	ND ～ 0.67

イ. 福島第二原子力発電所測定分

福島第二原子力発電所測定分の環境試料のうち、大気浮遊じん、松葉の一部を除く5品目合計12試料からセシウム-137が検出されました。セシウム-134については、土壌の4試料から検出されました。

すべての試料において測定値の変動はありますが、令和4年以降の測定値と同程度となっています。

なお、海水のトリチウムについては3試料のうち2試料から検出されました。ALPS処理水の海洋放出による変動の可能性が考えられますが、WHOの飲料水ガイドラインレベル（10,000Bq/L）を下回っています。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のガンマ線放出核種濃度

試料名	地点数	ガンマ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R4～	H26～	事故直後	事故前
大気浮遊じん (mBq/m ³)	2	Cs-134	ND	ND	ND～0.070	ND～0.75	ND
		Cs-137	0.008～0.009	ND～0.037	ND～0.20	ND～1.1	ND
土壌 (Bq/kg 乾)	4	Cs-134	5.8～26	ND～110	3.4～2,800	490～9,000	ND
		Cs-137	780～2,600	100～3,900	53～7,900	900～15,000	1.1～15
海水 (Bq/L)	3	Cs-134	ND	ND	ND～0.043	ND～0.36	ND
		Cs-137	0.007～0.008	0.005～0.025	ND～0.12	0.079～1.1	ND～0.003
海底土 (Bq/kg 乾)	2	Cs-134	ND	ND～1.8	1.5～74	41～200	ND
		Cs-137	27～42	27～110	39～220	92～360	ND～1.5
松葉 (Bq/kg 生)	2	Cs-134	ND	ND	ND～120	60～17,160	ND
		Cs-137	ND～11	4.3～16	8.1～330	130～22,840	ND～0.060

- (注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、
R4～：令和4年度から前四半期まで。
H26～：平成26年度から令和3年度まで。
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。
事故前：平成13年から事故前（平成23年3月10日）まで。
2. NDは検出限界未満。
「ND～(数値)」とあるのは、検出限界未満の試料と検出限界を超えて検出された試料とがあることを示し、検出された試料の中での最大値を右側に表記しました。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のベータ線放出核種濃度

試料名	地点数	ベータ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R4～	H26～	事故直後	事故前
海水 (Bq/L)	3	H-3	ND～0.50	ND～3.3	ND	ND	ND～0.77

ウ. 福島第一原子力発電所測定分(第1四半期採取分)

土壌のアルファ線放出核種について、4試料からプルトニウム-239+240及びアメリシウム-241が検出され、1試料からプルトニウム-238及びキュリウム-244が検出されました。

なお、検出された核種については、事故直後と比較し測定値の変動はありますが、概ね横ばい傾向にあります。これらの核種は、事故後から測定を開始しています。

「福島第一原子力発電所測定分」 環境試料中のアルファ線放出核種濃度

試料名	地点数	アルファ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R4～	H26～	事故直後	事故前
土 壤 (Bq/kg乾)	4	P u-238	ND～0.02	ND ～ 0.02	ND ～ 0.07	ND ～ 0.11	—
		P u-239+240	0.05～0.28	0.05 ～ 0.40	0.05 ～ 0.56	0.19 ～ 0.39	—
		A m-241	0.02～0.16	0.01 ～ 0.18	0.03 ～ 0.22	0.45 ～ 1.2	—
		C m-244	ND～0.09	ND	ND ～ 0.03	ND ～ 0.05	—

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、
R4～：令和4年度から前四半期まで。
H26～：平成26年度から令和3年度まで。
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。

エ. 福島第二原子力発電所測定分(第1四半期採取分)

土壌のアルファ線放出核種について、4試料からプルトニウム-239+240及びアメリシウム-241が検出されました。

なお、検出された核種については、事故直後と比較し測定値の変動はありますが、概ね横ばい傾向にあります。これらの核種は、事故後から測定を開始しています。

「福島第二原子力発電所測定分」 環境試料中のアルファ線放出核種濃度

試料名	地点数	アルファ線放出核種	測定値	過去の測定値			
				R4～	H26～	事故直後	事故前
土 壤 (Bq/kg乾)	4	P u-238	ND	ND ～ 0.01	ND	ND	—
		P u-239+240	0.10～0.29	0.04 ～ 0.37	0.03 ～ 0.37	0.11 ～ 0.28	—
		A m-241	0.07～0.12	ND ～ 0.14	0.01 ～ 0.15	0.36 ～ 0.53	—
		C m-244	ND	ND	ND	ND	—

(注) 1. 「過去の測定値の範囲」は、
R4～：令和4年度から前四半期まで。
H26～：平成26年度から令和3年度まで。
事故直後：事故後（平成23年3月11日）から平成25年度まで。

第5 原子力発電所周辺環境放射能測定値一覧表

福島第一原子力発電所

1. 空間放射線

(1) 空間線量率

単位：
線量率：nGy/h
測定時間：h

上段：平均値
中段：(最大値)
下段：(最小値)

測定年月 測定 地点名	R7.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R8.1		2		3		
	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間																	
1 M P - 1	478 (496) (457)	720	470 (489) (433)	744	471 (498) (441)	718	498 (526) (466)	744	512 (539) (476)	741	522 (546) (487)	720	504 (532) (481)	744	512 (523) (458)	720	505 (529) (486)	744							
2 M P - 2	728 (758) (670)	720	725 (750) (651)	744	727 (761) (666)	717	746 (772) (692)	744	747 (770) (691)	742	740 (772) (697)	720	720 (754) (676)	744	737 (753) (639)	720	725 (752) (692)	744							
3 M P - 3	464 (482) (445)	720	461 (475) (434)	740	463 (479) (440)	720	469 (481) (441)	742	468 (480) (443)	744	462 (478) (445)	720	451 (469) (436)	744	454 (465) (408)	720	450 (469) (434)	744							
4 M P - 4	905 (954) (854)	720	886 (930) (829)	742	884 (926) (830)	720	907 (937) (843)	742	919 (966) (843)	744	922 (973) (870)	720	899 (948) (832)	744	923 (949) (791)	720	915 (950) (865)	744							
5 M P - 5	636 (673) (558)	720	629 (664) (546)	741	632 (668) (571)	720	658 (693) (604)	742	664 (697) (606)	744	662 (697) (622)	720	636 (679) (579)	744	647 (667) (491)	720	642 (668) (606)	744							
6 M P - 6	300 (316) (291)	720	299 (307) (287)	740	299 (310) (289)	720	302 (310) (287)	744	301 (310) (289)	741	298 (307) (280)	720	293 (311) (285)	744	295 (300) (212)	720	292 (309) (284)	744							
7 M P - 7	521 (532) (504)	720	515 (529) (485)	741	513 (525) (493)	720	519 (533) (497)	744	521 (535) (494)	741	522 (536) (507)	720	513 (530) (495)	744	516 (525) (480)	720	513 (525) (499)	744							
8 M P - 8	492 (501) (481)	720	488 (497) (469)	744	486 (495) (473)	717	489 (499) (474)	744	490 (500) (470)	741	491 (499) (479)	720	485 (495) (470)	744	488 (499) (452)	720	487 (497) (478)	744							

(注)・空間線量率の測定は高線量率モニタリングポストによる。

・ 欠測時には代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

※点検に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：令和7年6月4日，8月22日，8月28日 MP-2：令和7年6月9日，8月26日，8月28日 MP-3：令和7年5月9日，7月8日，7月25，8月28日 MP-4：令和7年5月13日，7月11日，8月28日

MP-5：令和7年5月14日，7月16日 MP-6：令和7年5月19日，8月4日 MP-7：令和7年5月28日，8月7日 MP-8：令和7年6月2日，8月20日

・ 震災後MP-6，7，8については，高線量率の環境下にあることから，新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくなるため，検出器廻りに遮へいを設置し，地表面等からの放射線の影響を抑えていた。

尚，MP-6については事務棟工事などにより周辺環境の線量率が低下したことから，平成25年7月に検出器廻りの遮へいを撤去している。

2. 環境試料
(1) 大気浮遊じん全アルファ及び全ベータ放射能

測定値: Bq/m³
単位: 測定時間: h
上段: 平均値
下段: (最大値)

測定年月	R7.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R8.1		2		3		
	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	
1	全アルファ放射能	0.012 (0.063)	720	0.010 (0.063)	744	0.013 (0.11)	720	0.027 (0.13)	711	0.020 (0.11)	744	0.015 (0.072)	720	0.013 (0.064)	744	0.018 (0.061)	720	0.012 (0.069)	744						
		0.034 (0.13)	720	0.028 (0.11)	744	0.058 (0.25)	720	0.055 (0.21)	711	0.042 (0.17)	744	0.036 (0.11)	720	0.034 (0.10)	744	0.044 (0.11)	720	0.033 (0.12)	744						
2	全アルファ放射能	0.009 (0.046)	720	0.008 (0.047)	742	0.009 (0.055)	718	0.024 (0.095)	742	0.019 (0.091)	696	0.015 (0.076)	719	0.012 (0.054)	743	0.015 (0.050)	719	0.011 (0.052)	743						
		0.030 (0.088)	720	0.027 (0.092)	742	0.032 (0.11)	718	0.052 (0.18)	742	0.044 (0.15)	696	0.038 (0.12)	719	0.034 (0.093)	743	0.039 (0.089)	719	0.032 (0.093)	743						

※ 福島第一原子力発電所のダストモニタ : MP3については、平成28年10月より本運用開始。
: MP8については、平成29年10月より本運用開始。
・次測時には、可搬型連続ダストモニタにて測定し、指示値に異常がないことを確認している。

MP-3 : 令和7年7月23日、7月24日、7月25日

MP-8 : 令和7年5月8日、6月5日、6月11日、7月8日、7月9日、8月12日、8月13日、9月9日、9月9日、10月15日、11月6日、12月10日

(2) 大気浮遊じんの核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種						濃度 (mBq/m ³)							
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce			
1	MP-3	R7. 4. 1 ~	ND	ND	ND	ND	0.065	5.5	ND							
		R7. 5. 1 ~	ND	ND	ND	ND	0.035	3.2	ND							
		R7. 6. 1 ~	ND	ND	ND	ND	0.22	18	ND							
		R7. 7. 1 ~	ND	ND	ND	ND	0.063	5.8	ND							
		R7. 8. 1 ~	ND	ND	ND	ND	0.041	3.4	ND							
		R7. 9. 1 ~	ND	ND	ND	ND	0.039	4.2	ND							
		R7.10. 1	ND	ND	ND	ND	0.074	6.6	ND							
		R7.11. 1	ND	ND	ND	ND	0.089	9.5	ND							
		R7.12. 1	ND	ND	ND	ND	0.075	7.9	ND							
		2	MP-8	R7. 4. 1 ~	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.44
R7. 5. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	0.42	ND	
R7. 6. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.014	1.1	ND	
R7. 7. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.013	0.98	ND	
R7. 8. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.010	0.59	ND	
R7. 9. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.39	ND	
R7.10. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.008	0.62	ND	
R7.11. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.009	1.0	ND	
R7.12. 1 ~	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.016	1.5	ND	

(注) 1. 「ND」は検出限界未満である。

福島第二原子力発電所
1. 空間放射線
(1) 空間線量率

単位：
線量率：nGy/h
測定時間：h

上段：平均値
中段：(最大値)
下段：(最小値)

測定 地点名 No.	R7.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R8.1		2		3		
	測定 項目	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	測定時間	線量率	
																									線量率
1	MP-1	136 (157) (133)	713	744	720	744	744	139 (145) (129)	744	744	744	720	744	744	140 (144) (132)	719	744	744	744	140 (162) (135)					
2	MP-2	122 (142) (116)	714	744	720	744	744	123 (128) (116)	744	744	744	720	744	744	122 (143) (115)	719	744	744	744	122 (143) (118)					
3	MP-3	199 (216) (191)	720	738	720	744	744	205 (215) (189)	744	743	743	718	743	743	202 (228) (193)	718	744	744	744	201 (218) (190)					
4	MP-4	187 (203) (180)	720	738	719	744	744	189 (198) (175)	744	743	743	720	743	743	186 (210) (179)	719	744	744	744	184 (200) (178)					
5	MP-5	194 (210) (189)	720	738	720	744	744	196 (202) (187)	744	744	744	720	744	744	194 (215) (187)	719	744	744	744	193 (207) (187)					
6	MP-6	112 (133) (108)	720	738	720	744	744	112 (118) (105)	744	744	744	720	744	744	115 (136) (108)	720	743	743	743	116 (132) (111)					
7	MP-7	74 (97) (71)	720	738	720	744	744	74 (79) (69)	744	744	744	720	744	744	75 (97) (71)	720	743	743	743	74 (95) (71)					

注) 欠測時には、可搬型モニタリングポスト等により、指示値に異常がないことを確認している。

※点検・検査に伴う欠測期間は下記の通り。

- MP-1：令和7年4月22日、11月18日
- MP-3：令和7年5月13日、6月25日、8月7日、10月31日、11月11日、11月20日
- MP-5：令和7年5月20日、11月27日
- MP-7：令和7年5月27日、12月3日

- MP-2：令和7年4月24日、11月19日
- MP-4：令和7年5月15日、6月25日、8月7日、10月31日、11月26日
- MP-6：令和7年5月22日、12月2日

(2) 空間積算線量

No.	測定地点名	測定期間		測定項目		R7.7.3 ~ R7.7.3		R7.7.3 ~ R7.10.9		R7.10.9 ~ R8.1.8		～	
		測定期間		測定項目		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
		測定期間		測定項目		積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数	積算線量	測定日数
1	M P - 1					0.39 (0.39)	91	0.42 (0.39)	98	0.38 (0.38)	91		
2	M P - 2					0.31 (0.31)	91	0.35 (0.32)	98	0.31 (0.31)	91		
3	M P - 3					0.44 (0.44)	91	0.50 (0.46)	98	0.44 (0.44)	91		
4	M P - 4					0.44 (0.43)	91	0.48 (0.44)	98	0.43 (0.43)	91		
5	M P - 5					0.47 (0.46)	91	0.51 (0.47)	98	0.45 (0.45)	91		
6	M P - 6					0.26 (0.26)	91	0.29 (0.27)	98	0.26 (0.26)	91		
7	M P - 7					0.17 (0.17)	91	0.19 (0.17)	98	0.17 (0.17)	91		
8	富岡町小こはま浜※					0.37 (0.35)	96	0.36 (0.35)	93	0.34 (0.34)	91		
9	富岡町富岡中学校※					0.26 (0.24)	96	0.25 (0.24)	93	0.24 (0.24)	91		
10	富岡町小浜中※					0.31 (0.29)	96	0.32 (0.31)	93	0.30 (0.30)	91		
11	富岡町上郡山清水※					0.38 (0.36)	96	0.40 (0.39)	93	0.35 (0.35)	91		
12	富岡町上郡山※					0.44 (0.41)	96	0.44 (0.43)	93	0.40 (0.40)	91		
13	檜葉町上郡山根※					0.37 (0.37)	91	0.42 (0.39)	98	0.37 (0.37)	91		
14	檜葉町井出浄光東※					0.35 (0.33)	96	0.36 (0.35)	93	0.33 (0.33)	91		
15	檜葉町下繁岡一丁目※					0.35 (0.33)	96	0.36 (0.35)	93	0.34 (0.34)	91		
16	富岡町上郡山岩井戸※					0.39 (0.37)	96	0.40 (0.39)	93	0.37 (0.37)	91		
17	檜葉町井出八石※					0.21 (0.21)	91	0.24 (0.22)	98	0.21 (0.21)	91		
18	檜葉町檜葉中学校※					0.18 (0.18)	91	0.20 (0.18)	98	0.18 (0.18)	91		

注) () 内は、90日換算値。
 ※作業の途中中断に伴い配備期間が異なる。

測定値: Bq/m³ 上段: 平均値
 単位: 測定時間: h 下段: (最大値)

2. 環境試料
 (1) 大気浮遊じん中の全アルファ及び全ベータ放射能

測定地点名	測定年月	R7.4		5		6		7		8		9		10		11		12		R8.1		2		3		
		測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	測定値	測定時間	
1 MP-1		全アルファ放射能	0.008 (0.035)	720	0.007 (0.032)	744	0.013 (0.068)	678	0.021 (0.091)	744	0.013 (0.047)	744	0.013 (0.044)	720	0.010 (0.032)	744	0.012 (0.034)	720	0.009 (0.030)	744						
		全ベータ放射能	0.041 (0.12)	720	0.037 (0.11)	744	0.054 (0.22)	678	0.076 (0.28)	744	0.054 (0.15)	744	0.054 (0.14)	720	0.045 (0.11)	744	0.054 (0.12)	720	0.043 (0.11)	744						
2 MP-7		全アルファ放射能	0.008 (0.035)	720	0.007 (0.038)	744	0.013 (0.064)	678	0.020 (0.084)	744	0.014 (0.048)	744	0.015 (0.051)	720	0.011 (0.041)	744	0.016 (0.052)	720	0.011 (0.046)	744						
		全ベータ放射能	0.040 (0.12)	720	0.036 (0.13)	744	0.053 (0.20)	678	0.074 (0.28)	744	0.056 (0.16)	744	0.059 (0.16)	720	0.049 (0.14)	744	0.062 (0.17)	720	0.049 (0.15)	744						

注) 欠測時には、モニタリングポスト指示値、スタックモニタ指示値に異常がないこと、及びプラントに放射性物質の放出に係る事象が発生していないことを確認している。
 ※点検または電源停止に伴う欠測期間は下記の通り。

MP-1：令和7年6月10日、11日

MP-7：令和7年6月17日、18日

(2) 大気浮遊じん核種濃度

No.	採取地点名	採取時期	核種濃度 (mBq/m ³)																		
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁸ Co	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹⁰⁶ Ru	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce								
1	MP-1	R7. 4. 1 ~ R7. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND			
		R7. 5. 1 ~ R7. 5. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND		
		R7. 6. 1 ~ R7. 6. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R7. 7. 1 ~ R7. 7. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R7. 8. 1 ~ R7. 8. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
		R7. 9. 1 ~ R7. 9. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R7. 10. 1 ~ R7. 10. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R7. 11. 1 ~ R7. 11. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		R7. 12. 1 ~ R7. 12. 31	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
		2	MP-7	R7. 4. 1 ~ R7. 4. 30	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
R7. 5. 1 ~ R7. 5. 31	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
R7. 6. 1 ~ R7. 6. 30	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
R7. 7. 1 ~ R7. 7. 31	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
R7. 8. 1 ~ R7. 8. 31	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
R7. 9. 1 ~ R7. 9. 30	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
R7. 10. 1 ~ R7. 10. 31	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
R7. 11. 1 ~ R7. 11. 30	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
R7. 12. 1 ~ R7. 12. 31	ND			ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

注) 「ND」は検出限界未満である。

添付資料

放射性廃棄物管理状況及び試料採取時の付帯データ

自 令和7年10月

至 令和7年12月

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

福島第二原子力発電所

福島第一原子力発電所
放射性廃棄物管理状況（令和7年度 第3四半期）
（1）放射性気体廃棄物の放出量（1～4号機）

a. 1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器からの追加的放出量

(単位：Bq)

	粒子状物質		備考
	^{134}Cs	^{137}Cs	
1～4号機合計※1	1.1 × 10 ⁷ ※2	2.3 × 10 ⁷	「福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画」において、「1～4号機原子炉建屋及び1～3号機原子炉格納容器以外からの追加的放出は、極めて少ないと考えられる」と評価されていることから、1～4号機における気体廃棄物の放出量としては、1～4号機原子炉建屋及び1～3号機格納容器から放出される ^{134}Cs 及び ^{137}Cs を対象としている。 月1回以上の試料採取により得られた放射能濃度(Bq/cm ³)に排気設備風量又は風量推定値(m ³ /h)を乗ずることによって放出率(Bq/h)を求め、その放出率に報告対象期間の時間(h)を乗ずることによって、追加的放出量を求めている。
1号機	3.4 × 10 ⁵ ※2	4.6 × 10 ⁶	
2号機	2.3 × 10 ⁵ ※2	1.7 × 10 ⁵ ※3	
3号機	7.4 × 10 ⁶ ※2	1.6 × 10 ⁷	
4号機	3.3 × 10 ⁶ ※2	2.7 × 10 ⁶ ※3	
放出管理の目標値 (年間)	4.3 × 10 ⁹	4.3 × 10 ¹⁰	

※1 四捨五入の関係より、「号機毎の合計値」と「1～4号機合計」が合わない場合がある。

※2 全て ^{134}Cs の検出下限値を用いて放出量を算出している。

※3 全て ^{137}Cs の検出下限値を用いて放出量を算出している。

(2) 放射性気体及び放射性液体廃棄物の放出量

a. 放射性気体廃棄物の放出量

		(単位：Bq)						
	全希ガス	¹³¹ I	¹³³ I	全粒子状物質	³ H	備考		
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	1.5 × 10 ⁴	8.2 × 10 ⁹	放射性気体廃棄物の放出放射能 (Bq) は、排気中の放射性物質の濃度 (Bq/cm ³) に排気量 (m ³) を乗じて求められている。		
5, 6号機共用排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	7.2 × 10 ⁹	なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能 (Bq) の算出は実施せず「検出されず」と表示した。		
焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。		
大型機器除染設備排気筒 ^{*3} 及び汚染拡大防止ハウス排気筒 ^{*2}	—	—	—	1.4 × 10 ⁴	—	全希ガス：2 × 10 ⁻² (Bq/cm ³)		
使用済燃料共用プール排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	1.0 × 10 ⁹	¹³¹ I：7 × 10 ⁻⁹ (Bq/cm ³)		
増設焼却炉建屋排気筒	—	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	¹³³ I：7 × 10 ⁻⁸ (Bq/cm ³)		
油処理装置排気筒 ^{*4}	—	—	—	3.2 × 10 ²	検出されず	全粒子状物質：4 × 10 ⁻⁹ (Bq/cm ³)		
分析・研究施設第1棟排気筒	—	—	—	検出されず	—	(¹³⁷ Csで代表した)		
固体廃棄物貯蔵庫第9棟排気筒	—	—	—	検出されず	—	³ H：4 × 10 ⁻⁵ (Bq/cm ³)		
減容処理設備排気筒	—	—	—	検出されず	—			
固体廃棄物貯蔵庫第10棟排気筒(10-A/B)	—	—	—	検出されず	—			
固体廃棄物貯蔵庫第10棟排気筒(10-C)	—	—	—	検出されず	—			
年間放出管理目標値 ^{*1}	2.4 × 10 ¹⁴	8.4 × 10 ⁷	—	—	—			

※1 特定原子力施設に係る実施計画値 (5, 6号機の合計値)。

※2 汚染拡大防止ハウス排気筒は排気設備停止中。

※3 大型機器除染設備排気筒から以下の期間で粒子状物質放出あり。

2025年10月1日から2025年10月7日において平均で4.5 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年10月7日から2025年10月28日において平均で3.4 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年10月28日から2025年11月4日において平均で5.4 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年11月4日から2025年11月25日において平均で1.0 × 10⁻⁸ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年11月25日において平均で1.6 × 10⁻⁸ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年12月16日から2025年12月23日において平均で3.4 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年12月23日から2025年12月29日において平均で4.9 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

大型機器除染設備排気筒は大型機器点検建屋内にあり、大型機器点検建屋排気筒の測定結果は検出されておらず、環境への影響はない。

※4 油処理装置排気筒から以下の期間で粒子状物質放出あり。

2025年10月21日から2025年10月27日において平均で2.4 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年10月30日において平均で9.2 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

2025年11月10日から2025年12月25日において平均で2.4 × 10⁻⁹ (Bq/cm³) で放出あり。

油処理装置は、運転期間が短いことから検出下限濃度を下げるため分析時間を延長し測定した。そのため、天然核種等も検出され放出量に含まれている。

b. 放射性液体廃棄物の放出量

(単位：Bq)

	全核種 (³ Hを除く)	核 種 別						
		⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
排水口	1号機排水口	放出実績なし						
	2号機排水口	放出実績なし						
	3号機排水口	放出実績なし						
	4号機排水口	放出実績なし						
	5号機排水口	放出実績なし						
	6号機排水口	放出実績なし						
年間放出管理目標値 ^{※1}	7.4×10 ¹⁰							

(続き)

	核種	核 種 別			備考
		¹³⁷ Cs	⁸⁹ Sr	⁹⁰ Sr	
原子炉施設合計	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	・1～4号機排水口は、閉塞済み。
排水口	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	6号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 ^{※1}		7.4×10 ¹² ^{※2}			

※1 5号機排水口および6号機排水口の放出管理目標値を示す。

なお、現在、実施計画においては1号機排水口～4号機排水口の放出管理目標値を設定していない。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

試料採取時の付帯データ

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl ⁻ (%)
第一(発)取水口	R7. 5. 8	16.3	13.1	8.1	18.0
	R7. 8.20	27.2	22.9	8.1	18.6
	R7.11.12	10.0	15.0	8.2	18.5
第一(発)南放水口	R7. 5. 8	18.0	13.8	8.2	14.7
	R7. 8.20	27.4	24.1	8.1	18.6
	R7.11.12	10.6	15.7	8.2	16.9
第一(発)北放水口	R7. 5. 8	20.0	13.6	8.1	18.1
	R7. 7.30 再採取	26.5	19.8	8.0	18.6
	R7. 8.20	30.4	23.9	8.1	18.5
	R7.11.12	8.0	15.0	8.2	18.2

令和7年度月別降水データ表

福島第一原子力発電所			
月	日数 (d)	時間 (h)	降水量 (mm)
R7.4	13	76	171.5
5	12	94	226.0
6	10	56	81.5
7	8	41	55.5
8	9	43	95.5
9	10	43	86.0
10	18	100	215.5
11	1	4	67.0
12	7	41	54.5
R8.1			
2			
3			
合 計	88	498	1053.0

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β放射能	γ
土壌	敷地内	R7. 10. 1 ～ R7. 10. 31	連続	R7. 12. 4
		R7. 11. 1 ～ R7. 11. 30	連続	R7. 12. 25
		R7. 12. 1 ～ R7. 12. 31	連続	R7. 1. 28
海水	南放水	R7. 10. 1 ～ R7. 10. 31	連続	R7. 12. 4
		R7. 11. 1 ～ R7. 11. 30	連続	R7. 12. 25
海底土	北放水	R7. 10. 1 ～ R7. 10. 31	連続	R7. 12. 25
		R7. 12. 1 ～ R7. 12. 31	連続	R7. 1. 29

(注) 「/」は測定対象外。

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日							
			γ	³ H	⁹⁰ Sr	²³⁸ Pu *-1	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu *-1	²⁴¹ Am *-1	²⁴⁴ Cm *-1	
土壌	大熊町半野上	R7. 11. 18	R7. 12. 5	/	/	/	R7. 11. 20	R7. 11. 20	R8. 1. 8	R8. 1. 8
		R7. 11. 18	R7. 12. 5	/	/	/	R7. 11. 18	R7. 11. 18	R8. 1. 8	R8. 1. 8
		R7. 11. 18	R7. 12. 5	/	/	/	R7. 11. 17	R7. 11. 17	R8. 1. 5	R7. 1. 5
海水	双葉町郡山	R7. 11. 18	R7. 12. 5	/	/	/	R7. 11. 17	R7. 11. 17	R8. 1. 5	R8. 1. 5
		R7. 11. 12	R7. 12. 17	/	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 12	R7. 12. 17	/	/	/	/	/	/	/
海底土	南放水	R7. 11. 12	R7. 12. 15	/	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 12	R7. 11. 24	/	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 12	R7. 11. 21	/	/	/	/	/	/	/
松葉	M P - 3 付近	R7. 11. 13	R7. 11. 26	/	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 13	R7. 11. 26	/	/	/	/	/	/	/

(注) 「/」は測定対象外。

※-1はR7年度第1四半期(5月15日)採取分。

福島第二原子力発電所
放射性廃棄物管理状況(令和7年度,第3四半期)
放射性気体廃棄物の放出量

(単位: Bq)

	全希ガス	^{131}I	^{133}I	全粒子状物質	^3H	備考
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	1.9×10^{10}	放射性気体廃棄物の放出放射エネルギー(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm ³)に排気量(m ³)を乗じて求められている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射エネルギー(Bq)の算出は実施せず”検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全希ガス: 2×10^{-2} (Bq/cm ³) ^{131}I : 7×10^{-9} (Bq/cm ³) ^{133}I : 7×10^{-8} (Bq/cm ³) 全粒子状物質: 4×10^{-9} (Bq/cm ³) (^{60}Co で代表した) ^3H : 4×10^{-5} (Bq/cm ³)
1号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	2.5×10^9	
2号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	3.0×10^9	
3号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	6.8×10^9	
4号機排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	5.3×10^9	
廃棄物処理建屋 換気系排気筒	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	1.5×10^9	
サイトバンカ建屋排気口	——	——	——	検出されず	——	
焼却設備排気筒	——	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	
年間放出管理目標値	——	——	——	——	——	

2. 放射性液体廃棄物の放出量(第3四半期)

(単位: Bq)

	核種別								
	全核種 (³ Hを除く)	⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし						
	2号機排水口	検出されず	検出されず						
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし						
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし						
年間放出管理目標値 ※1	1.2 × 10 ⁹								

(続き)

	核種別			³ H	備考
	⁸⁹ Sr	⁹⁰ Sr	アルファ線を放出する 放射性物質		
原子炉施設合計	検出されず	検出されず	検出されず	4.2 × 10 ⁹	放射性液体廃棄物の放出放射能(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm ³)に排水量(m ³)を乗じて求めている。 なお、放射性物質が検出されない場合は、放出放射能(Bq)の算出は実施せず“検出されず”と表示した。 検出されずとは、以下の濃度未満の場合をいう。 全核種(³ Hを除く): 2 × 10 ⁻² (Bq/cm ³) (⁶⁰ Coで代表した) ⁸⁹ Sr, ⁹⁰ Sr: 7 × 10 ⁻⁴ (Bq/cm ³) (⁹⁰ Srで代表した) アルファ線を放出する放射性物質: 4 × 10 ⁻³ (Bq/cm ³) ベータ線を放出する放射性物質: 4 × 10 ⁻² (Bq/cm ³)
排水口 別内訳	1号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	2号機排水口	検出されず	検出されず	4.2 × 10 ⁹	
	3号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値 ※1				1.4 × 10 ¹¹ ※2	

※1 放出管理目標値は「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針(原子力委員会決定)」に定められた公衆の線量目標値(50 μSv/年)を下回るように設定した年間の放出放射能である。

※2 トリチウムについては、放出管理の年間基準値を記載。

試料採取時の付帯データ

(ア) 海水

採取地点名	採取年月日	気温(°C)	水温(°C)	pH	Cl ⁻ (%)
第二(発)取水口	R7. 5.19	13.6	12.0	8.2	18.6
	R7. 8.22	29.3	25.8	8.1	18.6
	R7.11.25	15.0	14.6	8.2	18.8
第二(発)南放水口	R7. 5.23	18.7	17.6	8.1	18.2
	R7. 8.22	29.7	26.6	8.1	18.6
	R7.11.25	13.6	14.3	8.1	18.9
第二(発)北放水口	R7. 5.23	18.4	17.0	8.3	17.9
	R7. 8.22	31.7	25.7	8.1	18.6
	R7.11.25	16.5	14.6	8.1	18.8

令和7年度月別降水データ表

月	日数(d)	時間(h)	降水量(mm)
R7.4	13	85	199.0
5	14	104	241.5
6	11	57	79.0
7	6	35	50.0
8	11	45	108.5
9	12	35	35.5
10	16	104	225.5
11	2	6	71.5
12	8	45	67.0
R8.1			
2			
3			
合計	93	516	1077.5

環境試料測定日

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日	
			全α・β放射能	γ
大気浮遊じん	M P - 1	R7. 10. 1 ~R7. 10. 31	連続	R7. 11. 26
		R7. 11. 1 ~R7. 11. 30	連続	R7. 12. 30
		R7. 12. 1 ~R7. 12. 31	連続	R8. 1. 26
		R7. 10. 1 ~R7. 10. 31	連続	R7. 11. 25
	M P - 7	R7. 11. 1 ~R7. 11. 30	連続	R7. 12. 29
		R7. 12. 1 ~R7. 12. 31	連続	R8. 1. 27

試料名	採取地点名	採取年月日	測定年月日						
			γ	³ H	⁹⁰ Sr	²³⁸ Pu [※]	²³⁹⁺²⁴⁰ Pu [※]	²⁴¹ Am [※]	²⁴⁴ Cm [※]
土	発電所敷地内	R7. 11. 13	R7. 12. 23	/	/	R7. 11. 20	R7. 11. 20	R8. 1. 6	R8. 1. 6
		榑葉町波倉 <small>なみくろ</small>	R7. 12. 23	/	/	R7. 11. 20	R7. 11. 20	R8. 1. 6	R8. 1. 6
	富岡町小浜	R7. 11. 13	R7. 12. 23	/	/	R7. 11. 18	R7. 11. 18	R8. 1. 5	R8. 1. 5
		富岡町小浜中央 <small>こはまちゆうおう</small>	R7. 11. 13	R7. 12. 23	/	/	R7. 11. 18	R7. 11. 18	R8. 1. 5
海水	取水口	R7. 11. 25	R7. 12. 30	R7. 12. 6	/	/	/	/	/
		R7. 11. 25	R8. 1. 8	R7. 12. 7	/	/	/	/	/
	北放水口	R7. 11. 25	R8. 1. 6	R7. 12. 6	/	/	/	/	/
		R7. 11. 25	R8. 1. 6	R7. 12. 6	/	/	/	/	/
海底土	南放水口	R7. 11. 25	R7. 12. 8	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 25	R7. 12. 8	/	/	/	/	/	/
	北放水口	R7. 11. 25	R7. 12. 22	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 25	R7. 12. 22	/	/	/	/	/	/
松葉	敷地の南境界付近	R7. 11. 10	R7. 11. 28	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 10	R7. 11. 28	/	/	/	/	/	/
	敷地の北境界付近	R7. 11. 10	R7. 11. 28	/	/	/	/	/	/
		R7. 11. 10	R7. 11. 28	/	/	/	/	/	/

(注)「/」は測定対象外。

※令和7年度第1四半期(5月16日)採取分。

令和7年度 第3四半期 空間線量率等の変動グラフ

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所

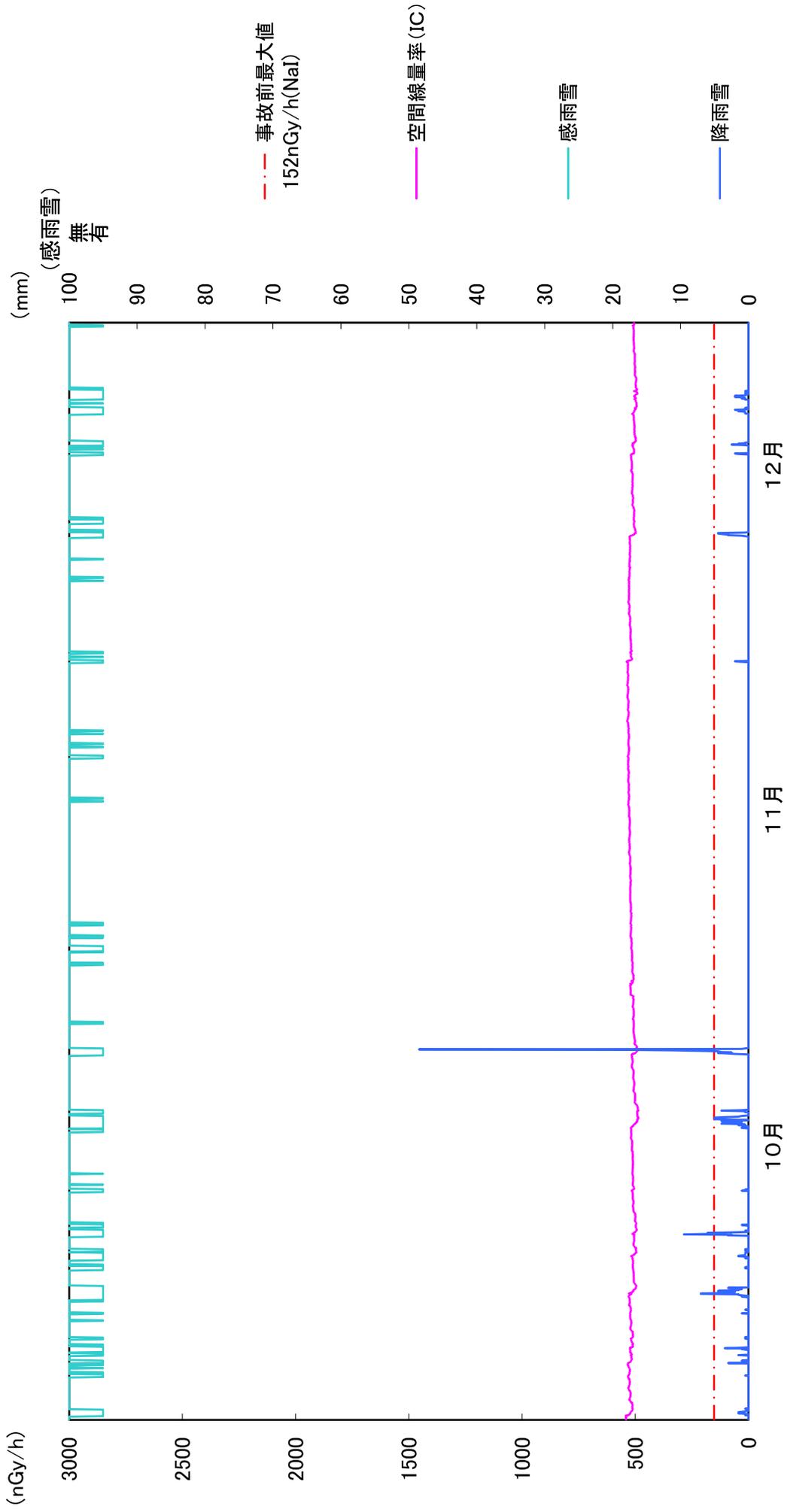
福島第二原子力発電所

目次

空間線量率			
1	福島第一原子力発電所 MP-1	・・・	49
2	福島第一原子力発電所 MP-2	・・・	50
3	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	51
4	福島第一原子力発電所 MP-4	・・・	52
5	福島第一原子力発電所 MP-5	・・・	53
6	福島第一原子力発電所 MP-6	・・・	54
7	福島第一原子力発電所 MP-7	・・・	55
8	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	56
9	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	57
10	福島第二原子力発電所 MP-2	・・・	58
11	福島第二原子力発電所 MP-3	・・・	59
12	福島第二原子力発電所 MP-4	・・・	60
13	福島第二原子力発電所 MP-5	・・・	61
14	福島第二原子力発電所 MP-6	・・・	62
15	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	63
	大気浮遊じん (推移)		
1	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	64
2	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	65
3	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	66
4	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	67
	大気浮遊じん (相関図)		
1	福島第一原子力発電所 MP-3	・・・	68
2	福島第一原子力発電所 MP-8	・・・	68
3	福島第二原子力発電所 MP-1	・・・	69
4	福島第二原子力発電所 MP-7	・・・	69

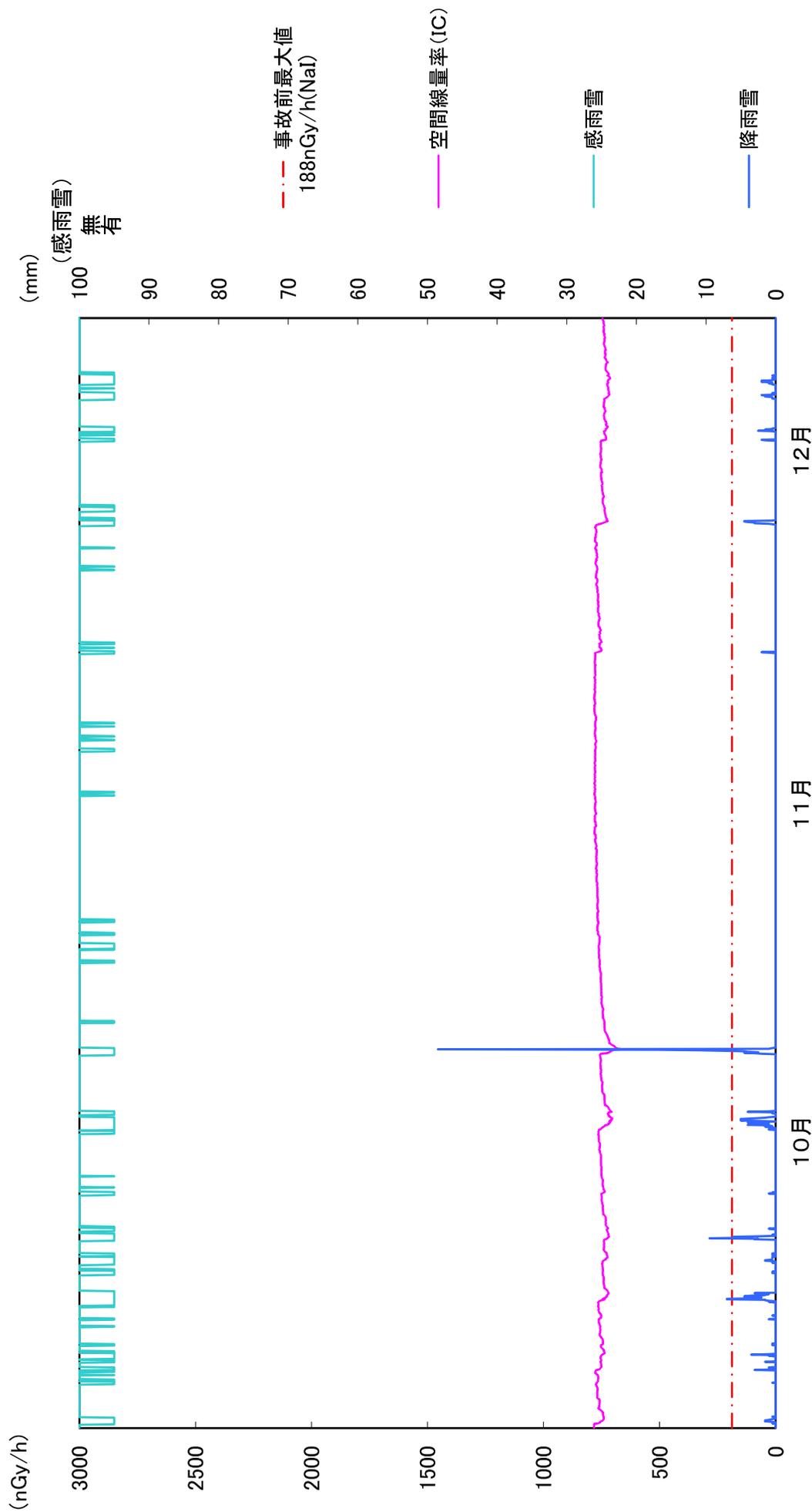
空間線量率の変動グラフ (MP-1)

福島第一原子力発電所



欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

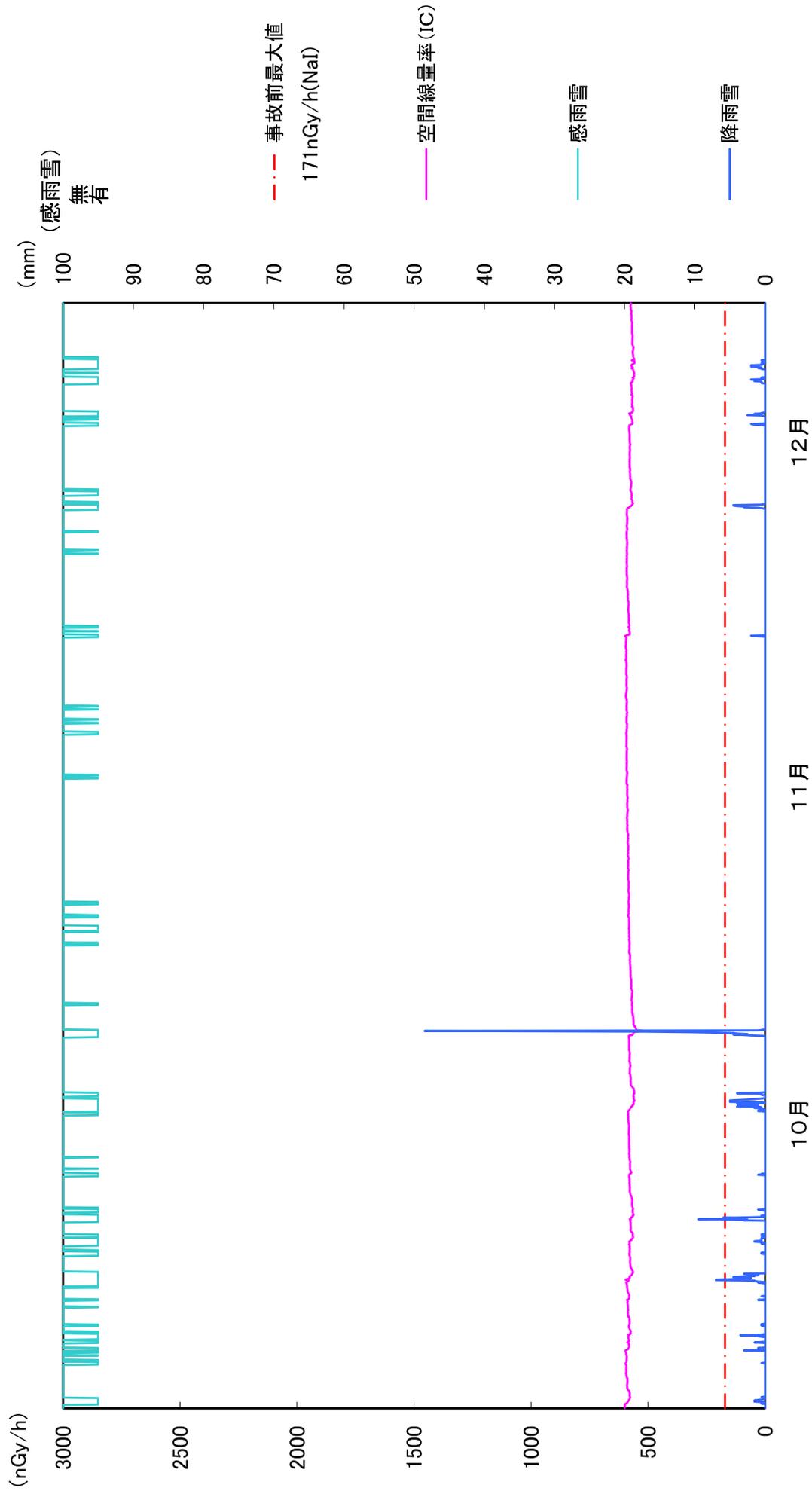
空間線量率の変動グラフ
(MP-2)



欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

空間線量率の変動グラフ (MP-3)

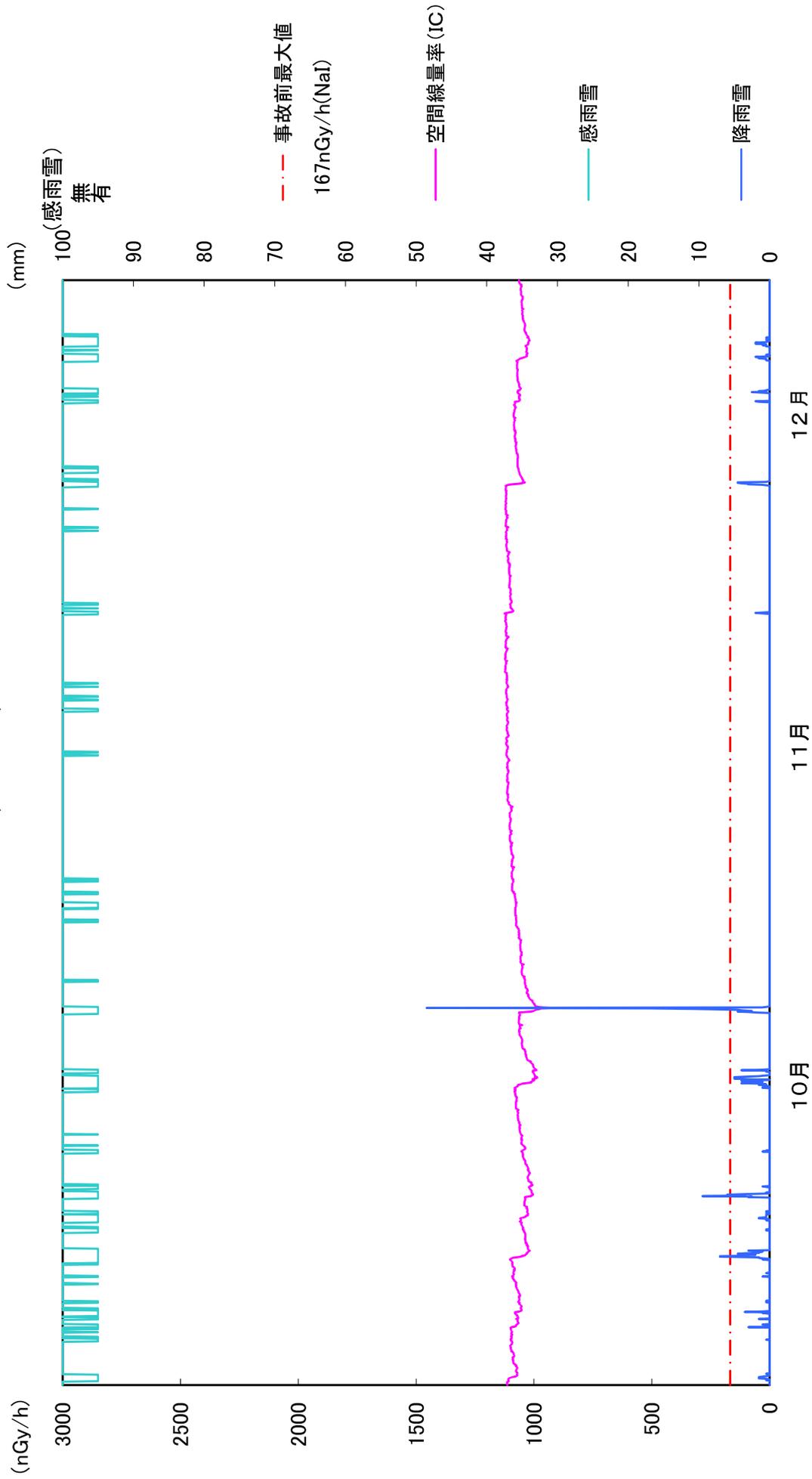
福島第一原子力発電所



欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

空間線量率の変動グラフ (MP-4)

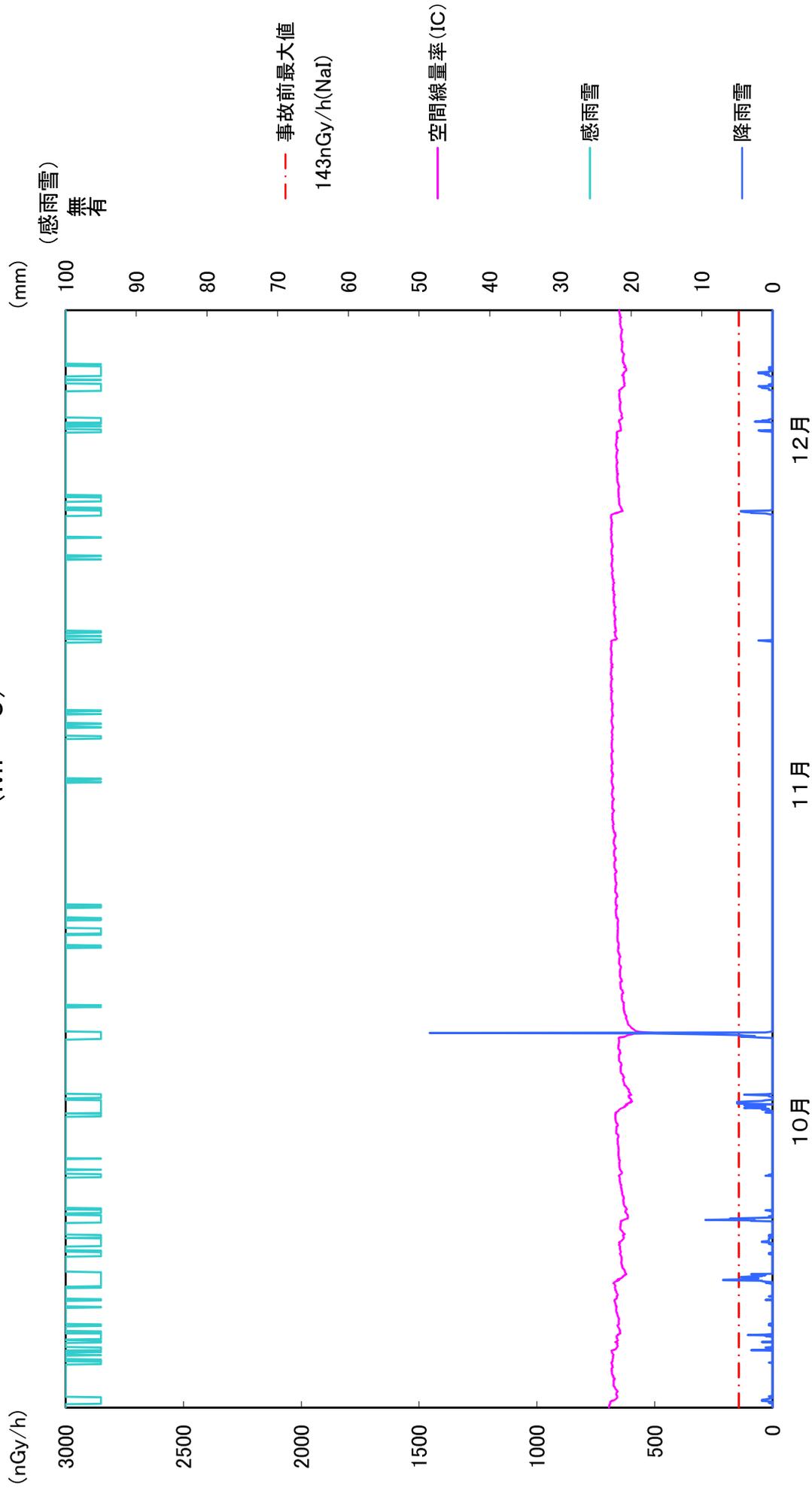
福島第一原子力発電所



欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(1C)にて行っている。

空間線量率の変動グラフ (MP-5)

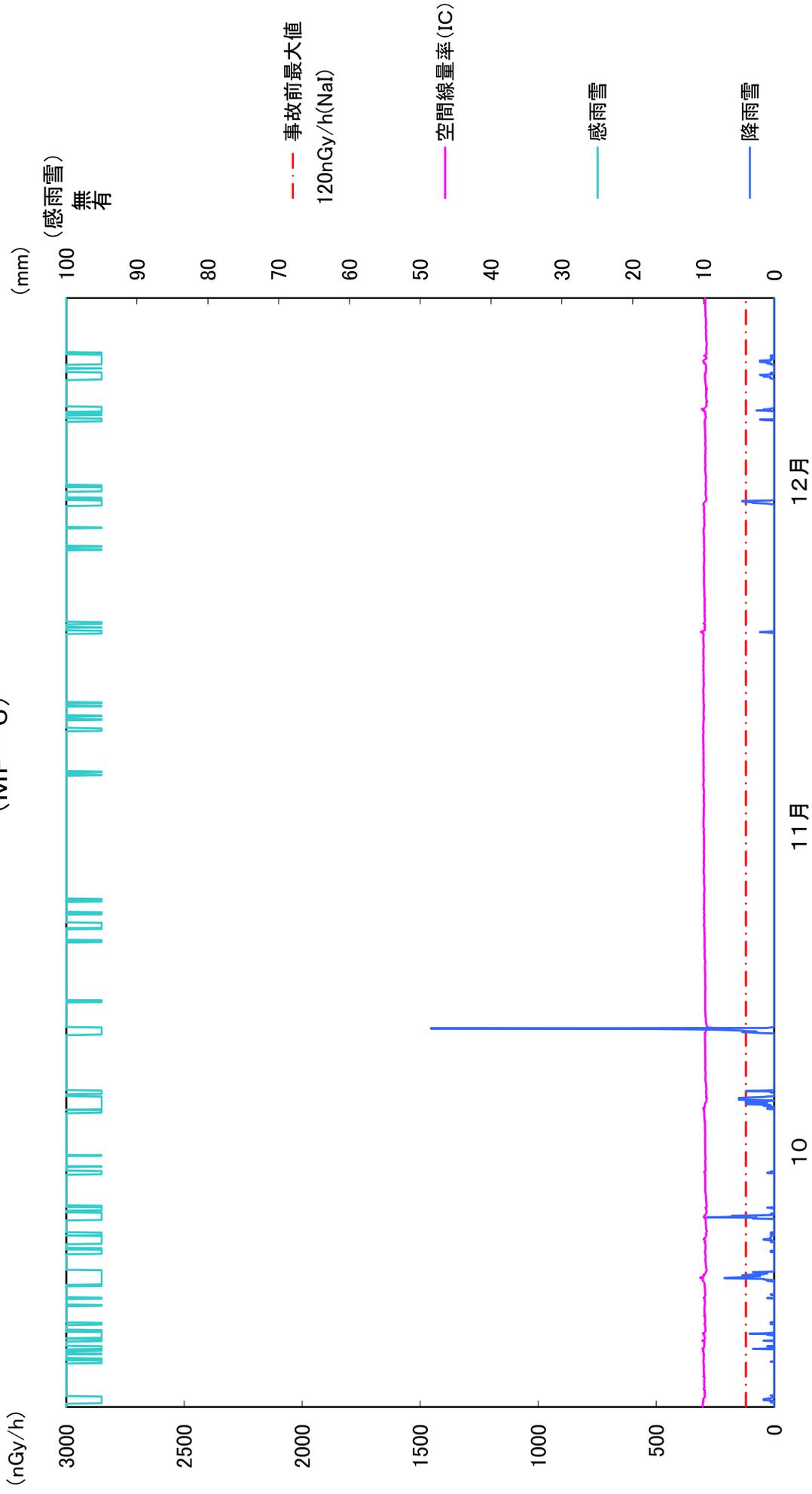
福島第一原子力発電所



欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)に行っている。

空間線量率の変動グラフ (MP-6)

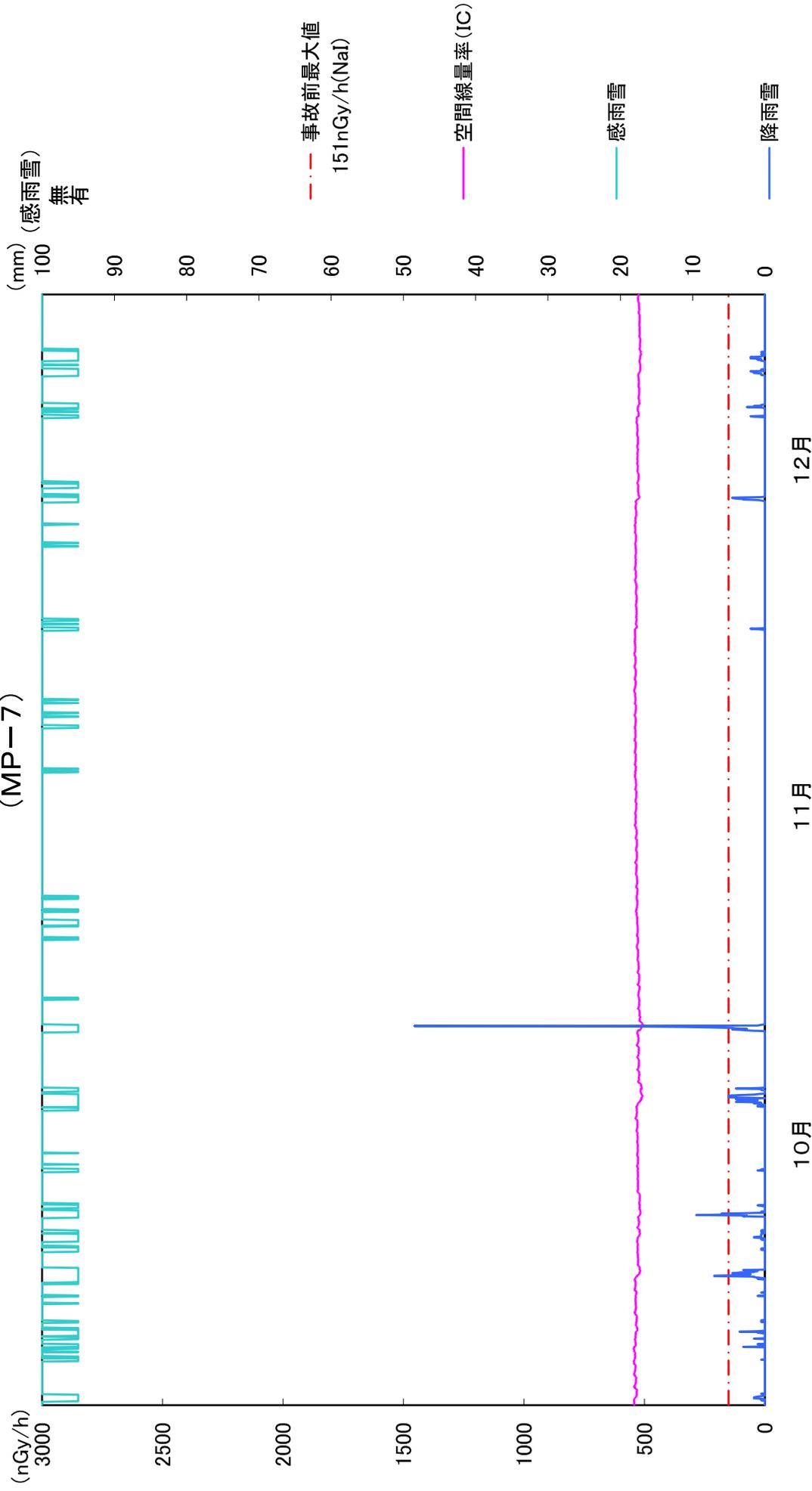
福島第一原子力発電所



欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

空間線量率の変動グラフ (MP-7)

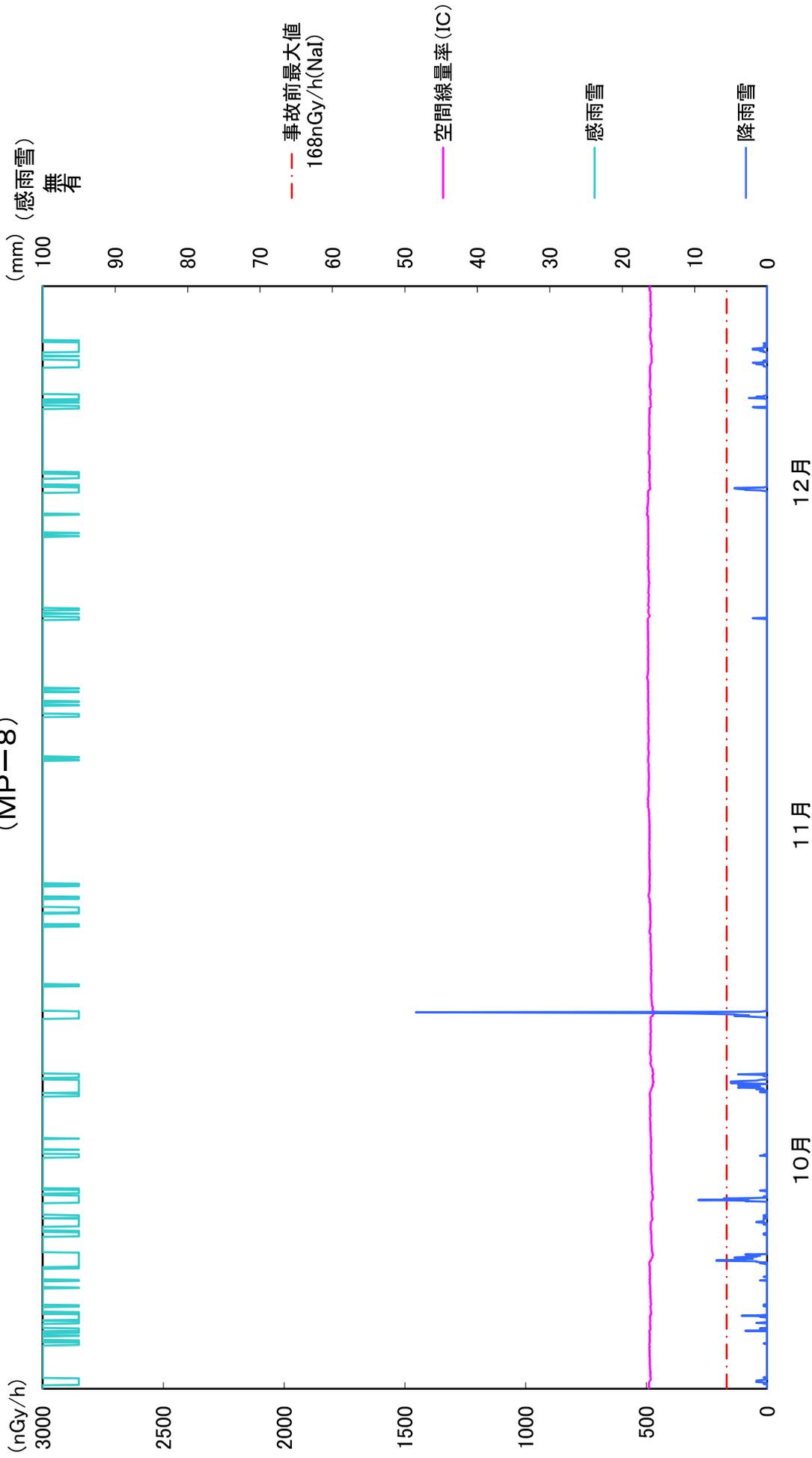
福島第一原子力発電所



欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。
周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

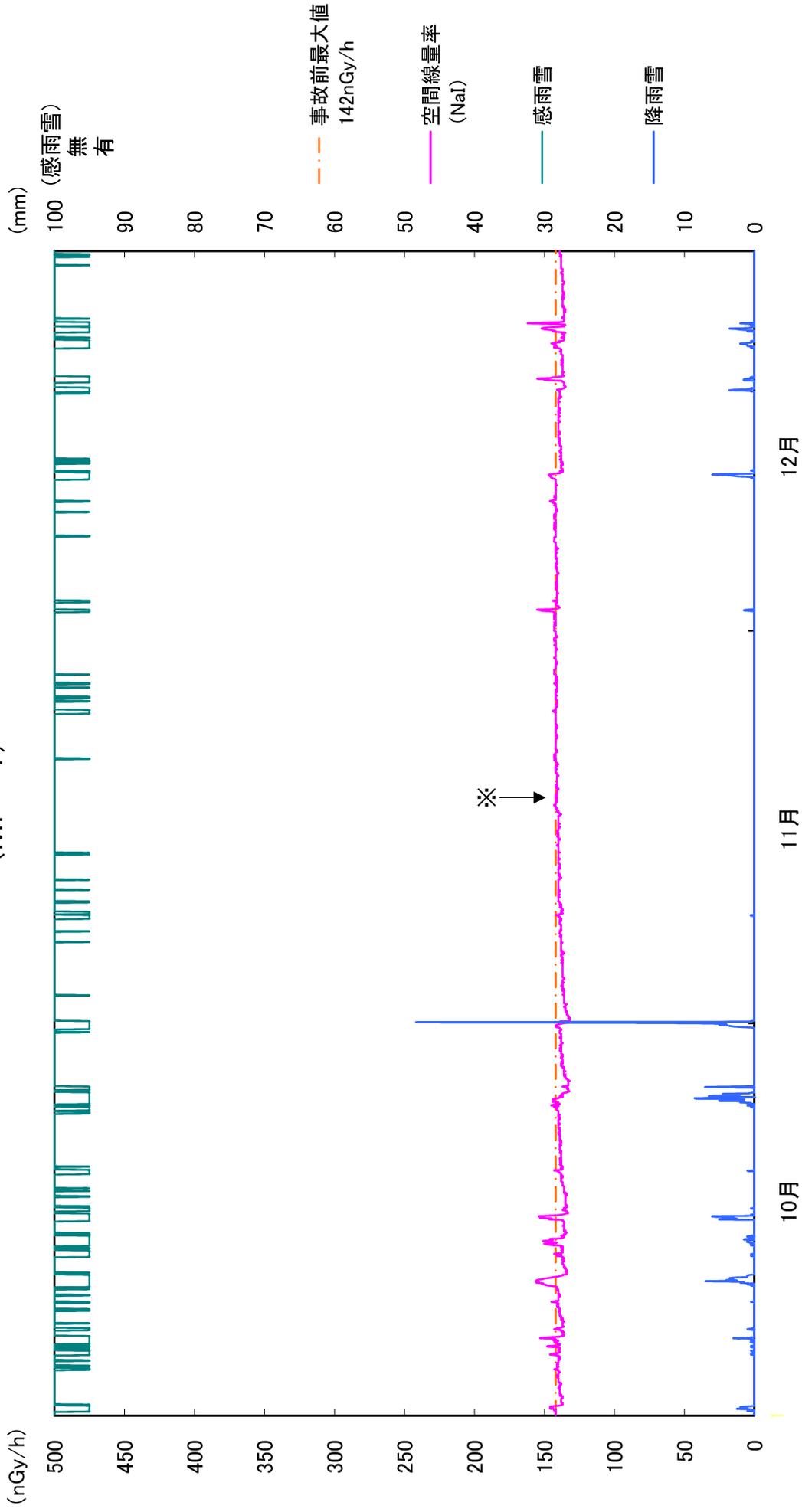
空間線量率の変動グラフ (MP-8)

福島第一原子力発電所



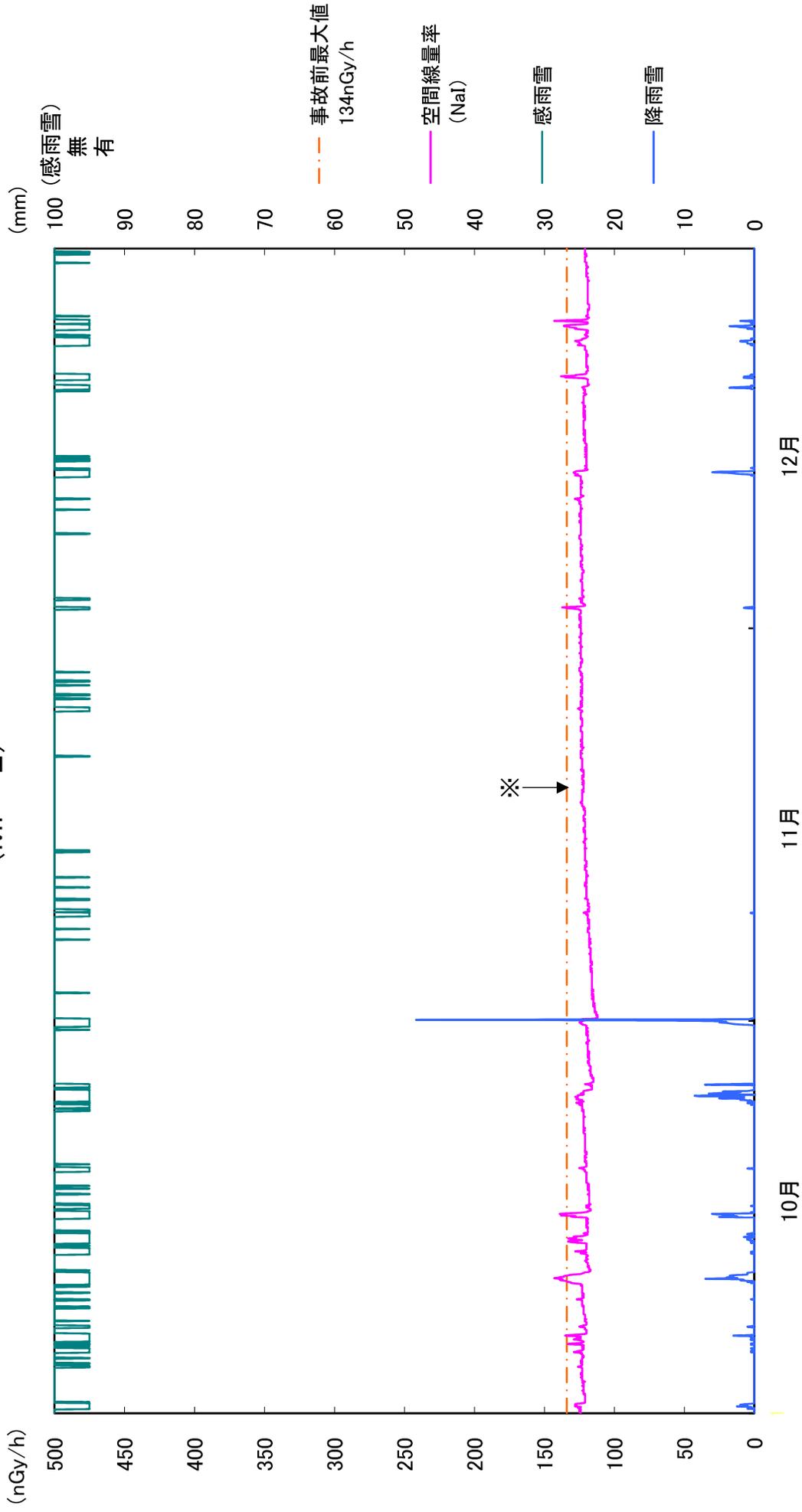
欠測時には、代替測定器にて測定し、指示値に異常がないことを確認している。
 MP-7, 8については、高線量率の環境下にあることから、新たな放出によって上空を通過する放射性物質を検知しやすくするため、検出器廻りに遮へいを設置し、地表面等からの放射線の影響を抑えている。
 周辺環境線量率のバックグラウンドが事故の影響で上昇したことにより、測定を電離箱式検出器(IC)にて行っている。

空間線量率の変動グラフ
(MP-1)



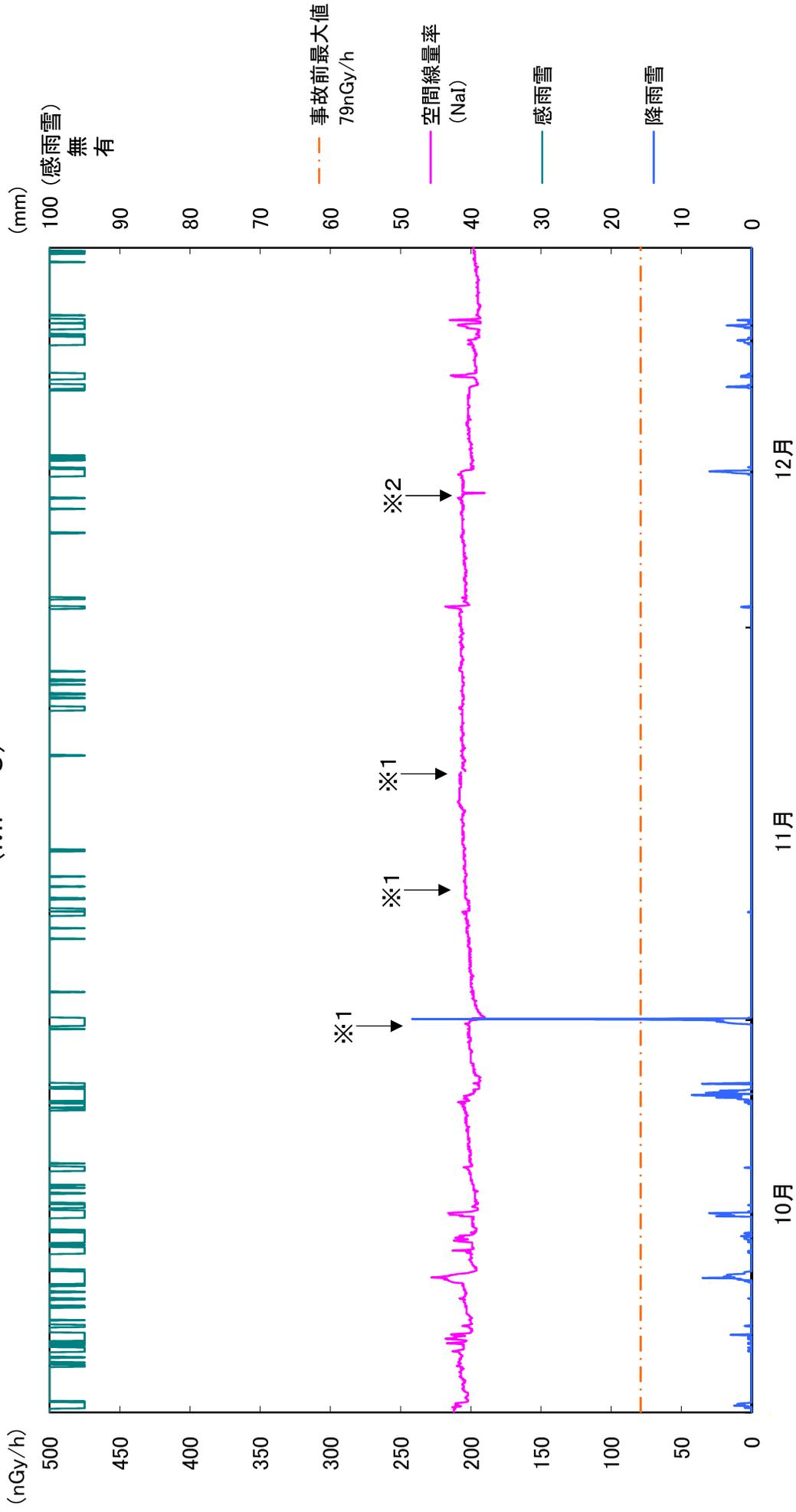
※ 点検に伴う欠測：11月18日
欠測時には、可搬型モニタリングポスト等により、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ
(MP-2)



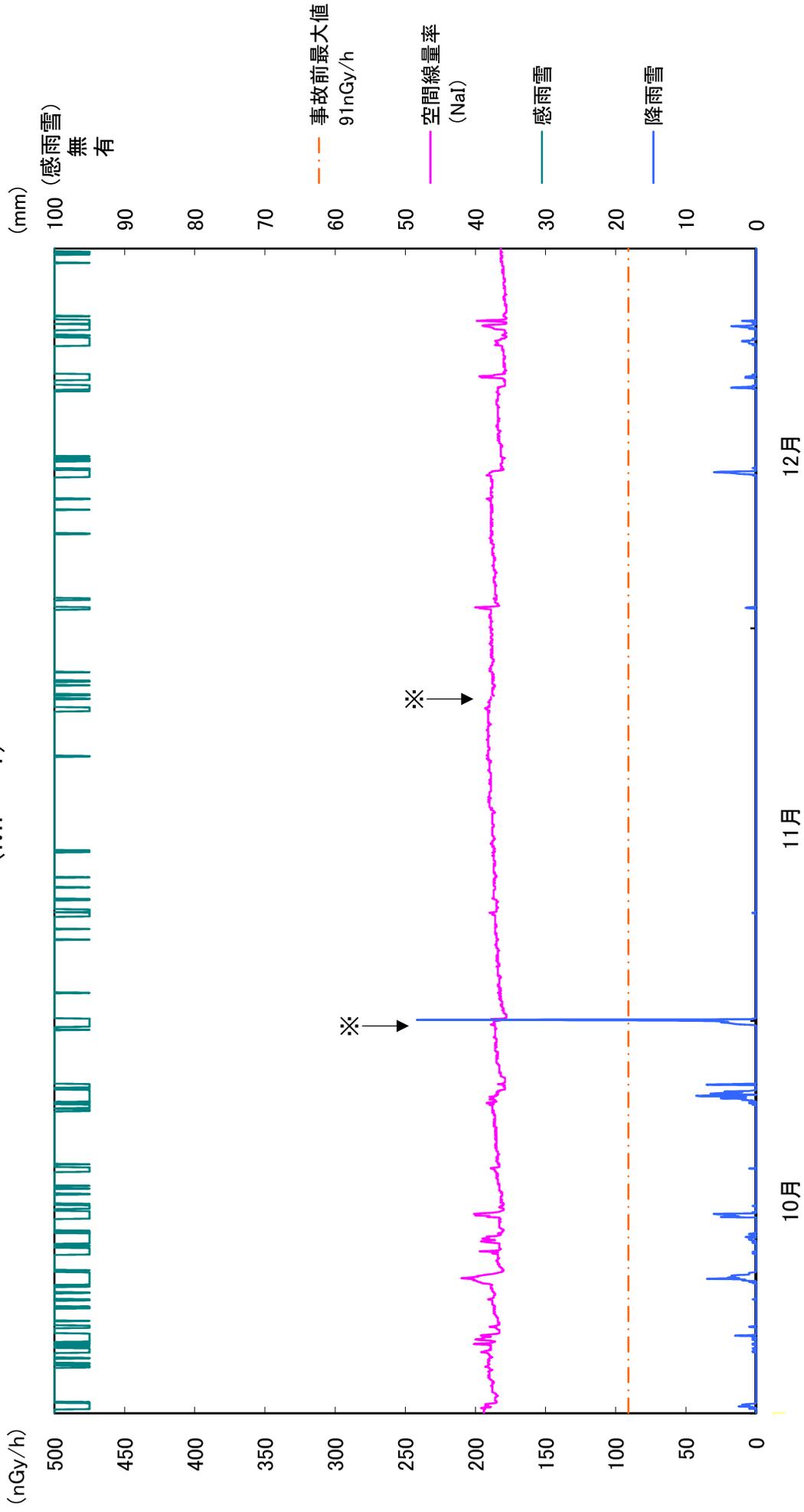
※ 点検に伴う欠測：11月19日
欠測時には、可搬型モニタリングポスト等により、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ
(MP-3)



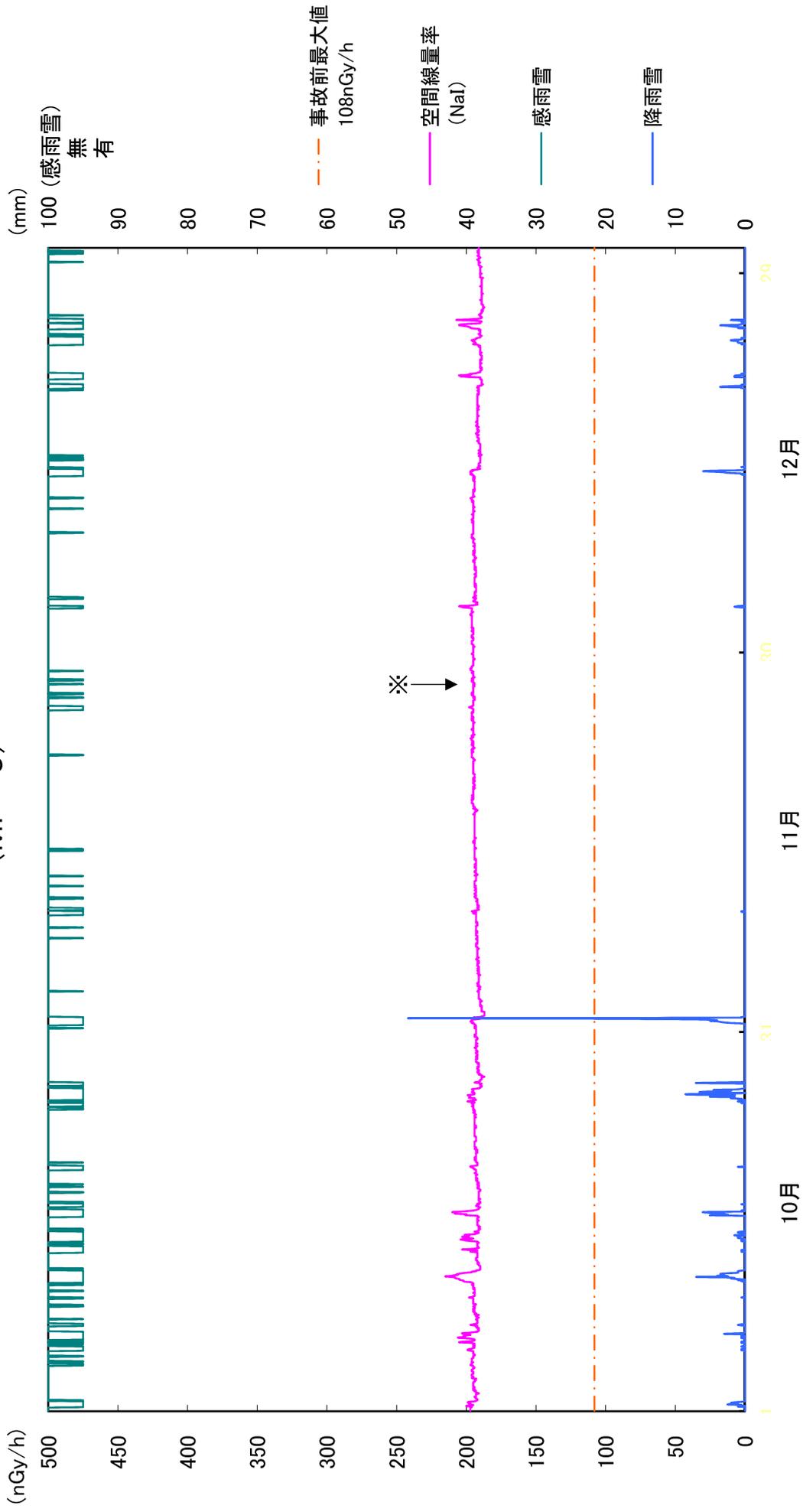
※1 点検・検査に伴う欠測：10月31日，11月11日，11月20日
 欠測時には，可搬型モニタリングポスト等により，指示値に異常がないことを確認している。
 ※2 周辺作業に伴う遮蔽効果で低下：12月12日

空間線量率の変動グラフ
(MP-4)



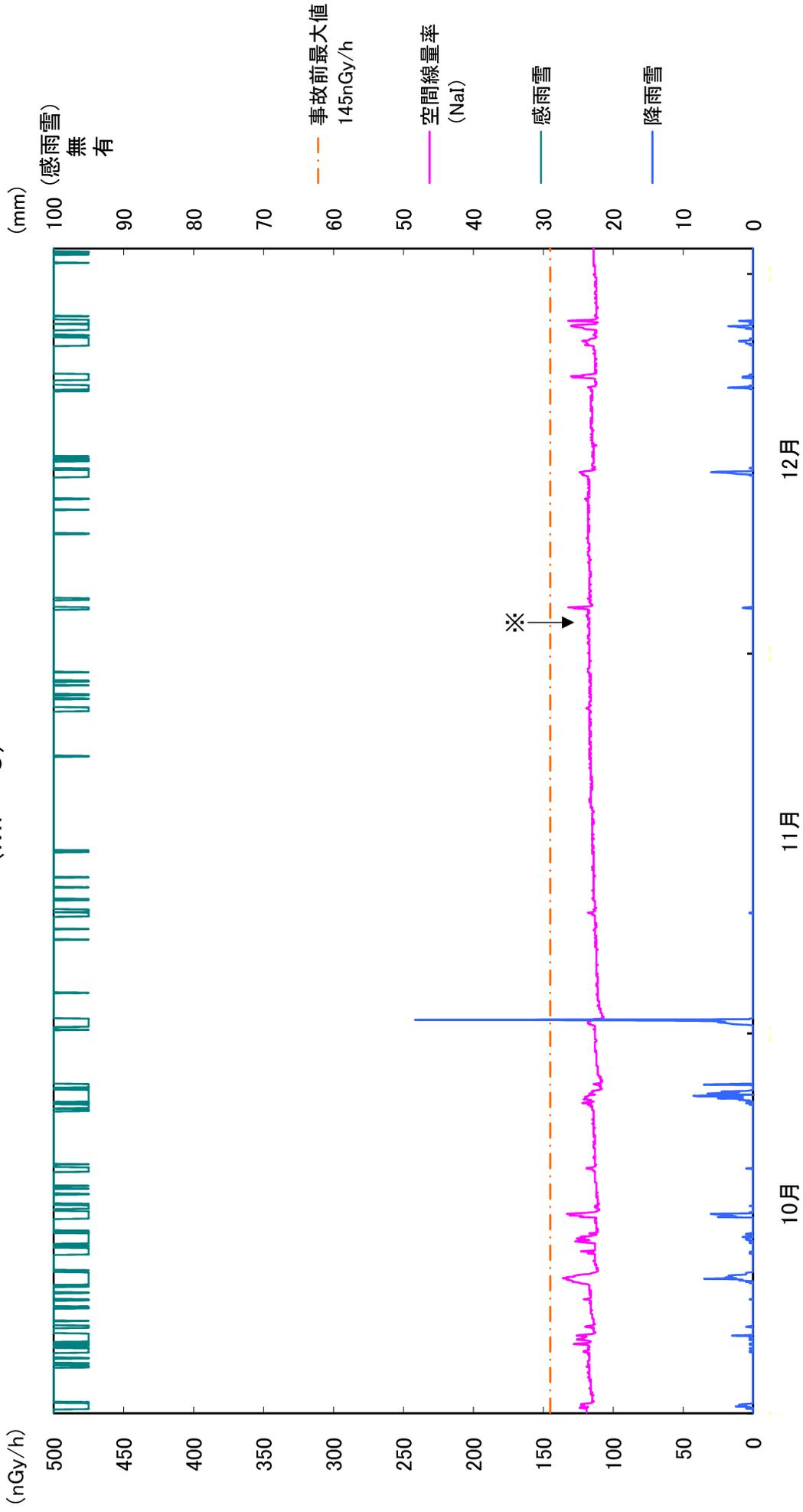
※ 点検・検査に伴う欠測：10月31日，11月26日
欠測時には，可搬型モニタリングポスト等により，指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ
(MP-5)



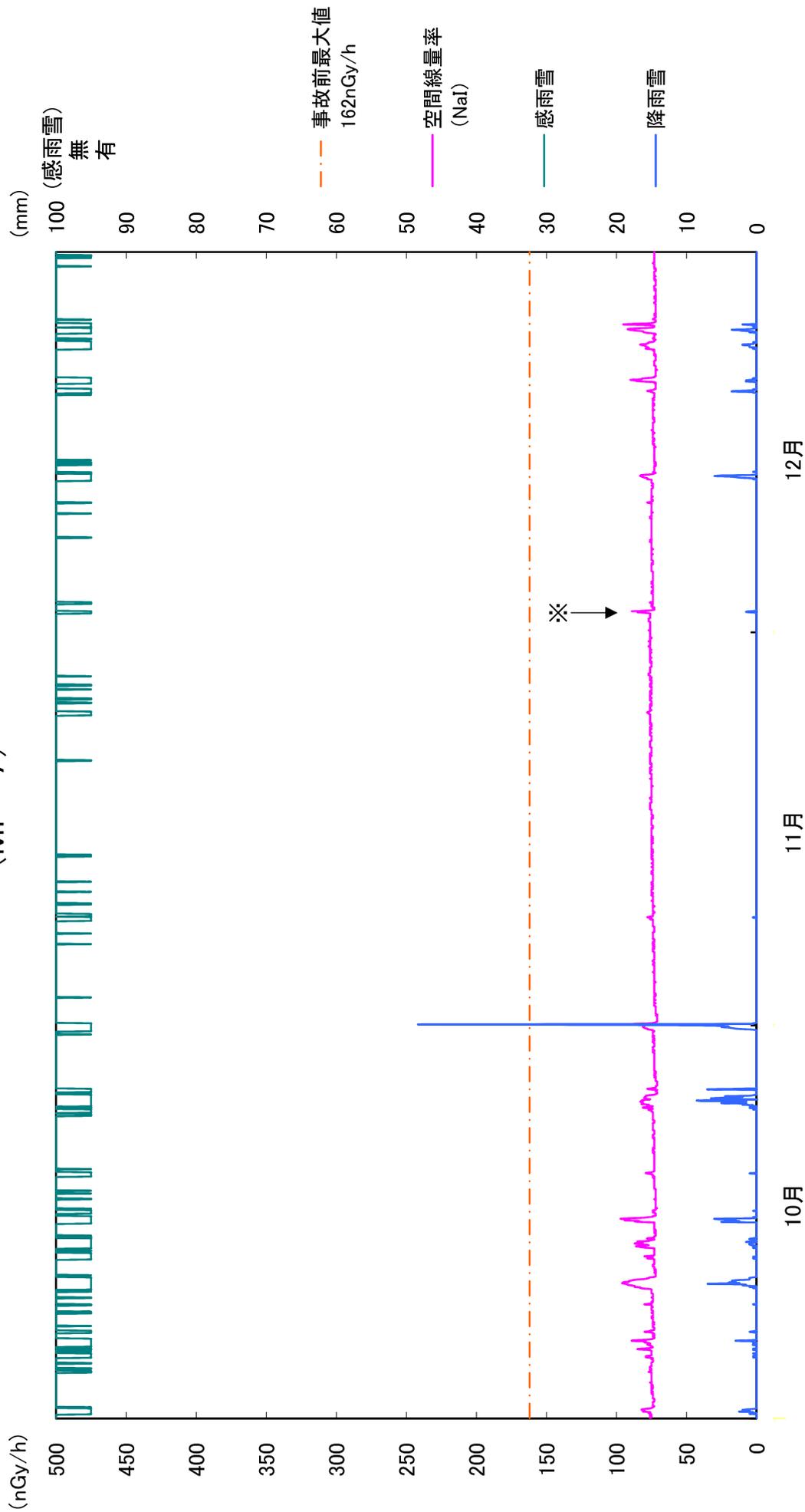
※ 点検に伴う欠測：11月27日
欠測時には、可搬型モニタリングポスト等により、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ
(MP-6)



※ 点検に伴う欠測：12月2日
欠測時には、可搬型モニタリングポスト等により、指示値に異常がないことを確認している。

空間線量率の変動グラフ
(MP-7)

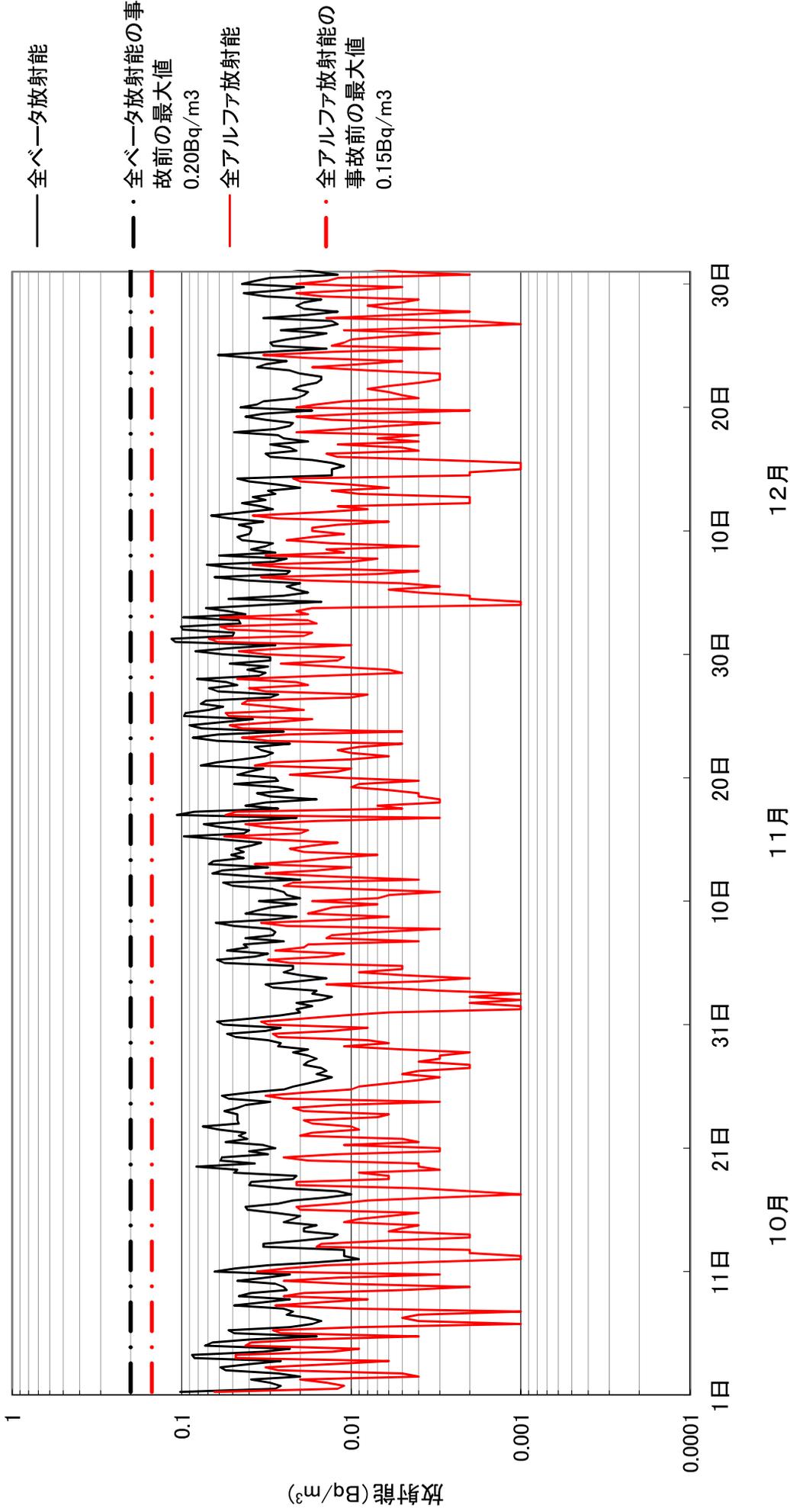


※ 点検に伴う欠測 : 12月3日
欠測時には、可搬型モニタリングポスト等により、指示値に異常がないことを確認している。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-3

(令和7年10月1日～令和12月31日)

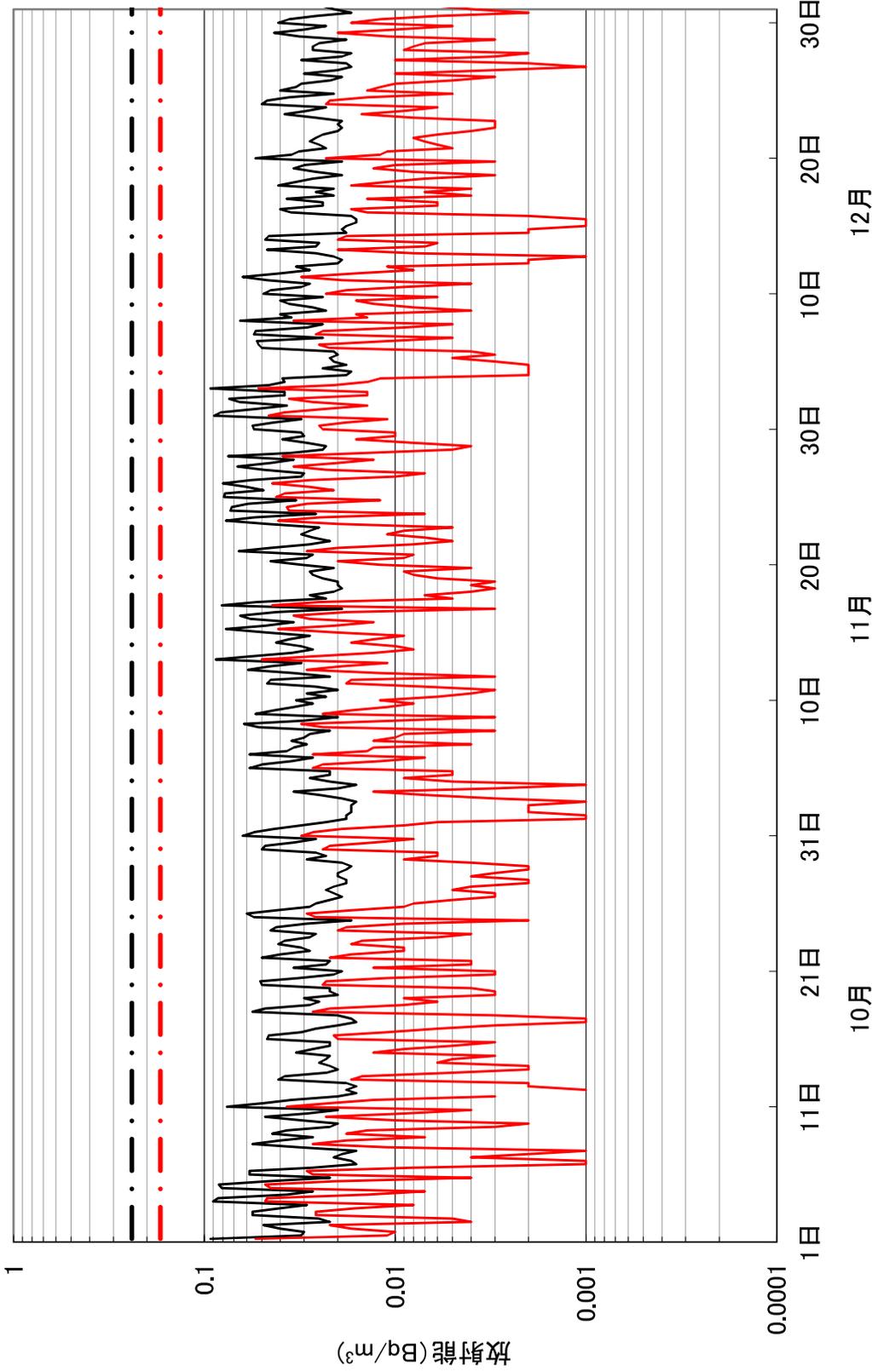


欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。
 注)全アルファ放射能は 0.001Bq/m³ より小さい場合には 0Bq/m³ となるため対数グラフに表示されない。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-8

(令和7年10月1日～令和7年12月31日)



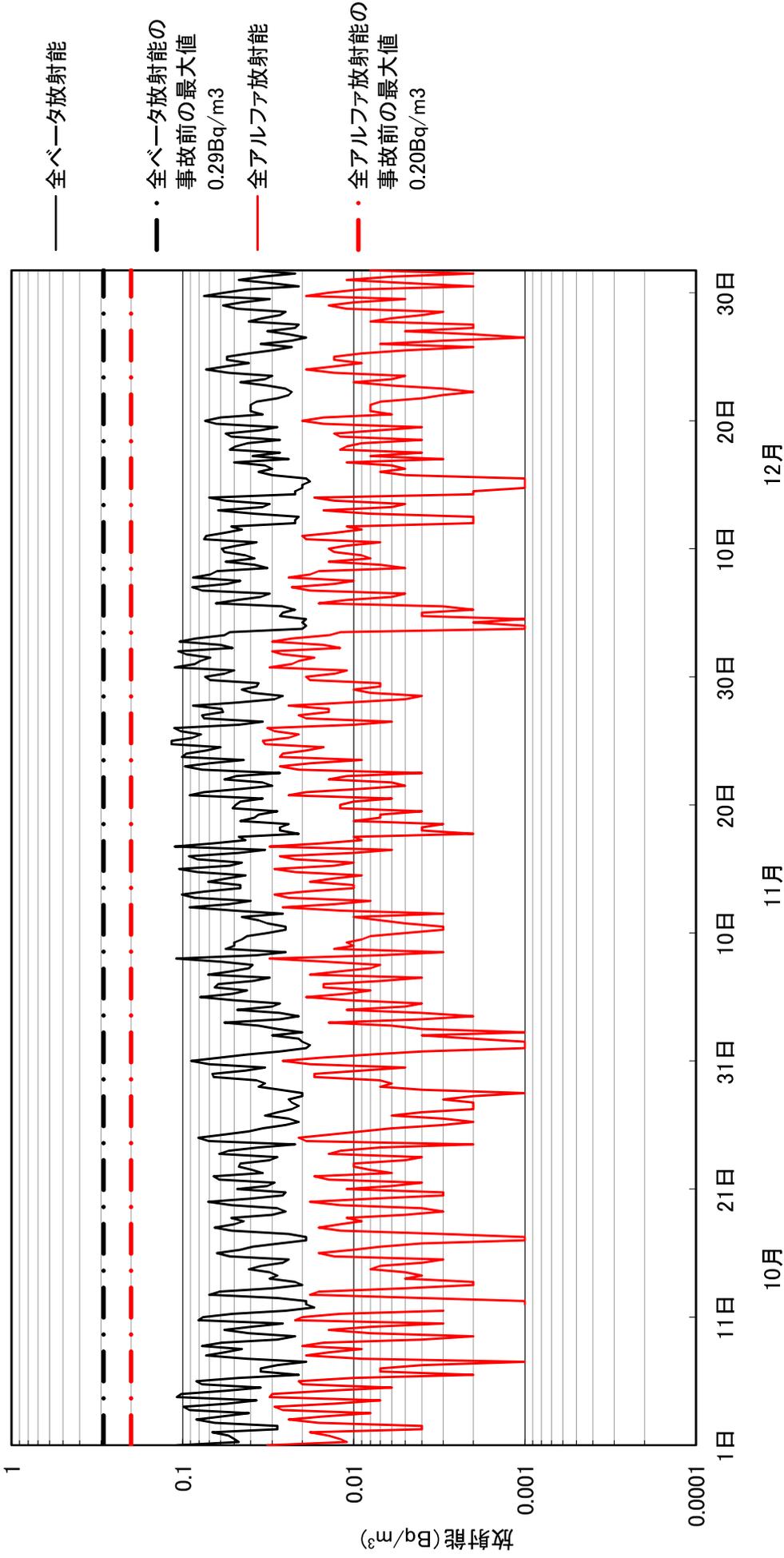
- 全ベータ放射能
- - 全ベータ放射能の事故前の最大値
0.24Bq/m³
- 全アルファ放射能
- - 全アルファ放射能の事故前の最大値
0.17Bq/m³

欠測時は、敷地境界付近(MP1～MP8)に設置した連続ダストモニタにて指示値に異常がないことを確認している。
注) 全アルファ放射能は 0.001Bq/m³ より小さい場合には、0Bq/m³ となるため対数グラフに表示されない。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

MP-1

(令和7年10月1日～令和7年12月31日)

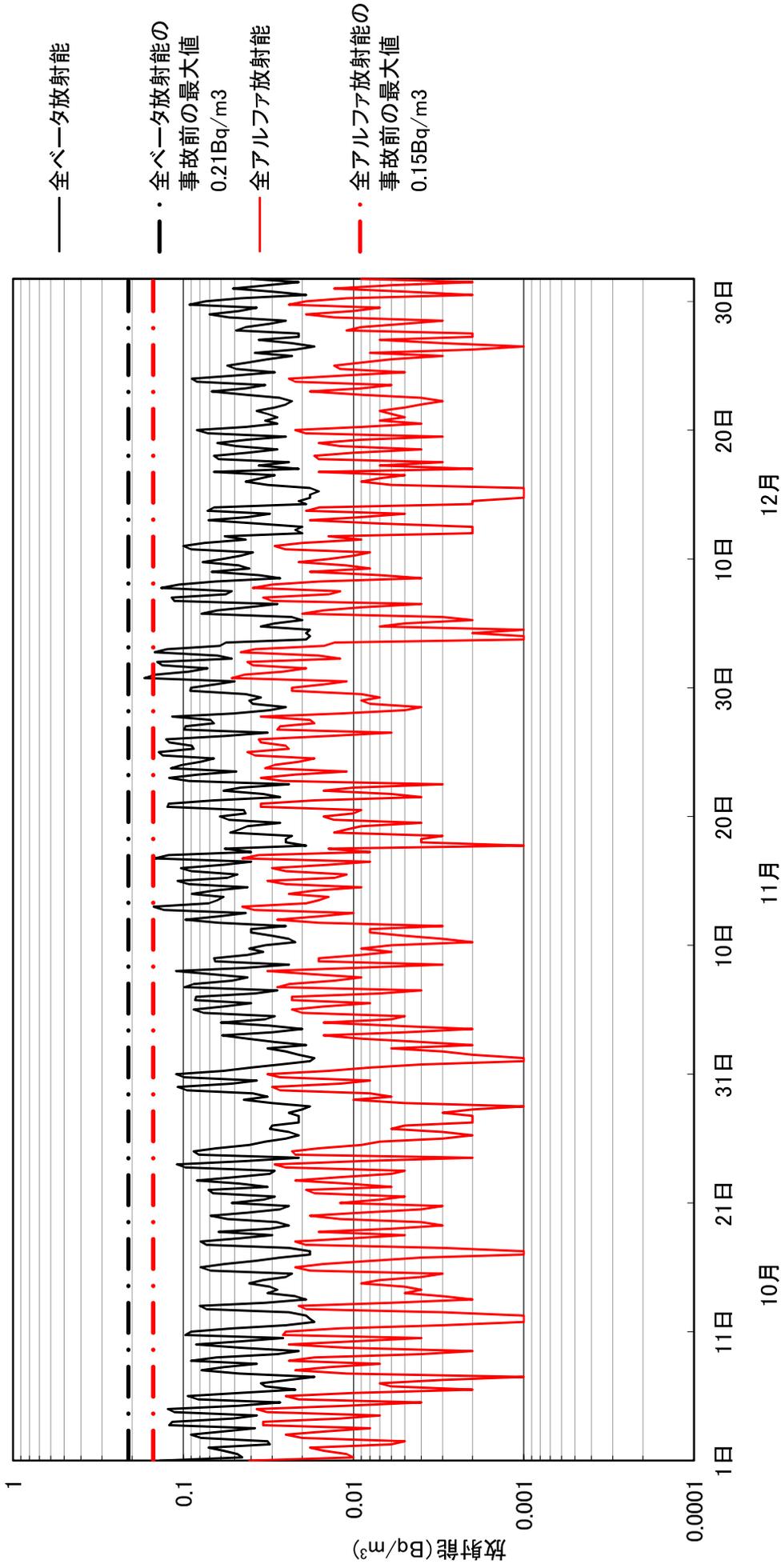


注) 全アルファ放射能は0.001Bq/m³より小さい場合には0Bq/m³となるため対数グラフに表示されない。

大気浮遊じんの全アルファ及び全ベータ放射能の推移

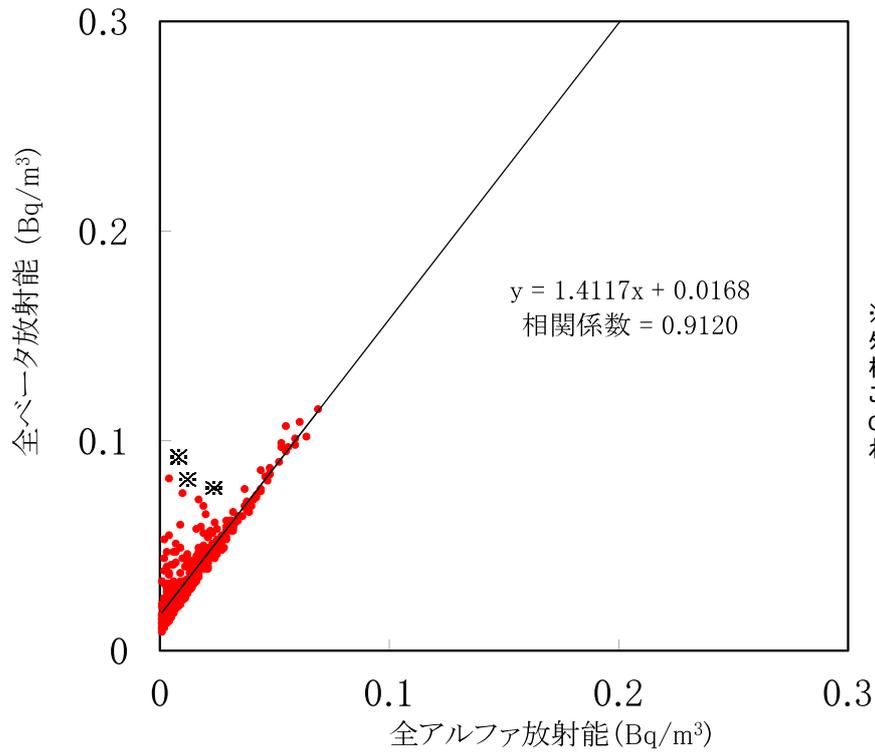
MP-7

(令和7年10月1日～令和7年12月31日)



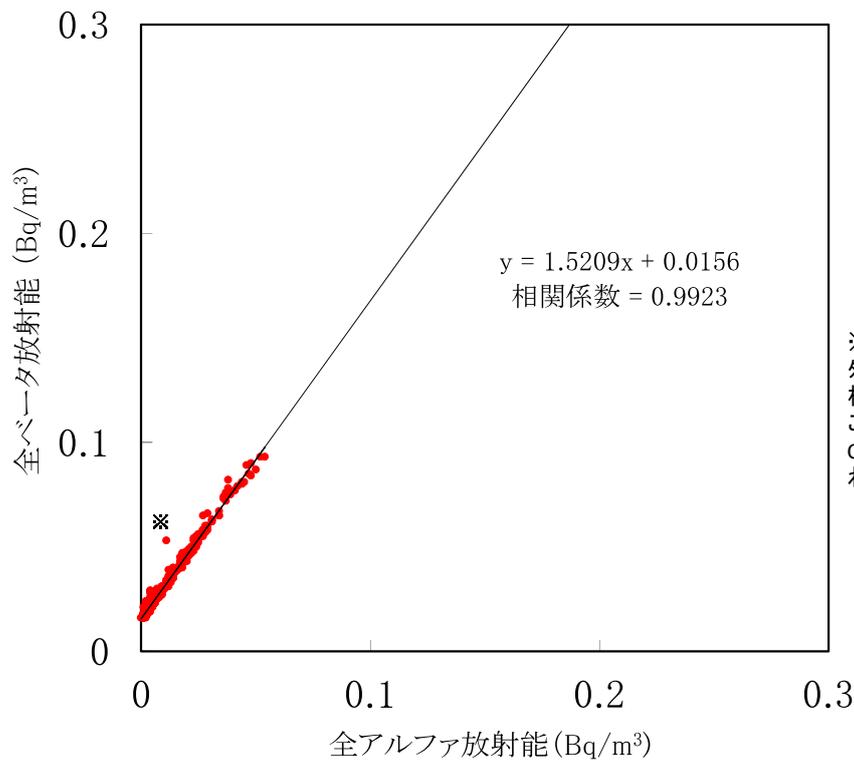
注)全アルファ放射能は0.001Bq/m³より小さい場合には0Bq/m³となるため対数グラフに表示されない。

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図
(MP-3)
(令和7年10月～令和7年12月)



※全アルファ・全ベータの相関から外れた試料については個別に核種濃度を測定している。この結果、Cs-137が検出され、Cs-134を含むその他の核種は検出されていないことを確認している。

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図
(MP-8)
(令和7年10月～令和7年12月)

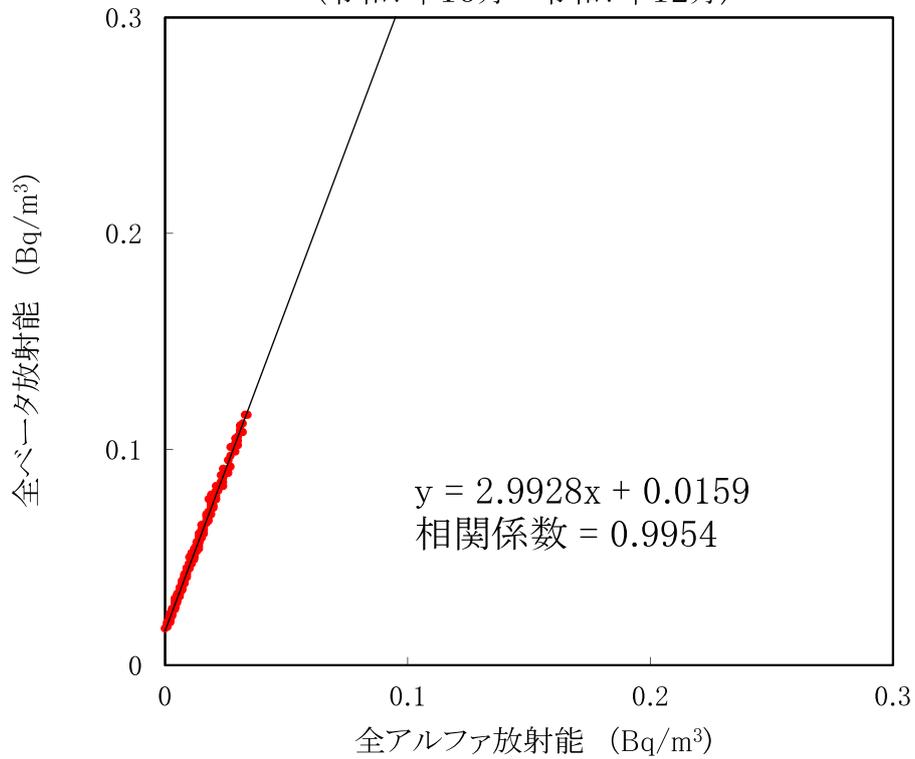


※全アルファ・全ベータの相関から外れた試料については個別に核種濃度を測定している。この結果、Cs-137が検出され、Cs-134を含むその他の核種は検出されていないことを確認している。

大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(MP-1)

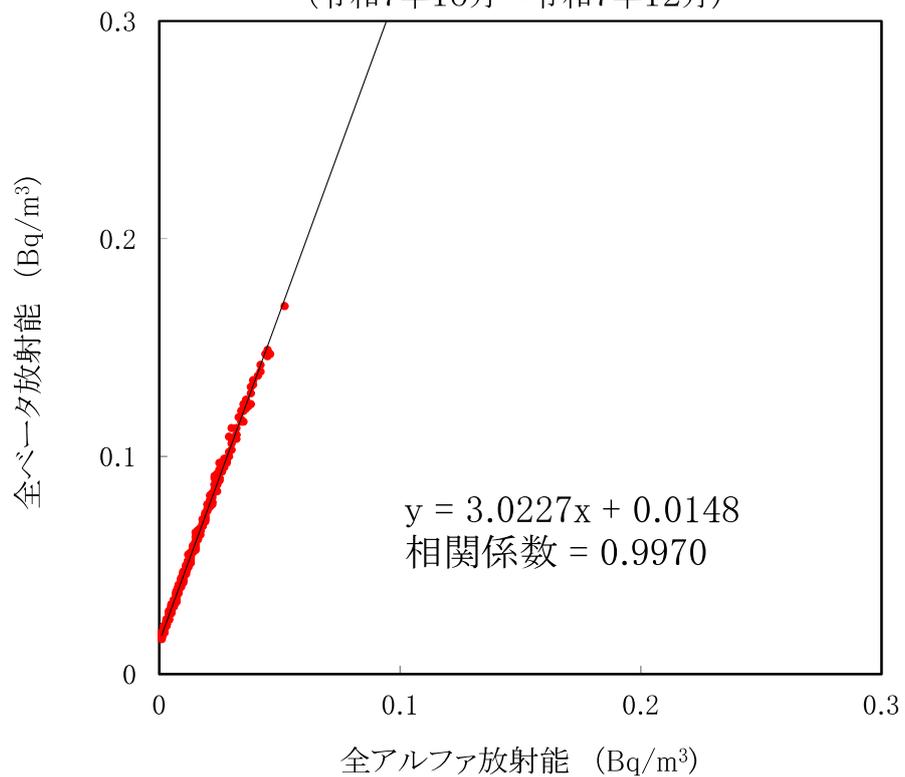
(令和7年10月～令和7年12月)



大気浮遊じんの全アルファ・全ベータ放射能の相関図

(MP-7)

(令和7年10月～令和7年12月)



＜参考＞地下水バイパスの評価
(令和7年度第3四半期)

(単位:Bq)

	核種別			備考
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	
地下水バイパス	ND	ND	8.5 × 10 ⁸	排水放射能(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L)〔排水前のタンクの分析結果〕に排水量(L)を乗じて求めている。 ⁹⁰ Srは全βでの評価値である。 なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 ¹³⁴ Cs、 ¹³⁷ Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は5Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は16,626m ³ である。

＜参考＞サブドレン他浄化設備の処理済水の評価
(令和7年度第3四半期)

(単位:Bq)

	核種別			備考
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	
サブドレン他 浄化設備の処理済水	ND	ND	3.0 × 10 ¹⁰	排水放射能(Bq)は、排水中の放射性物質濃度(Bq/L)〔排水前のタンクの分析結果〕に排水量(L)を乗じて求めている。 ⁹⁰ Srは全βでの評価値である。 なお、排水中の放射性物質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 ¹³⁴ Cs、 ¹³⁷ Csの検出限界値は1Bq/L未満、全βの検出限界値は3Bq/L未満または1Bq/L未満(10日に1回程度)である。 排水量は54,713m ³ である。

<参考>ALPS処理水の評価
(令和7年度第3四半期)

(単位: Bq)

	核種別				備考
	¹⁴ C	⁵⁴ Mn	⁵⁵ Fe	⁶⁰ Co	
ALPS処理水	5.2×10^8	ND	ND	5.6×10^6	排水放射エネルギー(Bq)は、排水前のタンク(測定・確認用設備)の放射性質濃度(Bq/L)に排水量(L)を乗じて求めている。 なお、排水前のタンク(測定・確認用設備)の放射性質濃度が検出限界未満の場合はNDと表示した。 排水量は 15.671m^3 である。 ※1 ⁹⁰ Sr/ ⁹⁰ Y放射平衡評価 ※2 ¹²⁵ Sb/ ^{125m} Te放射平衡評価 ※3 ¹⁵⁴ Eu相対比評価 ※4 全α放射能に包含されるものとして評価 ※5 ²³⁸ Pu相対比評価(²³⁸ Puを単体で定量できないため、全α放射能を ²³⁸ Puと見なして評価)
	⁶³ Ni	⁷⁹ Se	⁹⁰ Sr	⁹⁰ Y ※1	
	ND	ND	3.6×10^7	3.6×10^7	
	⁹⁹ Tc	¹⁰⁶ Ru	^{113m} Cd	¹²⁵ Sb	
	ND	ND	ND	2.5×10^6	
	^{125m} Te ※2	¹²⁹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	
	9.3×10^5	4.3×10^6	ND	3.1×10^6	
	¹⁴⁷ Pm ※3	¹⁵¹ Sm ※3	¹⁵⁴ Eu	¹⁵⁵ Eu	
	ND	ND	ND	ND	
	²³⁴ U ※4	²³⁸ U ※4	²³⁷ Np ※4	²³⁸ Pu ※4	
	ND	ND	ND	ND	
	²³⁹ Pu ※4	²⁴⁰ Pu ※4	²⁴¹ Am ※4	²⁴⁴ Cm ※4	
	ND	ND	ND	ND	
	²⁴¹ Pu ※5	³ H			
	ND	4.3×10^{12}			

＜参考＞トリチウム年間放出実績

(令和7年度第3四半期までの積算)

	³ H
5号機排水口	排水実績なし
6号機排水口	排水実績なし
ALPS処理水	1.4×10^{13}
地下水バイパス	2.7×10^9
サブドレン他浄化設備の処理済水	9.6×10^{10}
合計	1.4×10^{13}
年間放出管理の基準値	2.2×10^{13}

(単位: Bq/年)

<参考>サブドレン排水実績

(令和7年度第3四半期)

運用目標値	^{134}Cs	^{137}Cs	全 β	^3H
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m ³ 】	^{134}Cs 【Bq/L】	^{137}Cs 【Bq/L】	全 β 【Bq/L】	^3H 【Bq/L】
10月2日	827	<0.75	<0.51	<0.69	630
10月3日	782	<0.84	<0.82	<1.6	680
10月4日	751	<0.94	<0.56	<1.8	650
10月6日	724	<0.76	<0.77	<0.66	710
10月7日	691	<0.58	<0.71	<1.7	650
10月9日	661	<0.66	<0.73	<1.8	700
10月10日	663	<0.88	<0.54	<1.9	600
10月12日	656	<0.92	<0.63	<1.5	730
10月13日	589	<0.64	<0.82	<2.0	660
10月15日	600	<0.62	<0.61	<0.65	720
10月16日	623	<0.75	<0.61	<2.1	610
10月18日	666	<0.67	<0.68	<1.9	690
10月19日	650	<0.93	<0.74	<1.9	640
10月21日	913	<0.82	<0.86	<1.6	610
10月22日	912	<0.69	<0.54	<0.64	590
10月24日	957	<0.68	<0.75	<1.9	600
10月25日	1016	<0.69	<0.61	<1.6	530
10月28日	1012	<0.75	<0.68	<1.6	490
10月29日	1014	<0.81	<0.47	<1.9	550
10月31日	1022	<0.81	<0.89	<0.59	440
11月1日	1009	<0.81	<0.77	<1.8	510
11月2日	868	<0.56	<0.51	<1.9	510
11月3日	1011	<0.62	<0.61	<1.9	530
11月4日	854	<0.69	<0.61	<1.8	470
11月5日	1020	<0.81	<0.82	<2.0	410
11月6日	856	<0.75	<0.82	<0.60	420
11月7日	992	<0.53	<0.56	<2.1	430
11月8日	720	<0.82	<0.62	<2.1	470
11月9日	1014	<0.75	<0.77	<1.7	340
11月10日	825	<0.81	<0.55	<2.1	410
11月11日	1008	<0.82	<0.74	<1.7	440
11月12日	1013	<0.75	<0.67	<1.9	460
11月13日	827	<0.69	<0.69	<1.8	490
11月14日	1009	<0.65	<0.59	<0.75	550
11月14日	1027	<0.87	<0.83	<1.8	490

<参考>サブドレン排水実績

(令和7年度第3四半期)

運用目標値	^{134}Cs	^{137}Cs	全 β	^3H
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m ³ 】	^{134}Cs 【Bq/L】	^{137}Cs 【Bq/L】	全 β 【Bq/L】	^3H 【Bq/L】
11月15日	714	<0.75	<0.57	<1.8	480
11月16日	757	<0.56	<0.47	<1.8	500
11月18日	753	<0.75	<0.86	<2.0	620
11月19日	984	<0.57	<0.89	<2.0	620
11月19日	997	<0.81	<0.68	<1.8	440
11月20日	869	<0.62	<0.65	<1.9	630
11月20日	704	<0.81	<0.56	<2.0	620
11月21日	959	<0.75	<0.62	<2.0	550
11月22日	760	<0.82	<0.63	<1.8	560
11月23日	747	<0.67	<0.51	<0.67	510
11月25日	702	<0.69	<0.65	<1.9	520
11月26日	763	<0.62	<0.61	<1.9	590
11月27日	928	<0.81	<0.85	<1.8	550
11月28日	587	<0.72	<0.64	<2.1	550
11月30日	998	<0.62	<0.57	<0.56	570
12月1日	1010	<0.67	<0.59	<1.7	520
12月3日	580	<0.69	<0.57	<1.7	550
12月5日	799	<0.93	<0.92	<1.9	540
12月6日	758	<0.52	<0.57	<1.9	560
12月7日	507	<0.62	<0.57	<0.68	560
12月10日	642	<0.69	<0.86	<1.8	610
12月11日	524	<0.90	<0.82	<1.8	620
12月13日	514	<0.75	<0.82	<1.7	640
12月14日	499	<0.72	<0.59	<0.71	690
12月16日	487	<0.67	<0.56	<1.9	690
12月17日	462	<0.80	<0.57	<1.9	580
12月18日	720	<0.77	<0.81	<2.0	550
12月20日	645	<0.67	<0.72	<1.8	480
12月21日	438	<0.72	<0.71	<0.71	480
12月24日	510	<0.61	<0.61	<1.8	710
12月25日	514	<0.68	<0.67	<1.9	690
12月26日	491	<0.58	<0.79	<1.8	630
12月27日	474	<0.73	<0.56	<1.6	710
12月28日	668	<0.64	<0.74	<2.0	610
12月29日	752	<0.68	<0.68	<0.69	520

＜参考＞サブドレン排水実績

(令和7年度第3四半期)

運用目標値	^{134}Cs	^{137}Cs	全 β	^3H
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	3Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m ³ 】	^{134}Cs 【Bq/L】	^{137}Cs 【Bq/L】	全 β 【Bq/L】	^3H 【Bq/L】
12月30日	715	<0.69	<0.51	<1.9	570

<参考>地下水バイパス排水実績

(令和7年度第3四半期)

運用目標値	^{134}Cs	^{137}Cs	全 β	^3H
	1Bq/L未満	1Bq/L未満	5Bq/L未満※	1500Bq/L未満

※(10日に1回程度の頻度で1Bq/L未満であること)

排水日	排水量【m ³ 】	^{134}Cs 【Bq/L】	^{137}Cs 【Bq/L】	全 β 【Bq/L】	^3H 【Bq/L】
10月2日	1582	<0.53	<0.56	<0.59	45
10月9日	1582	<0.75	<0.81	<0.57	44
10月16日	1567	<0.82	<0.70	<0.69	46
10月23日	1507	<0.53	<0.65	<0.62	42
10月31日	1608	<0.75	<0.63	<0.63	43
11月6日	1610	<0.97	<0.73	<0.72	38
11月18日	1684	<0.58	<0.78	<0.66	63
11月27日	1427	<0.75	<0.51	<0.65	62
12月8日	1526	<0.53	<0.76	<0.75	59
12月18日	1483	<0.75	<0.67	<0.58	63
12月25日	1050	<0.68	<0.67	<0.59	62

<参考>ALPS処理水排水実績
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)
 (令和7年度第3四半期)

運用の上限値	³ H※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の³H濃度)

排水日	排水量【m ³ 】	海水希釈水量【m ³ 】	³ H【Bq/L】※
10月29日	-	149278	-
10月30日	240	340128	260
10月31日	456	340128	290
11月1日	456	340128	270
11月2日	456	340128	270
11月3日	456	340128	310
11月4日	456	340128	290
11月5日	456	340128	290
11月6日	456	340128	280
11月7日	456	340128	270
11月8日	456	340128	260
11月9日	456	340128	270
11月10日	456	340128	270
11月11日	456	340128	270
11月12日	456	340128	280
11月13日	456	340128	280
11月14日	456	340128	280
11月15日	456	340128	260
11月16日	278	340128	240
11月17日	25	215414	<7.4
11月21日	-	64955	-
12月2日	-	189669	-
12月3日	-	340128	-
12月4日	242	340128	320
12月5日	456	340128	350
12月6日	456	340128	340

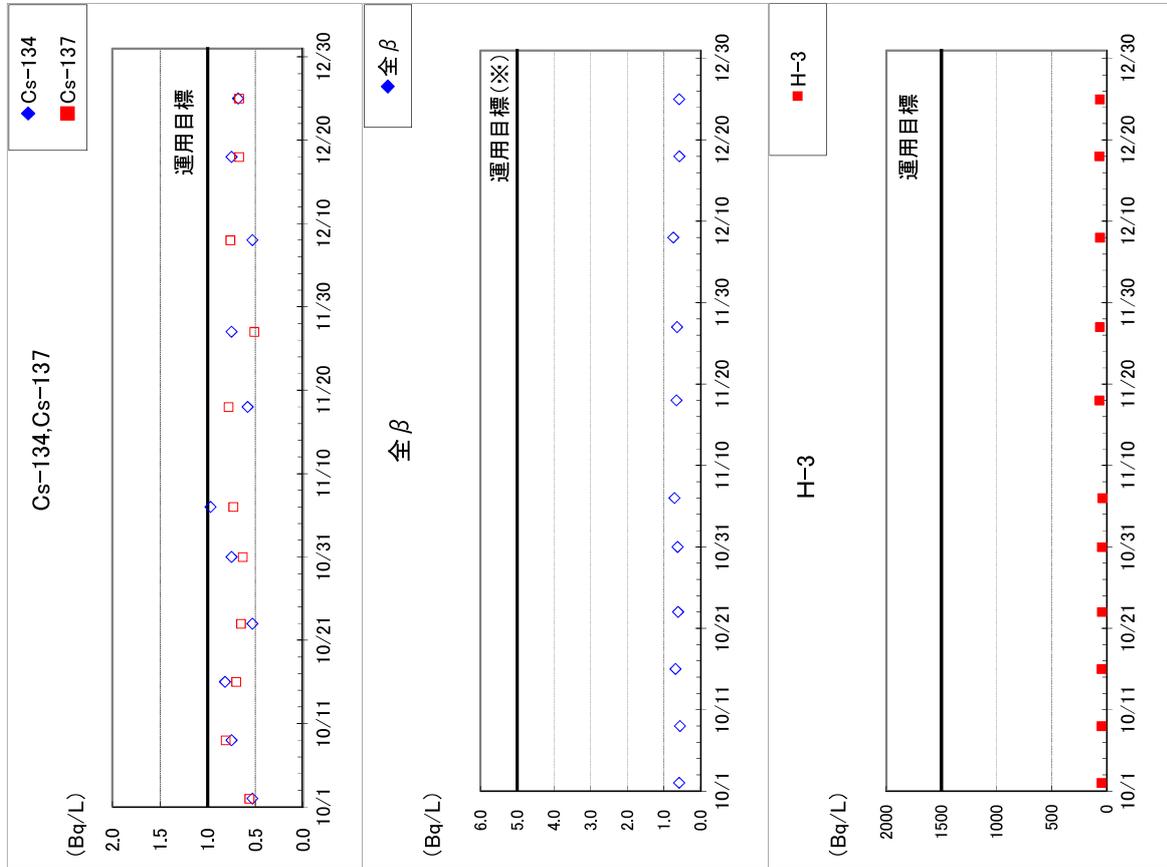
<参考>ALPS処理水排水実績
 (放水立坑(上流水槽)上流海水配管)
 (令和7年度第3四半期)

運用の上限値	³ H※
	1500Bq/L未満

※(希釈後の³H濃度)

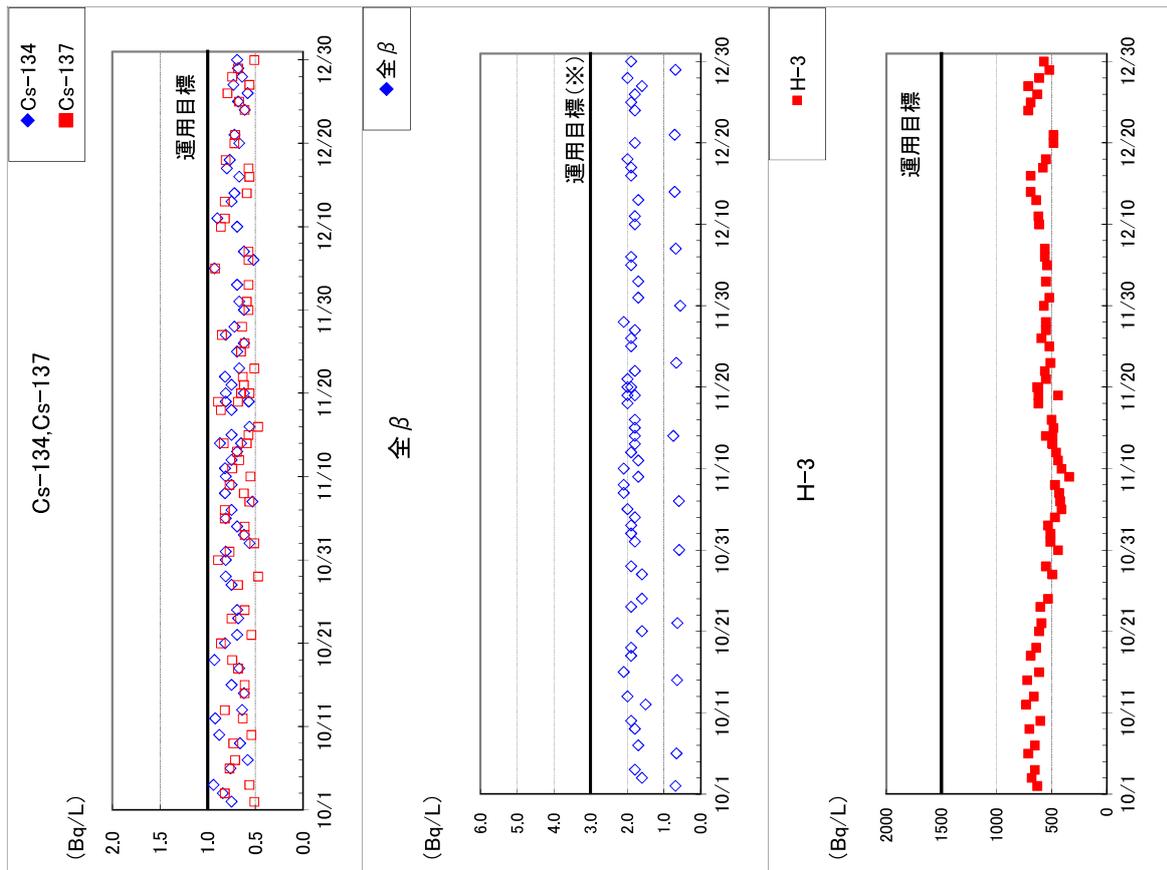
排水日	排水量【m ³ 】	海水希釈水量【m ³ 】	³ H【Bq/L】※
12月7日	456	340128	360
12月8日	450	338593	350
12月9日	179	148334	320
12月10日	456	340128	350
12月11日	456	340128	320
12月12日	456	340128	330
12月13日	456	340128	330
12月14日	456	340128	310
12月15日	456	340128	300
12月16日	456	340128	310
12月17日	456	340128	320
12月18日	456	340128	330
12月19日	456	340128	330
12月20日	456	340128	320
12月21日	456	340128	320
12月22日	125	202778	<7.6

地下水バイパス排水実績(令和7年度第3四半期)

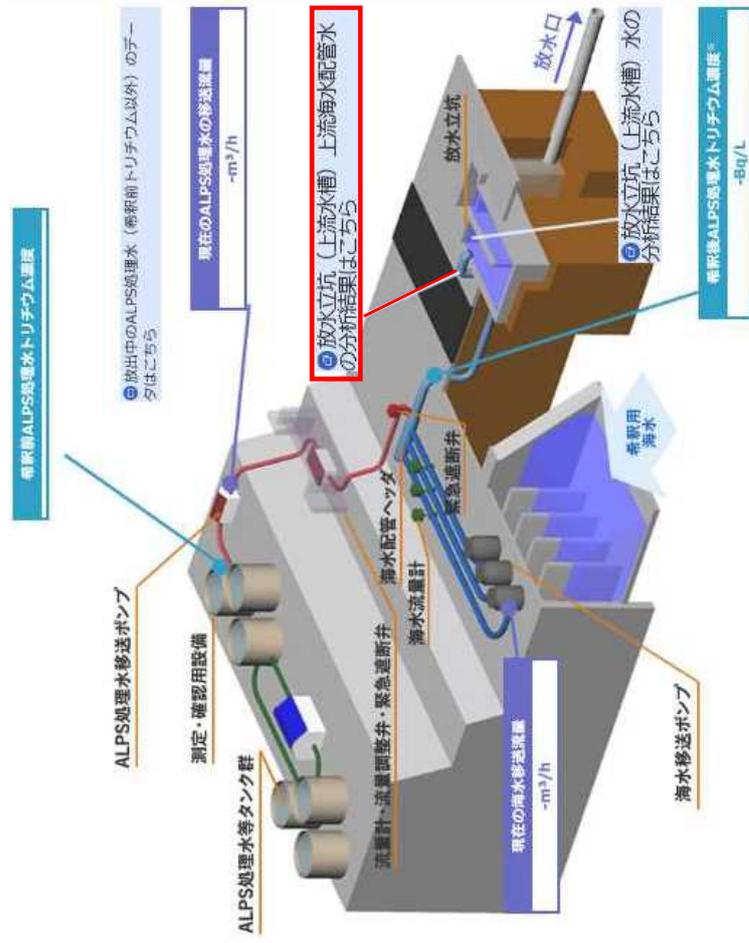
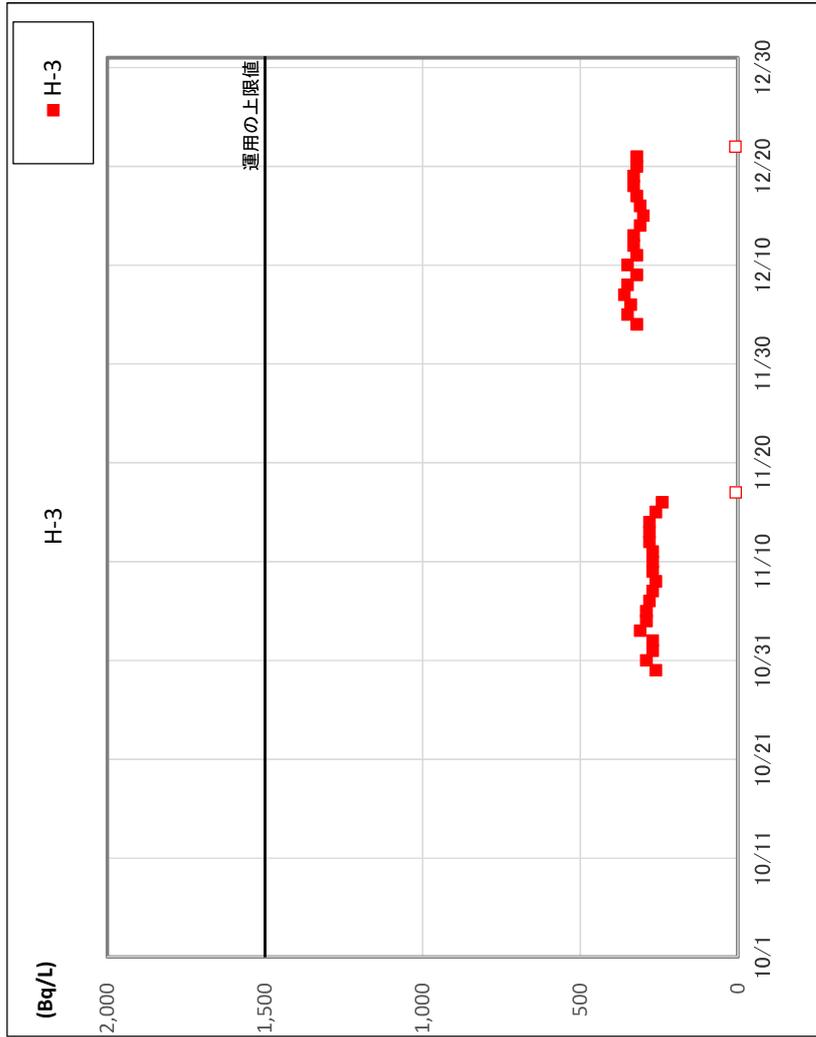


*:白抜きのプロットは検出下限値未満であるため、検出下限値をプロットしている。
※:10日に1回程度の分析では、検出限界値を1Bq/Lに下げて実施

サブドレン排水実績(令和7年度第3四半期)

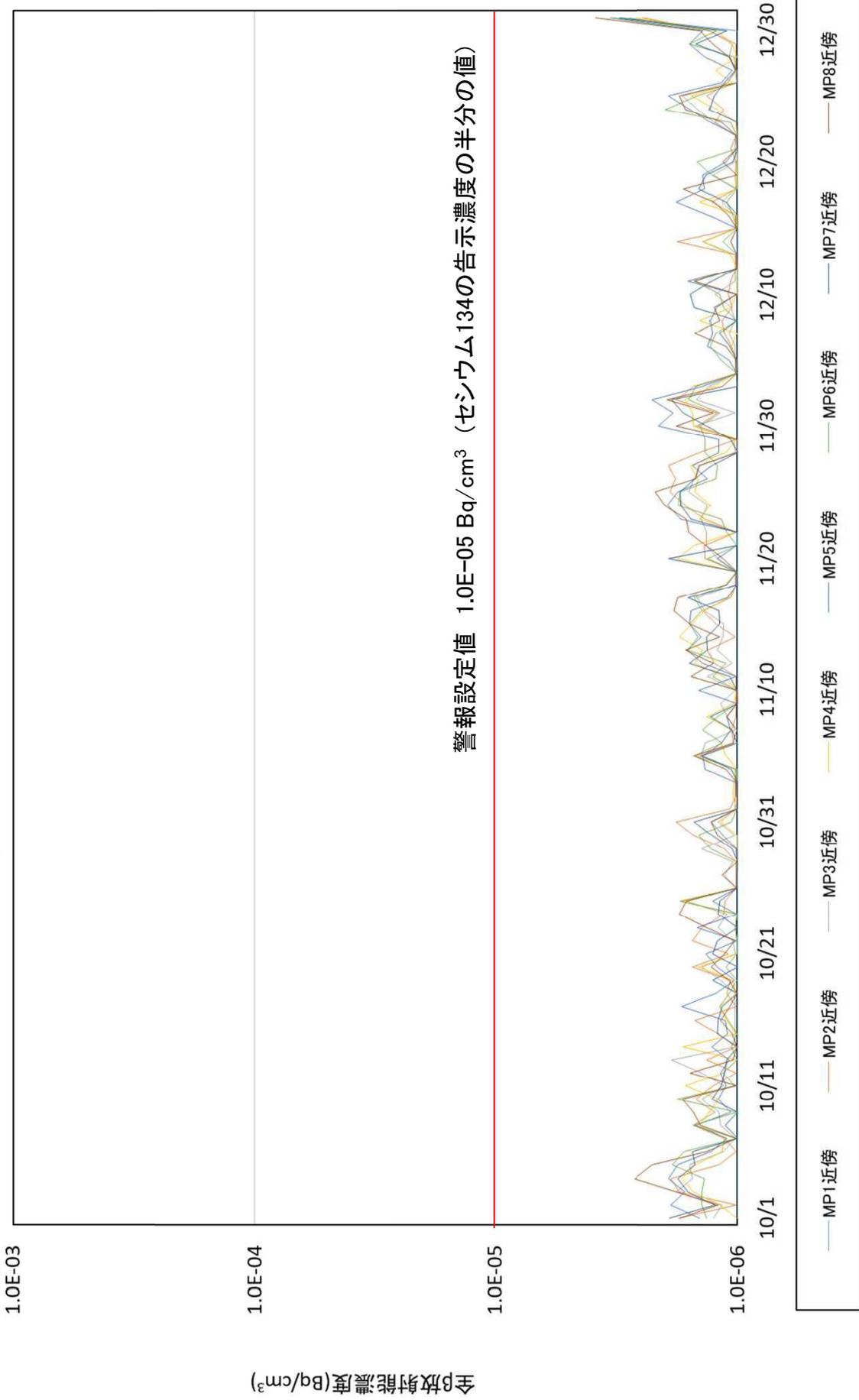


ALPS処理水排水実績（令和7年度第3四半期）
 （放水立坑（上流水槽）上流海水配管水）



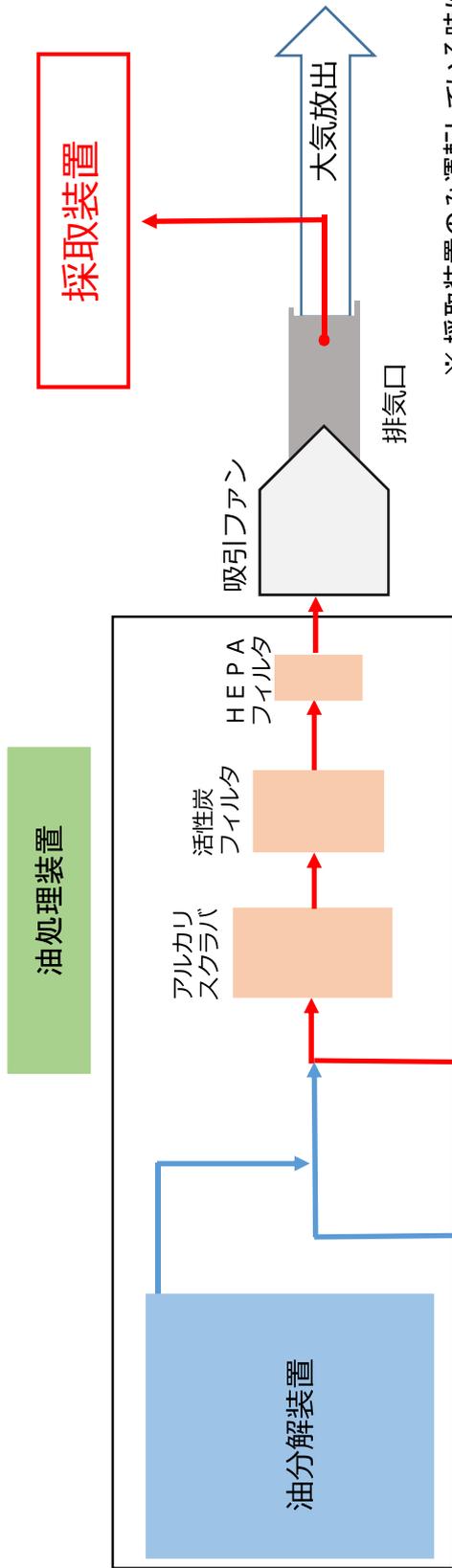
＜参考＞福島第一原子力発電所 敷地境界近傍ダストモニタ指示値

(2025/10/1～2025/12/31)



グラフ値は日最大値を記載(5分正時の値)

〈参考〉 福島第一原子力発電所 油処理装置排気口の採取方法について



※ 採取装置のみ運転している時は、大気中のダストを吸引している。天然核種以外はHEPAフィルタ等で除去され、直接採取装置に捕集される。そのため、除去できない天然核種が検出されることがある。
 また、運転期間が短い際は、検出下限濃度を下げたため、分析時間を延長し測定を実施しているため、同様に天然核種が検出されることがある。